



336
201



始





貴族院議員
文學博士 澤柳政太郎序文
獨逸ドクトルグスタフ・シュモラー原著
文學士 山田伊三郎譯補

國民經濟學原論 第八冊 總覽

大正 5. 9. 5 內交

東京

合資會社 富山房發兌

總覽

「シムモラー」原論の譯補、逐次刊行せられ、こゝに第八冊を以てその第四卷前半を紹介せんとす。顧みれば譯補第一冊概論は國民經濟學樹立の基礎を研究して「シムモラー」が立脚點の存する所を闡明し、その第二冊要素に於ては廣汎なる「シムモラー」の見地より觀察して國民經濟學が當然收拾すべき知識領域並に關係範圍を劃定し、その第三冊及び第四冊即ち總じて組織はかく觀じかく察したる國民經濟古來の發展形式を討尋して最近現象たる企業の得失利害を披瀝し、その第五冊第六冊及び第七冊即ち總じて運営は經濟形式の運用過程を説明し、主としてこゝに所謂舊派經濟學の偏頗と誤謬とを矯め、舊派經濟學の取扱ひたる事項に就き且つはその看却したる所を新たに補充し、乃ちもとより大體ながら而かも個々形式に就きて直に國民經濟隆替の關する所が有形無形に廣汎なる領域に互り、豆大眼識の遂に以て正鵠を失すべきことを指摘したり。

さて第四卷は上來の陳述を承けてこれを總説し、殊にその前冊即ち本冊は一に國民經濟の動搖及び恐慌、二に階級競争、階級支配及びその國家、法律及び改革に俟てる抑壓を收め、即ち國家社會生活全體の一般的運動とこれに處するの

向内的總政策とを概説せり。それ社會現象の發展は内に向ひ又外に對する動搖と恐慌とに因縁し、波瀾重疊、遂に文明上の優者の支配に歸し將た然かせしめざる可らず。而して始めて動搖と恐慌とは善果を齎らすことを得べし。これに關し歐洲文明は古來何事を経験し現に如何なる政策を樹立するに至れるか。地は東西に相隔り歴史も亦同じからずと雖も、思ふに此の間我が國民の參照反省すべきもの尠少ならず。

二

大正五年五月

山田伊三郎識

目次

第四卷

國民經濟生活一般の發展 (前冊)

- 一 國民經濟の動搖及び恐慌……………一
- 二百三十七 第四卷概論、國民經濟の動搖の必然性、一般的原因——二百三十八 分業的國民經濟に於ける生産と消費との調節——二百三十九 貨幣經濟、信用、市場投機及び相場投機の販路停滯に及ぼす影響——二百四十 近世文明國民の間に於ける景況變動の模型的過程——二百四十一 最近二百年間に於ける隆替運動の歴史的概観——二百四十二 從來の恐慌論及び恐慌に關する文献——二百四十三 總批判、經濟的動搖及び停滯將た恐慌の種類——二百四十四 恐慌の抑壓及び緩和、恐慌政策

二階級競争、階級支配及びその國家、法律及び改革に
俟てる抑壓……………二九

二百四十五概論、國家と社會階級全般との關係、最古の階級關係——二百
四十六希臘に於ける階級對立及び階級競争——二百四十七羅馬社會史——二百
四十八中世時代の階級史を叙して第十五世紀に及ぶ、封建的農業的階級、
都市の階級——二百四十九第十九世紀に及ぶまでの近世階級史、王政及び地
方貴族、騎士階級及び農民——二百五十第十九世紀に於ける歐洲階級史、市
民、工業労働者、社會共和黨、其他の階級——二百五十一階級競争、階級支
配及びこれが抑壓——二百五十二社會の總發展、現在の狀態

第四卷 目次 (前冊)終

國民經濟學原論

シ・モラー 原著
山田伊三郎 譯補

第四卷 國民經濟生活一般の發展

一 國民經濟の動搖及び恐慌

二百三十七

第四卷概論、國民經濟の動搖の必然性、一般的原因。吾人は
既に概論(譯補第一冊)に於て國民經濟の基礎を、第一卷(譯補第二冊)に於て國民經
濟の大量現象を、第二卷(譯補第三冊及び第四冊)に於て國民經濟組織の個々部門
及び個々形式を、而して第三卷(譯補第五冊第六冊及び第七冊)に於て財分配過程

の諸ろ形相及び結果并に其模型的現象形式を、歴史的倫理的及び發展史的立脚點より論述したり。今や更に進んで同一見地より國民經濟生活一般の發展を觀察し、而して吾人の國民經濟的認識を總括せざる可らず。さてこゝに問題とする所は斯學の最も困難なる究竟論點なるが。果して能くその一般的論點に對し全然信賴すべき底の解答を得べきかは疑問の存する所たり。この目的を遺憾なく貫徹せんことは姑く措き、少なくともこの目的に接近し得べき方法として、何はさて置き吾人は先づこの問題をその個々部分に分解し、而してそれぞれ部分の且つ廣汎にして且つ困難なるとは言はでも知るきことながら、尙ほ現に既に何れも浩幹なる科學的文献史を發達し幾多の研究に依りて闡明せられ、從てその範圍限界が一般國民經濟的發展問題としてこれに科學的説明を下すことを容すが如き部分を差當り抽象的に觀察することに向はざる可らず。

さてこゝに重要問題とする所は事實若しくは發展の三大系列にして。第一に凡そ諸種族及び諸民族の經濟生活は月に年に無數の攪亂及び動搖をなし、その總隆興と總衰頹とが一上一下の運動をなせること、劈頭に論述せんとする恐慌

論これなり。第二に凡そ高尚なる國民經濟生活は諸ろ社會階級の努力及び競争の貌を示せること、この故に吾人は階級競争論、階級支配及びこれが抑壓に關する論議を看却す可らず。第三に凡そ諸種族及び諸民族はそれぞれ經濟的統一體として或る制度に依りて組織せられ、この制度を支柱として隣近種族將た異民族と統一的に經濟的利害競争をなせることは是れなり。國家及び國民經濟の關係は商業政策を以て樞點となし、殊に最近世紀の間に總じて實際的經濟生活并に國民經濟學の學派は商業政策に依りて支配せられたり。商業政策の論議は第四卷第三章(譯補第九冊)に於て吾人の取扱はんとするもの、商業政策の當否は過古現在を問はず實に民族及び國家一般の盛衰興亡を左右する最も重要な原因たり——不取敢恐慌論より攻究を始むべし。

技術の進歩状態并に個々人の爲めにする組織を備ふる社會群の共同的救濟方法が愈々幼稚なれば、凡そ經濟的存立は益々恒常性を失ひ且つ不確實とならざる可らず。既に氏族、種族及び家族が自ら進んで或る職能を實行することゝなれば、依て經濟的存立は改善せられ不幸及び不時の變に對してやゝ安固に保證

せられ。更にこれが爲めに都市組織、領域組織及び國民經濟組織、將たその分業及び交通の發達するに伴ひ、曩時に起りたるが如き危険及び不祥状態は益々排除せらる。

然れども到底は曩時の經濟的需給が遭遇したりしが如き大困難が現に尙ほ幾分存在し若しくは毫も輕減せられざるのみならず、更に復雜なる大社會組織それ自體に附帶せる困難の新たに加はり來るものあり。たゞ經濟的需給の一小部分に限りては漸次に共同團體、州縣、教會將たあらゆる結社より、而して遂には國家それ自體より計畫的に實行せられざるにあらざりき。されどもその然りし限り此等機關が果して能く經濟的需給の任務を遺憾なく遂行し得たるかは尙ほ疑問たり。爾他の部分然り著大部分は家族に委せられざる可らず、次では企業に委せられざる可らざりき。然るに凡そ此等の個々機關はそれ自體の爲めに自家の識見と利害と營利期待とに準じてこの任務に當り、而して市場に於ける供給及び需要の自由運動は相場の騰落に従て需給を正當に調節すべし。さてこの二類の社會機關(家族及び企業)が如何なる程度まで正當に協合作用するか將た

それぞれ機關は果して正當にこの職能を遂行するかは常に問題の存する所たり。人口運動、一切の交通、一切の生産、一切の消費は無限に復雜せる總組織をなし、社會民衆及び勞働者階級の個々人は、よし或る統一的總原因に従て或る一致運動に出づることは則ち否認すべからざれども、それと同時に又その運動は必然的に千差萬別、相互の間に屢々調和を欠き交叉し矛盾せずんばならず。人口は増加して生産及び交通は則ち急劇にこれと歩調を一にせざること屢々これあり。分業は増進し而かもこの増進分業を圓滑に發達せしむべき社會形式は則ちこれに伴はざるなり。或る領域に技術の進化ありて爾他領域には則ち然らず。要之吾人の左顧右眄する所隨處に或る種の不調現象を認めずんばあらざるなり。而してこの不調現象を排除するの過程は實に社會生活の全内容たり。若しそれこれを然らずと言ふが如きは蓋し不通の言なり。既に苟くも有機的體制の發達は通じて何れも類似の不調現象を呈し、而してこの不調現象は停滯、不快、疾病として感ぜられ、これに次ぐに反動を以てして漸次に再びこの不調現象は排除せらる。然るを況んや人間社會體制の發達に於てをや。

若し全經濟生活が停滯不變に、人口の増加もなく、組織形式、欲望、技術にも新發展なき社會ならば、思ふにその經濟界の攪亂及び動搖も亦起らず或は全く認む可らざるべし。舊派抽象國民經濟學は暗黙の間に若しくは誤解に陥りてかゝる不變社會狀態を假定すること一再にあらず、而してこれ少なくとも推移時なき歴史的變動過程を正當に理解せざりしや言を須たず。

吾人は差當り外部より來る所の最も單純なる二三の原因を抽象して以て豫じめこれを闡明し。而して後分業益々複雑となるに應じて絶えず生産と消費とを均衡ならしむるの困難を分析し(次節)、更に進んで貨幣と信用とが如何に市場關係及び相場關係に作用し、依て以て如何に不當相場を生じ將た群集心理學的原因に依りて如何に相場勝貴を來たすかを攻究せんと欲す。二百三十九。此等の準備研究を以て近世經濟恐慌の概念とその模型的廻期過程とを確立し。二百四十一、而して二百四十一にその歴史的概觀を明かにし、次に二百四十二に從來の恐慌論を開陳し、二百四十三にこれに對する總批判を提説し、而して以て二百四十四に恐慌政策に關する若干の注意を與へて本章(國民經濟の動搖

及び恐慌)を結ばんとす。人口が曩時如何に動搖し、疾病、飢饉、戰爭の爲めに一時的に如何に減退を來たせるかに就ては吾人先きに本譯補の第二冊 七十二乃至 七十三に叙述したり。舊時の人口運動は突發的にして忽ちに劇増し而して又忽ちに減退を蒙り。中世時代にありて一都市の住民數は屢々二十年乃至四十年間に倍加し、而後更に急劇なる減退を來たせり。傳ふる所に依れば當時に於ける手工親方及び手工職人の數の動搖は、現在に於けるこれに類似せる職業者のそれよりも遙かに著しく且つ屢時の現象なりき。需要及び販路の増減消長も亦これに應じて急劇且つ著大なるべきは必然の理なり。而して實に大疫病、大戰爭、將た平和より戰爭となり戰爭終結にて再び平和に進むの過渡時期の爲めに需要の數量と種類とが著しく影響を蒙ることは現代に及ぶまで然り、その結果は必らずや大攪亂狀態を呈せざんばならず。千七百六十三年以降のブローイ

セン恐慌、千八百十五年以來の英蘭恐慌は何れもこれが結果なりき。最も重要なる經濟的欲望即ち食料は、人類が始めて農耕を營み動物馴致のこ

動植物の繁殖に繋がる偶然的災害に左右せらるゝは今猶ほ舊の如し。こゝを以て先きにも本譯補の第五冊 **百七十六** に叙述したる如く、幼稚なる人種は何はさて措き能く長期間飢渴に耐へ而して偶々良收獲に當りて貪食飽くなく以てその生命を維持するの術を講せざる可らざりき。傳ふる所に依ればブシニマンは貪食性と耐飢性とに就ては猛獸にも劣らざる胃腑を有せりと稱せられ、ヤクローン(土耳其鞑靼族)は約そ四十磅の肉を能く一日に食ひ盡すと稱せらる。身心の發達益高尚となるに従ひ愈均等の營養は最も必要となる。麵麩及び其他澱粉質食料の平均消費額は、例へば巴里に於て千八百五十年乃至千八百六十年の間プロイセン諸市に於けるよりも一層均等なりき。麵麩の平均消費は何處にこれを觀るも肉のそれよりも均等不變なり。然らばこれに對し生活資料調達の可能性は何なる關係を示せるかと顧みるに。先づ穀物の收穫が今日と比し曩時に於て動搖遙かに較著なりしことは明白なり。從て人類も亦時々凶作に依て至大災害を蒙れり。支那及び印度に於ては最近世紀に至りて尙ほ反覆して數百萬人の餓死者を出せり。現今歐羅巴にありては農業及び商業の改善發達したる結果とし

てかゝる不祥現象は不可能となれり。さりながら收穫の豊凶が極めて憂慮すべき事項たることは今日に至るも毫も變なし。例へば佛蘭西に於る小麥の收穫は、千八百十七年に四千八百萬ヘクトリイテ、千八百十九年に六千四百萬ヘクトリイテ、千八百二十年に四千四百五十萬ヘクトリイテ、千八百五十三年に六千三百萬ヘクトリイテ、千八百五十七年に一億一千万ヘクトリイテ、千八百九十年に九千百萬ヘクトリイテ、千八百九十一年に五千四百萬ヘクトリイテと計上せられ。「フランス」に依れば千八百七十一年乃至千八百八十八年の間國內にて販賣せられたる小麥總額は聯合英王國を合して六百四十萬乃至千二百九十萬クオターの間に動搖せり。「エンゲル」はプロイセンに就て千八百四十六年乃至千八百六十七年の間ライ麥の收穫は平均を一〇〇と假定し一二乃至六五の間に動搖せりと算したり。然り而して歴史的自然科學的研究のやゝ確實に證明したるが如く、概して豊年及び凶年の一系列が直接に繼時的に起り、屢四年乃至十年にして相交互し、加之屢四十年乃至五十年の間に豊年少なく凶年甚しく多く若しくはその逆なる場合に、收穫動搖より蒙る所の結果は愈以て憂慮

せざる可らず。舊時代及び新時代に關するこれが證據は僅かに二三に過ぎず。
 「ランプレヒト」に依るにライン州に於ける一マルタルの麥粒は、第十四世紀の間に銀五十五グラム、千四百年乃至千四百五十年に三十七グラム、千四百五十年乃至千四百七十五年に二十六グラム、千四百七十五年乃至千五百年に十七グラム。カンニンガムに依れば英蘭に於て小麥一クォーターは千七百年乃至千七百二十五年に四十四乃至四十五シリング、千七百二十五年乃至千七百五十年に二十九シリングなり。千七百二十年乃至約千七百六十年の間西歐羅巴及び中央歐羅巴の大部分に亘れる農業上の恐慌は穀物相場の下落に因し、而してト、トクは始めてこれを明瞭に證明したり。凶年、交通杜絶及び競争突發が千七百八十九年乃至千八百十五年の間相場を暴騰せしめたる後、千八百十五年來主として千八百十八年來再び平和となり且つは農業上及び農政上の進歩ありて引き續き再び收穫の増加あり、爲めに地主及び借地人の愁訴と破産と繼で起り。レの言ふ所に依れば當時英蘭は貧困なる小農民の著大部分を失へり。土地相場及び小作相場は獨逸に於て幾分一〇乃至三〇プロツェント幾分は五〇プロツェント

の下落ありき。ベルギエンに於て百キログラムのライ麥は千八百〇一年乃至千八百十年に一八三〇マルクなりしに、千八百二十五年には下落して六〇一マルクとなれり。西部プロイセンにありては騎士采邑の殆んど二分の一は他人の手に移り。リッターウエンにありては千八百二十二年に一千六百の農民所有地の中一千は權利移轉せられたり。最近四五十年の間に觀察するも亦一世界商業の發達に依り廣く相殺均勢せらるゝにも拘らず一多年間に亘りて收穫の動搖は尙ほ止まず。而してこれを以て太陽斑點及び太陽熱の變化に因せりと認むるもの若しくは然らざるものに論なく、この動搖とその相場及び總需要に及ぼす影響とが廻期的恐慌と直接に平行せりと觀せざる者はなし。收穫動搖が爾他商品の需要に如何に影響するかは、例へば千八百九十五年に獨逸農民の穀物收入が千八百五十年乃至九十年の相場に比し若しくは千八百九十二年の状態に比し四億マルク乃至五億マルク減額したる事實に察せば既に明瞭なるべし。穀物以外の培養耕作も亦著大の影響あり。即ち例へば千八百四十五年以來の馬鈴薯病、近時にありては佛蘭西に於て大部分の葡萄園を暴したる食葉蟲、屢絹絲收穫の大部分

を損ぜしむる蠶蟲病の如き、全國土及び全地方の食物供給及び富の状態に甚大の影響を及ぼしたり。バーデンに於て葡萄収益の平均額は五十萬ヘクトリテ
ルにして千八百八十年のそれは十萬ヘクトリテ、千八百七十五年のそれは
實に百五十萬ヘクトリテに上れり。近世世界商業の發達に伴ひ、この種原
資料に繋かる輸入及び輸出の動搖は、輸入國土にとりては支拂及び商業均衡上
に至大困難を來たせる原因たり、輸出國土にとりては屢その存在に關する大問
題となれり。若し大英國が在來年度に比し一ヶ年穀物輸入の爲めに一千萬乃至
三千萬磅多く支拂はざる可らずとせば、貸付資本に流用せらるべき該金額はそ
れに當てられ、割引率は騰貴すべし。その結果として資本市場將た全信用制度
に困難と動搖とを來たさずんばあらず。又若し露西亞、ウヅガルン、印度が、
輸入國土に於ける收穫増加の爲めにその在來の穀物輸出を一時なさざること、
なれば、これ等の輸出國土にとりては至大の打撃なり。それそれ國土は自國の
輸入に對し、外國の債權者に對して支拂ふべき資金を缺乏し、國內消費は總じ
て制限せられざる可らず、財政は危急状態に陥るべし。千八百五十七年に於け

る北米合衆國の商業恐慌は根本的に千八百五十一年乃至千八百五十七年の穀物
收穫に原因せり。詳言すれば亞米利加の農民は千八百五十六年に至るまで、英
蘭に於て毎クオクター小麥相場七十乃至八十シリングに騰貴したる結果、忽
ち英蘭に向て輸出を劇増して、以て違常の購買力を得たるが、この状態は千八
百五十七年に至り歐羅巴が豊作にして小麥相場は五十シリングに暴落し亞米
利加より輸出せらるゝ麵麩原料は不用となりしが故に忽ち急變し過去の夢とな
れり。

もとより農業上の技術の改善進歩、世界商業の發展、且つは恐らく個々の國
土より觀ればそれぞれ國家規定はこの不祥状態を輕減すべきも、然れども全然
これを排除すること能はず。若しそれこの不祥状態を雲霧消せしむべきこと
を確言し得る世界統治者は、必らずや能く溫熱雨露の自然氣象を支配し且つ一
切の動植物疾病を左右し得るの力を備ふるものならざる可らず。フリーエーは
敢てこの事の不可能ならざるべきを信じ、社會主義的狂想者の或る者に至りて
は今日尙ほ恐らく子供らしくもかゝる信念を失はざるあり。而かも教育ある社

會黨首領及び社會主義者は最早かゝる信念を持つること能はざるなり。
 さて如上の動搖は自然現象に因するものなるが、こゝに國民經濟の內的總組織及び其對外關係及び對外權力推移上に起る所の社會的變動も亦その影響する所決して前者に劣らず。對外關係に就て言へば、例へば從來の封鎖國が他國より強制せられ若しくは自由意志にて通商貿易を開くに至れば、それより蒙るべき變化が如何に著大なるものあるかに思ひ至れば判明すべし。かゝる場合に若し外國の權力が自國より甚しく強大なれば、自國の運命は衰頹し債務に苦められ、遂には外國に隸屬するを免かれざるべし。かゝる結果を招くと否とに拘らず一般に爲めに全然新たなる利害競争起り、國內販路停滯し若くは内國品輸出は著大の盛運を來すべし。世界商業道路の大變動は個々都市及び個々國民經濟を或は隆興せしめ或は沈衰せしめずんばあらず。例へば第十六世紀乃至第十八世紀に世界商業道路が地中海より大西洋に轉じたる結果として、伊太利は損失し西歐諸國は漸く盛運に乗じたるが如き、又スエヅ運河の開鑿が地中海諸港及びその商航路を隆盛ならしめ而して英蘭及びその中間商業を衰微せしめたるが

如き是れなり。一國の運命を決すべき大變動時期は、その輸出入總關係の推移に伴ひて苟くも起り來るもの。その道の知識を有するものは現今の工業輸出國に就て、その幾ならずして輸出の路を失ふべきことを信ぜり。例へば英蘭の輸出に關し「トウーガンの計算する所に徴すれば、その増加率は千八百五十一年乃至千八百六十年の間に約そ八五プロセント、千八百六十一年乃至千八百七十年の間に約そ五六プロセント、千八百七十一年乃至千八百八十年の間に約そ三三プロセント、千八百八十一年乃至千八百九十年の間に約そ七プロセント、而して千八百九十一年乃至千八百九十九年の間には〇プロセントなり。然らば則ちこの推移は必然的に國內經濟生活一般に對し如何に反動を及ぼさざる可らざるか。國民經濟の內的組織變更に關するものは、自然物經濟頼れて貨幣經濟に轉じたる大變動過程を回想せば足るべし。これ吾人が表裏兩面より屢々陳したる所のもの、抑々現今貨幣労働者階級の發達せる主要原因は實にこゝに在りて存せり。これに就き吾人の思ひ起すは、古代にありては舊氏族組織の解體なり、後代の發展時期に繋かるものは古代の小農民經營頼れて大奴隸經營の起りたるこ

と。近世の農民驅逐現象、數代に亘れる手工業對家内工業の競争、手工業及び家内工業對大工業經營の競争、其他屢國民經濟全般を不具ならしむるが如き劇甚なる社會競争なり。「モムゼン」の反覆縷述する所に依れば羅馬市民戰爭の政治的大渦亂の間に經濟上の大停滞現象も亦起れり。凡そ此等變動の多くは數十年間然り屢數百年間打ち續き、舊形式舊慣習及び舊法規が廢止せられ、新形式これに代りて行はれそれが正當なる發達を遂げて慣習となり法律となり、從來の社會階級將た爾他一般の社會機關及び社會制度と新たなる社會階級とが能く秩序整然たる組織關係をなすまでには、既に業にその著大部分は憐むべき状態に陥り、或る部分は痿痺し、遂には再び從來形式に没し去り。或る部分は則ち頭角を露はしその權力を濫用し漸次にして始めて正當なる制限を加へらる。この變動過程は時に失敗に終り、全國家及び國民はその富を損じ、加之その權力若しくは存立を犠牲に供することなきにあらず。或は又能く成功し、更に巨大の財を積集し宏大なる權力を集中すべきの出發點となることもなきにあらず。然り而してこの大變動それ自體は一殊にそれが一定階級を危機に瀕せしむる限り

一屢恐慌と稱せらる。或は英蘭農民階級の恐慌を説き、該階級が幾分は千七百六十年乃至千八百五十年の間幾分はそれより早く滅亡したりと考ふるものあり、或は愛蘭の小借地人階級の恐慌を説き、この恐慌の爲めに愛蘭人口が千八百四十一年乃至千八百五十一年の十年間に八百十萬人より五百十萬人に減じ、一乃至五エーカーの小借地人は千八百四十一年の三十一萬〇四百三十六人より千八百九十六年の六萬二千二百二十一人に減じたりと主張するものあり。或は千八百四十年乃至千八百九十年に亘れる獨逸手工業者の恐慌將た又家内工業の恐慌を説けるもあり。その何れの場合たるを論ぜずこれ國民經濟組織の上に於ける恐慌にして、先きに掲げたる世界商業系統上の地位に關せるものは則ち經濟的政治的權力推移の上に於ける恐慌なりとす。此等恐慌と今日普通に生産恐慌及び商業恐慌、貨幣恐慌及び信用恐慌と稱せらるゝものと如何に相異せるかに就ては吾人これを後段に論究すべし。それは兎に角國民經濟組織上の恐慌及び權力推移上の恐慌がこゝに掲げたる所謂恐慌と關聯し而してこれを劇烈ならしむることあるは否認す可らず。例へば千八百四十五年乃至千八百五十四年の間に

於ける全獨逸の状態は抑々手工業界に始めて起りたる大恐慌に依り、小農民經營地方に起りたる恐慌に依り、而して舊家内の紡績工及び織布工の致命的競争に依りて規定せられたるが如し。露西亞にありては身體財產制が撤去せられ且つ不完全なる解放立法(千八百六十年以來)の結果として、既に收獲將た近世大工業發展のあらゆる動搖あるに加ふるに、壓迫的隨伴現象として更に必然的に舊農業組織は廢せられ農民階級は沈淪しその利益を壟斷せらるゝに至れり。

斯くの如く吾人は經濟生活の習慣的通則的行程を外より若しくは總體として攪亂する所の二三重要原因を學證し、更に轉じて今よりその内部より起る所の動搖即ち換言すれば分業的私經濟的生産てふ現今秩序それ自體の本質に因する所の動搖を論究せんとす。

二百三十八

分業的國民經濟に於ける生産と消費との調節。若しそれ孤立散在せる家長及び農民の自足經濟が尙ほ社會一般に流行する限りは、問題はたゞ單に冬期及び春期にその家族員の生計を維持するに足るべき生活資料を夏期及び秋期に豫じめ貯藏することに在るのみ。都市經濟の發達と共に都市市場に於

ける定期の賣買あり、都市の手工業及び商業とその周域田舎との間に交換あり。小市場は容易に概觀せられ、都市制度に依りてなるべくその在來の行程を維持し、賣買相互の間に容易に不變的顧客關係を生じたり。それ然りと雖も其間に或は年の豊凶に依り、戦争及び騷擾に依り、隣接都市の競争に依り、將た農民自らビールを醸造せんとする計畫に出でたること及び其他に依りて、言ふまでもなく幾多の動搖は起らざりしにあらざるべし。殊に苟くも往來繁からざる週市に際しては市會は必らず騷擾及び暴舉の突發すべきを豫期せざる可からざりき。昔にそれのみにあらず、都市それ自體の中にも商業及び技術の進歩は幾多の競争を惹起し、進歩に遅るゝ者は爲めに破滅の運命を免かれざりき。

さて交通將た諸地方の分業が益々増進し、領域經濟及び國民經濟の發達となり換言すればやゝ廣大なる國家に於て交通手段の改善と利害競争の劇甚を加ふるに伴て半ば自由の市場が發展するに應じて、何れの處にこれを觀察するも事體愈々紛糾し愈々困難となれり。もとより差當り農民は概して輸送困難なる貨物を最寄都市にて確實に販賣し、一地域的手工業者及び商人も亦久しく多く

の商品に對し隣人及び周域よりの比較的確實なる需要を失はざりしが、而かも既に年市と一地域の生産との競争起り。精巧なる布帛、優等なる金屬製品は遠距離より輸され、大都市は小都市の商品生産を壓倒し、諸州の間にも亦排他的競争あり。而してこの競争現象は、郵便制度の發達、道路の修築、運河の開鑿、舟航の容易に應じて愈劇甚を加へたり。かくて或は全國土を目的として生産に當れる地點あり、或は幾ならずして外國輸出を目的として生産を營める地點あるに至れり。個々都市及び工業の工業的盛運は、第十三世紀乃至第十六世紀以來、概して爾他都市爾他地方に於ける當該工業部門の衰微に坐し、若しくは全然同一の工業が最早曩時の如く隨處に發達せざるの事實に基せり。されば第十六世紀以來個々工業部門即ち例へば織布業及び醸造業が多くの都市に衰微し、概して小都市が衰運に陥れることに關し愁訴の聲屢々起れり。アウグスブルグ及びウルムに於けるが如く伊太利市場を目的として綿布を製造し、將た又英蘭に於けるが如く千四百年來根本的に輸出織物業を經營したる場所には、當時既に數年數十年に亘りて販路停滯の大打撃あり。而して第十七世紀及び第十八世

紀の間に販路が西班牙に向け殖民地に向け擴張するに應じてこのこと愈々甚し。多くの商品は今やそれが消費地點に輸送せらるゝまでには一年以上も費さざる可らず。その期間に戦争と平和と將た好況と不況と如何に起り來るべきか何人も豫じめ斷すべからず。大市場(メッセ)に於ける販買は實に幾多の偶然事件に支配せられ、爲めに携帶せる商品を果して賣却すべきかは豫しめ測知すること困難なり。かゝる状態なるにも拘らず今日と比してこれに耐へ得ること容易なりし所以のものは、たゞ當時外國市場を目的とする生産が全然産額の僅少部分をなし、而して國家内の競争が目標とする所の需要は大體に於てこれを概観するに難からず、且つ漸次に益々固定し、高輸送費に依り屢々又保護關稅及び輸出禁止に依りて安固にせられたるに在り。

第十九世紀の間世界經濟及び新技術の發展は、この生産と消費との距離を延長せしめたと過去と同日に談ず可らず。新市場は二十年代に於ける南米諸國の獨立宣言以來益々開催せられ。殖民地及び貴金屬生産國はその工業生産品の購買力を増大せると曩時の比にあらず。關稅率の輕減及び鐵道の四通八達は千

八百四十年以來國際的分業を増進せしめたると空前の偉現象たり。さりながらその間に大なる反動も亦これなきにはあらず。關稅組織の變動あり、新工業國及び新農業國の急遽に勃興し盛運を致せるあり、諸ろ亞細亞大國に於ける消費力全然不確實なるあり、これに加ふるに經濟競争愈々劇烈に、外交的契約、併合、殖民地爭奪に成敗巧拙あり、以て自然に或は法外の希望を生ぜしめ或は大錯誤に陥らしめたり。時に輸出が違常の好況を來すと觀れば忽ち停滯し減退し而して數年を経て尙ほ恢復せず。吾人はこれが實例としてこゝにただ英蘭亞米利加間の商業に關する若干の動搖現象を引用すべし。亞米利加合衆國に向けられたる大英國の輸出は、千八百三十二年乃至千八百三十六年の間に五百四十萬磅より千二百四十萬磅に増加し、其後千八百三十七年には再び四百七十萬磅に減退せり。次で千八百五十七年には千九百萬磅に増加し、千八百五十八年には千四百萬磅に減退し。千八百六十四年には千六百七十萬磅にして千八百六十六年には二千八百五十萬磅、千八百七十年には二千八百三十萬磅、千八百七十二年には四千〇七十萬磅、千八百七十八年には再び減じて千四百六十萬磅となれ

り。僅かに數年の間に變動かくの如くそれ甚しく、即ち千八百七十二年に約そ八億マルクにして千八百七十八年には則ち二億九千二百萬マルクとなれる状態なり！是を以てこれを觀るに、ブレンターノが總動搖に對して一原因を假定し、近世恐慌を獨り世界市場の發展に依りて説明し得べしと主張したるもの蓋し理解するに難からず。

嘗て競争とし言へばたゞ單に工業商品に關せるのみなりしが、今や農業上の競争も亦起り從來の販路關係全般に亘りて大變動を生ずるに至れり。疎放耕作制をとりたる富裕の農業國はその農耕及び牧畜を劇増し、而して其間に或は大に富を積集し、或は屢々甚しき打撃を蒙り爲めに輸出に著しき減退を來たせり。土地の相場高價に且つ巨額の債務を負へる舊歐羅巴諸國にありては土地産物の相場に廻期的著大下落あり。小麥及びライ麥の相場はハンブルヒに於て、千八百四十七年乃至千八百七十年のそれを一〇〇と假定すれば、千八百九十六年には五三乃至五四となり。小麥一噸の相場は英蘭に於て、千八百乃至千八百七十年に二百八十九マルク、千八百八十五年に百四十五マルク、而して千八百九

十六年には百二十三マルクとなれり。

それ然りと雖も吾人は現にこの大變動過程に在るもの。或る國土はその生産額の二分の一乃至それ以上を外國に輸出すれども、而かも他國が如何なる程度までこれに倣て發展すべきかに就ては測り知る可らず。現にこの運動は到底以て終結を告ぐべくも見へず。世界經濟は現に尙ほ發展過程の裡に在り、何人と雖もこれが總體を概観すること能はず。何人と雖も販路關係を確定不變のものと認むること能はざるなり。而してこの變動過程と關聯して技術、交通、全國民經濟組織の革命ありて存せり。凡そこの渦中に國するもの、苟くも如何に迅速に勞力と金力とに依りてこの變動を完結し得べきか、將た他國に機先を制せられざらんが爲めに如何に急速にこれを完成せざる可らざるかを念とせざるものはあらず。然り而して或は若干年引き續きて國內の騷亂、戰爭突發、收獲の豊凶及び其他に依り進歩の阻止せられたること一再にあらざれば、狂瀾を排して愈々邁進すべきの必要あり。而して世界の景況が果してこの邁進に幸するかは常に問題ならずんばあらず。則ち英蘭は千八百四十四年乃至千八百四十七年

の間に鐵道布設に熱狂し、全歐羅巴は千八百五十年乃至千八百五十七年の間に金産出國宛工業生産品の輸出に營々とし、獨逸、埃地利及び爾他諸國は千八百六十七年乃至千八百七十五年の間に、鐵道建設、石炭採掘業及び鐵工業の擴張、株式會社の設立に急ぎたり。千八百四十七年、千八百五十七年及び千八百七十三年乃至千八百七十五年の販路停滯は少なくとも幾分はこれを原因として起れるものなり。千八百七十三年乃至七十五年の間に關する二三の統計を左に掲ぐべし。即ち鐵道布設キロメートル單位統計は

	亞米利加	獨逸
千八百六十八年	四七九四	六七四
千八百七十一年	一二八一八	一五七六
千八百七十五年	四二六四	二四〇七
千八百七十七年	三八二一	一二〇六

若しそれ千八百六十八年乃至千八百七十七年の十年間に亘りて均等に鐵道布設を實行すること可能なりせば、千八百七十一年乃至千八百七十三年の隆興時期并に千八百七十五年乃至七十九年の衰替時期は恐らく大部分避けらるべかりしならん。獨逸に於ける鐵道布設は千八百六十年乃至千八百七十五年の間に四倍せり。これ全鐵工業界の大革命と夥多勞働者の新雇傭とを意義し、而して此等勞働者は其後一時再び不用となれるものなり。機關車工場は息をも絶せんばかり急速に設立せられ、而して以て年々二萬四千ターレルの相場にて千九百の機關車需要に應ぜんとしたり。然るに千八百七十六年には機關車需要は高々六百にしてこれが價格は僅かに一機關車九千三百ターレルに下落したり。急速設立の可能を過大視することは後日に至りてこそ容易に批評し得べけれ。全然新なる關係の起り來るに際しては判斷の能く正鵠を誤らざるは常に難しとする所。私人の投機并に議會及び政府や、もすれば謬見に陥り易しとす。澳地利にて賣捌かれたる旅客切手の數は、千八百六十七年に僅かに千百萬にして千八百七十二年には實に三千四百萬となれり。これ能く人をして將來に大希望を期せ

しめざることを得べきか？

生産増加相場勝貴の傾向は概して隆興時期に於てはそれ自體に就て何等非議すべきにあらず。たゞその程度如何は則ち誤れりとす。この時期に人のこの程度に關して誤謬に陥り錯誤を招く所以のもの、抑々その急劇なる發展過程の裡に在ると且つはかゝる時期に二年乃至三年乃至四五年にして果して如何なる範圍まで能く發展し得んかを豫測すること困難なるとに在り。而して現代經濟生活組織に依れば今日に於て將來數年の準備をなさざる可らず、この將來豫測は至難のことに屬し而してその然る所以のものたゞ單に消費の個別的なると流行の變遷測り知る可らざるものある等に在るのみならず。最もこゝに困難なるは凡そ社會上政治上及び國際上の關係が永久に變遷推移して止まざること是れなり。人口は歐羅巴に於て年々數百萬人の増加ありて所得も亦これに準ず。景況は時に緩漫に時に急調なり。租税所得概算はザクセン王國に於て、千八百七十九年に九億五千九百萬マルク、千八百十四年に十一億四千萬マルク、千八百九十二年に十五億八千四百萬マルク、オルデンブルグに於て千八百六十五年に四

千四百萬マルク、千八百七十年に四千六百萬マルク、千八百七十五年に五千三百萬マルク、千八百八十年に五千八百萬マルク、千八百八十五年に六千二百萬マルク、千八百九十年に六千七百萬マルク。然れば則ち僅かにこの若干統計を以ても既に需要が如何に劇衡的に變動したるかは明瞭なり。若し今年若しくは來年を目標として生産に當る限りは、殊にやゝ富裕なる國土に於て、勿論現在の消費慣習に變なしとし所得分配も亦現在の如く既知状態として變なければ、依て以て現所得の五〇乃至八〇プロセントが必需品に對する支出として如何に使用せらるゝかに就ては確實に測知することを得べし。蓋し通常の食料、衣服、機具、醫藥は年々大體に於て使用量に變化なし。然れども所得の爾他部分が如何に支出せらるゝか、その幾部分か消費せられ若しくは貯蓄せられ、將た如何に消費せらるゝかに就てはたゞ單に漠然たる豫想をなし得るに過ぎず。既に肉、ビール、葡萄酒の消費、美服には著しき動搖あり。ベルリンに於ける肉の消費額は、千八百四十三年乃至千八百五十七年の間に一人宛八十八プランド乃至二十九プランドの動搖あり、千八百十三年乃至千八百九十二年の間には百三十八プランド

ド乃至百七十三プランドの動搖あり。巴里人のそれは千八百四十七年乃至千八百五十一年の間に七十七乃至百三十七プランドの動搖あり。かゝる動搖の由て來る所以のもの、收獲、戰爭及び平和、取引の好況不況、國際商業の發展、其他幾多の事情あり、而して此等の原因は企劃的集中的生産監理と雖も豫測すること能はず―否恐らくこれを誤算し、現にこの誤算に對しては自家の資産を提供せざる可らざる責任ある生産管理者と雖も亦先見の明を缺けり。來年に至らば果して外國が我に對してその市場を閉鎖すべきかは、二三の條約國に對してこそ豫測し得べけれ、爾他の市場―然り條約國のそれよりも更に重要なる市場に關しては則ち然らず。實に最近將來に於て何等か他國に起れる技術上の改善が、我に對して外國市場及び内國市場の販路を壓迫すべきかに就き、何人能く豫じめ考量し打算するとを得る者ぞ？、最近將來に石炭、鐵、機械の需要が如何に増加すべきかに就き果して何人能くこれを確言し得る者ぞ？。

將來需要を豫測するの困難に對し主要の一要素は、第十九世紀に於て直接消費商品を生産せずして生産資料の生産に當れる工業部門が漸く其意義を高め來

れるとなり。こゝに生産資料とは即ち石炭、鐵及び鋼、機械、建築材料の謂なり。麵粉及び肉、綿布の需要は、文明國民の現在の富の状態にては多少均等なれども、生産手段及び建築材料の需要は則ち動搖愈々顯著なるものあり。これ抑々事體の自然なり消費財と生産資料とが反對の性質を有する點にあり。家屋、工場、道路、鐵道の建設は若しその資料か欠乏し社會がこれを賛せずこれを渴望せざる時は、常に數年間延期することを得るもの。該工業はその販路に顯著なる増加の現はれざる限りは從來の機械を以て經營を持続すべし。一たび進歩起り販路好況を呈するに及んでは則ち全然これと關係を異にし。乃ち新建築、工場設立等の筭生簇出あり。然れども好況時期に當りて家屋、工場、道路、鐵道が夥しく建設せらるれば、通則として數年ならざるにその需要を満足せしむべし。さてやゝ長期間を経過する後に再び舊機械舊家屋舊鐵道は改築を要し新擴張を必要とすべし。此の如き生産手段に對する内國の需要はその性質上幾分間渴的なり、況んやその文明の發展尙ほ幼稚なる國家を目標とする輸出に對する需要をや。技術上最も發展せる文明國——主として英蘭及獨逸は、五十年來そ

の消費財輸出は恒常不變なりしも、生産手段の輸出には動搖あり。英蘭輸出は千八百七十八年乃至千八百八十二年の隆昌時期に於て、鋼、鐵、機械に二千五百九十萬磅より四千三百五十萬磅に増加あり、綿布、毛布、麻布には七千五百十萬磅より八千七百七十萬磅に増加ありしのみ。近時此動搖状態に著しく注意を拂ふに至りしは實は「トールガン」パラソスキ」の効績なり。即ち一時遊金となる貸付資本の如何に大部分が廻期的に生産手段工業より利用せられ！然り全然消費せらるゝか、これに依て起されたる刺戟か如何に一切の相場を騰貴せしめ而かも資本枯渴に依り且つは鐵道、工場、家屋、機械の需要が満足せらるゝことに依りて、如何に必然的に漸次に停滯時期となるか、鐵相場の騰貴と下落とが如何に生産手段需要の増加を測定すべき最も確實なる晴雨計なるか！凡そ此等の動搖現象は彼等に依りて始めて明示せられたり。

さて現今の國民市場及び世界市場に供給と需要とをして隨時均衡を保つこと能はざらしむるもの、畢竟唯一の原因に坐せり——而してこれ恐らく一般にこれが最も重要な原因なるべし。生産過程の時間的分離并に生産地と消費地との

地域的離隔即ちこれにして、この原因は人口の増加、富の増大、交通手段及び國際關係の變動、趣味及び流行の變化と相俟て以て、隨時隨處に苟くも供給と需要とをして均勢を保つことを不可能ならしむ。

二百三十九

貨幣經濟、信用、市場投機及び相場投機の販路停滯に及ぶ影響、吾人は前節に於て近世の分業的生産及び消費それ自體の性質に顧み生産及び消費をして隨時均勢せしむることの困難を攻究したれば、今や進んで分業愈發達すれば生産及び消費が益々以て直接關係を失ふこと、生産及び消費の間に市場、相場、投機の大組織、貨幣制度、支拂制度、信用の諸制度か介入すること、此等組織がそれぞれ特殊の人間及び機關に支持せらるゝこと、此等の人間及び機關がその個別利害に動かされ消費者及び生産者を犠牲に供して時に恣まゝに大利潤を壟斷せんとすること、而して生産者と等しく屢々誤算し失敗を招くこと、且つ時に詐偽、貪慾、故意の術策に依り生産及び消費の調節を阻止することを闡明せざる可らず。第三卷(譯補の第五第六第七冊)は主としてこの生産及び消費を仲介すべき社會的大組織を叙述することを任務としたり。この組織

とこれが法規これが制度とを幾分ながら正當に發達せんめしが爲めに如何に長年月を要したるか吾人の既に觀察したる所なり。この組織をして屢々而かも長期に亘りてその當然の任務を怠らしめ、悪影響を及ぼさしめ、あらゆる失敗に依り生産及び消費の均勢を攪亂せしむるが如き不祥現象は抑々如何にしてこれを排除し得たりしか。

交通組織及び相場騰落の理想は、完全なる貨幣制度及び鑄貨制度が發達し、貨幣價值恒常不變に、信用を利用し得る者は威嚴と名譽とを損ぜざる者に限り、信用はたゞ一に正當なる生産を遂行し正當なる相場を流行せしめんが爲めの手段となり、市場に賣買するものは名譽を毀らざる商人及び仲介業者に限り、而して凡そ相場の變動が供給及び需要の事實上の變動に順應することに在りて存せり。現社會の狀態を觀るにもとより幾多の點に於てこの理想に接近したるの形跡あれども、この理想に遠かれる點も亦これなきにあらず。然り、自由競争は市場、相場變動、貨幣支拂、信用保證のあらゆる方面に亘りて小大利潤機會を苟くも爭奪せんとするの利己主義を凌轢せしめ、又この利潤機會は屢社會全

體の利害を無視して濫用せられ、殊に卑俗なる貪慾及び傍若無人の營利衝動が流行し、正直、忠實及び信仰の動搖せる場合にこの利潤機會は愈々以て惡用せられて底止する所を知らざらんとす。余はこれに就きたゞ貨幣制度、信用經濟、相場變動、投機に繋かれる二三の實例を擧ぐるに止むべし。

秩序整然たる恒常不變の貨幣制度及び鑄貨制度を發達したるものは現在に至るまで單に統治その宜しきを得たる國家に限り而して概して漸く最近世紀のことに屬せり。然り而して嘗ては鑄貨惡變あり。外國鑄貨の侵入あり、一時鑄貨の欠乏あり—かくの如きは常に日程として起り、而してこの状態は鑄貨の價值動搖に依りこの動搖を惡用せる實際家に依りて、生産及び販路、所得分配及び消費に對し反覆惡影響を及ぼし且つ攪亂をなせり、(本譯補の第五冊 百六十四乃至 百六十八 參照)。過去にありても現在に於ても凡そ流通手段の價值變動は以て販路關係及び所得分配に甚大の影響を及ぼさざれば止まざる現象たり、(本譯補の 百八十二 乃至 百八十二 (口參照)。而して國家が不換紙幣を過多に發行して先づ相場(物價)を暴騰せしめ、次でこれを引き上げて相場を暴落せしむる

場合に殊に然りとす、(本譯補の第五冊 百八十二 (口參照)。凡そ此の如き一般的貨幣價值變動及び相場變動は個々階級及び諸社會階級に影響すること區々として一律ならざるが爲め、常に不合理の利潤及び損失を生ぜしめ、乃ちこの利潤と損失とは忽ちに需要將た消費に著大變動を生じ、その或る程度に達し或る方向に起るに當りては販路停滯を來たさざればならず。

信用及び信用組織は近世國民經濟にこれを觀れば資本積集及び資本分配の具なり。利率運動、殊に商人的利率の運動は一に信用に繋れり。信用業者及び銀行は信用保證に依りて利潤を收めんと欲し且つ信用に依てその資本を利用せざる可らず。然れども既に本譯補の第六冊 百九十三の末段に叙述したるが如く、信用業者及び銀行はその利率を幾分上下し、信用保證を難易にし、以て生産、商業、投機、相場變動を或る程度までは左右し得るの權力を有せり。もとより彼等と雖も供給及び需要を悉く支配すること能はず、否供給及び需要に順應せざる可らず。然れども正當なる信用保證と不當なる信用保證と、正當なる割引政策と不當なる割引政策とに依り、供給及び需要の個々運動と個々動搖とに常

に影響を及ぼすこと不可能ならず。嘗て信用業者及び銀行は自らこれを意識せず爲めに恐慌を劇烈ならしめたり。現今にては大證券銀行は寧ろ目前の巨大利潤を斷念し、社會の總利害に順應せる割引政策に出づ。生産者、商人、投機者にしてたゞ單に自家の資本のみに依頼せる限りは、その活動範圍は極めて限局せらるれども。その一たび信用に依りて自家資本に二倍乃至十倍する大資本を流用するに及んでは、頓に敢爲と大膽と利潤欲とを加へずんばならず。業務を遂行し經營する上にやゝもすれば冷靜と先見とを失ふことを避く可らざるなり。而して信用業者がその信用保證をなすべき個々業務の果して健全なりや否やを問はずしてたゞ單に何れにせば高利を貪り得べきかに没頭する場合にこのこと殊に然りとなす。

凡そ近世發展の信用形式、書換、爲替、證券、國家證券賣買(差増額賣買及び差減額賣買)が如何に屢濫用せられ不當相場及び不當投機を生ぜしむべき補助手段に惡用せらるゝかは吾人の先きに陳述したる所なり。信用の發達は過剰投機及び過剰生産と販路停滯及び恐慌とを繼時的に助長せしめたり。信用機關は徐

徐にして漸く自家の利潤以外に社會の總利害を顧慮すること信用保證に周到なる用意をなすべきことを驗知し、若しくは法律に依りて強制せられ。現には信用政策に依て以て能く恐慌を緩和し得べき機關を益發達したり。然り而して有價證券投機に關しては則ち最もこの點に缺點あり。

今日に於て一切資金の大部分が愈以て有價證券に投ぜられ乃ち該有價證券が所持人拂にて發行せられて日々賣買せられ若しくは貸付せられ得るの事實は、やがてこの有價證券をしてその價值變動を奇貨とし投資及び投機の主要目的物たらしむるの結果を生じたり。取引所に於ける賣買殊に狹義の定期取引は主として有價證券を利用し、大銀行は有價證券を貸付し、諸地方間の支拂交通は廣く有價證券を利用せり。殊に大起業銀行、大工業株式會社、鑛山業、建築銀行の株式相場の日々變動は投機將た差額取引の玩弄物たり。將來騰貴の豫想ある取引隆昌時期には株式相場を暴騰せしめんが爲めに種々に人爲的方法が講ぜられ。社會一般は最早該有價證券が將來實際に暴騰すべきか否かに顧慮せず、たゞ單に數週數ヶ月の後再賣却に依りて大利潤を收め得るまでに騰貴するか否かを問

題とす。かくて事實上毫も騰貴の理由なくして有價證券相場は則ち一〇〇プロセント乃至それ以上も暴騰することあり。其間に這般消息に何等の判断能力なきものにして投機に参加するもの多數を占め、而してかゝる人々が能く投機に手を出し得る所以のもの、銀行がこれ等の人々に對し主として差増額賣買の形式にて遂に屢二〇乃至四〇プロセントの率を以て信用を保證し、この信用取引に依りて大利潤を收め、而して一旦相場下落の場合にはこれ等の素人取引者をして大損失を招かしめ、自家は則ち機を誤らざる信用契約期間若しくは信用拒絶に依りて概して安固に損失を補償し得るの事情に在り。

銀行信用を介してかくの如く有價證券投機を暴騰せしむることこれ近世信用發展の最も暗黒なる裏面なり。これが結果たる不當相場は全國民經濟をして病的に熱狂せしめ、一切の相場運動、一切の利潤機會及び販路可能に關する不當寫象を生ぜしむ。これ實に取引所制度將た狹義定期取引の當然改善を加へらるべき點の存する所なり。

それ然りと雖も尙ほこゝに信用の發達が或は國民經濟生活の調和的行程を危

險ならしむるの恐ある三點に注意せざる可らざらん。三點とは一に信用と支拂制度との關係なり、二に信用と國家財政との關係なり、三に銀行に積集せられたる不用貸付資本(遊金)の變動これなり。

信用の發達するに正比例して信用證券の貨幣に代用せらるゝ額は益増大し。

取引殊に信用を以てするの取引が愈増加すれば、一切の支拂義務關係は數日數時間の後を期し若しくは數週數ヶ月の後を期して豫じめ締結せらる。個々商人は全然現金を所持せず、若しくはこれを所持するもその額は言ふに足らず。銀行に預金を積み交互計算關係を開き、これに依りて支拂を決す。個々銀行と中央銀行との間にも亦これと同一の關係あり。凡そ此等の制度は取引生活を簡便にしその費用を節約せしめ、而して各銀行が多數權利者に時期を誤らず支拂をなし且つ若干期間の後に來るべき決算時期に對し銀行の正貨準備に不足を告ぐることなき限りは、圓滑に且つ良好にその職能を果すを得べし。然れども信用連鎖益復雜多端となるに従ひ、小支拂停止もやゝもすれば大銀行を狼狽せしめ而して小銀行は常に取付けに會ひて如何ともすべからざるの危険に陥る。銀行

にして始め輕卒にたゞたゞ利潤を大ならしめんことに没頭して信用を保證せんか、愈以て後日の危機に際し基礎疑はしき商家を救済すること能はざるは勿論、最大且つ最善の商社をも決して救済すること能はず—これが爲めに必要な支拂資金を調達すること能はざるなり。かくて少數の支拂不能者の爲めに若しその資金回収の途絶せずば倒産することなき數十數百の取引經營者も亦舉げて破滅の悲運に同伴せらるるを免かれざるなり。

大中央銀行及びその割引政策にして愈機宜を制し得ればかくの如き變動現象の突發は益以て杞憂のことに屬せり。然れども如何なる場合にもこの危険を全然排除するは則ち不可能なり。大銀行が國家財政と直接關係を有する場合に於て殊に然り。國家財政は時々巨額の資本と貨幣とを有し、而してこれを利殖せんと欲す。而して屢又忽ちに大資本を必要としこれを銀行的形式にて募集しかくして銀行準備金を空乏ならしむ。これが爲めに或は資本市場に不慮の影響を及ぼし、利率は忽ちに暴騰し、若しくは暴落し、市場、生産、販路の上には則ちこれが騰貴の原因存せざることあり。實に國家破産將た巨大資本を要する

戰爭の突發は、全國民經濟を急地に陥れずんばならず、然れども亦この關係に就て國民經濟上に高級發展を遂げたる國家行政が苟くも平時にありて資本市場に顧慮すること、加之急地に陥れる大銀行に對し國家社會の總利害の見地より一旦の恐慌時期に當りて國家の剩餘金を差支なき限り貸付し以てこれを救済することあるを忘る可らず。

貯蓄資本を銀行に積集することは一大進歩たるに相異なし、然れどもこれが結果として不況時期には商人的利率は一プロセント若しくはそれよりも僅少率に下落せずんばならず。英蘭の諺に曰、「ジョンブル(英人)は如何なる場合にも能く耐忍す、然れども利率一旦一プロセント以下に降れば則ち狂亂すと。恐慌の原因を絶對的にこの利率下落に歸し、若しくは一步を進めて巨大資本積集一般に歸せんとする理論は枚擧に遑あらず。さりながら時々巨大資本の積集はそれ自体に觀察して毫も不祥の状態にあらず。その憂慮すべき状態を呈するは、獨りかゝる時期に銀行が能く些細利潤に耐へんことを欲せず、銀行業務を活躍せしめんが爲めに輕卒に若しくは無思慮に信用を保證し、依て一二年の間にその資

本を潤渴せしめ、而して或は急劇に利率を暴騰せしめ、基礎最も健全なる業務經營に對しても尙ほ信用保證を拒絶せざるを得ざるの急地に陥る場合に在り。その然る所以のもの當さに國家社會の總利害を主眼として經營處理すべきに、實は然らずして利潤欲の餘りに凌轢したるに職由せり。

貨幣現象及び信用現象に依りて惹き起さるる凡そ上陳の不祥状態及び凡そ不當なる商品相場の場合に於けるが如く、今この弛張動搖に關しても亦、畢竟その緣由する所は現今取引界が餘りに目前の利潤に没頭し將來を慮るの明なきに在り。好況時期に當りて一切の消費財及び一切の生産手段、殊に石炭及び鐵其他が騰貴するは、管に避く可らざるのみならず又正當なる現象なり。苟くも生産の増加、必要なる輸入増加はかくして始めて期待せらるべし。然れども相場を騰貴せしむる企業家それ自身は必要以上に走るべきにあらず、常に相場の騰貴が消費を制限すること、相場の騰貴はそれが持續せる場合に始めて社會全體の爲めに福祉を齎らす所以なることを顧みざる可らず。然るに企業家は徒らに目前の利潤にこれに急に將來結果に對しては則ち盲目なるが故にこの理は常に

忘却せらる。かくて相場は詐僞、誑惑、不正なる貿易均衡及び報告に依りて暴騰せられ、而して遂に恐慌に陥る。若しそれ相場が常に市場景況の正確なる晴雨計ならば、もとよりかゝる現象の起ること不可能なるべし。吾人は先きに本譯補の第五冊 **百七十二** 乃至 **百七十三** に叙述したる價值論に於て、事實その然らざること、詐僞、權力濫用、ありとあらゆる誤謬が相場運動に大影響を及ぼせることを觀察したり。

吾人は上來過剩投機及び相場暴騰の弊害を指摘したるが、こゝにかゝる時期に於て誤謬及び輕卒が詐僞と混淆し、相場は駭々たる取引隆昌時期に於ても俄然たる衰頹時期に於ても屢、自己錯誤を基礎とせる情調に支配せられ、後日よりこの情調を付度し理解すること全然不可能なるものあるを忘る可らず。かゝる時期に當りては冷靜なるものも社會民衆感情の傳染渦中に投ぜられ、たゞ單に目前の利を追ふの習慣は社會の多數者をして全く盲目ならしむ。現今の交通組織及び取引所組織はこの精神的病弊を助長せしめたり。全世界の商人、企業家及び投機者は現に電報に依りて相聯絡し、その雄なるものは日々取引所に集ま

り、諸る報告は正邪の別なく悉くこゝに蝟集し、純なると不純なるとに別なく諸る要素はこゝに或る調子を起さんとし、正直なる記者あり買収せられたる記者ありて或は爲替相場及び商品相場を騰貴し或はこれを下落せしめんことに狂奔せり。數週間數ヶ月間引き續きて有利なる報告の來れりと觀れば次で再び悲觀すべき報告の至るあり。以て雀躍すべきに似たり以て沮喪せざる可らず。若しそれ此の如きありとあらゆる感情及び激情に左右せらるる民衆運動の裡に立ちて能く正鵠を誤らざらんは、違常の冷靜と聰明なる大精神と而して取引に關し世界に關し商業に關する非凡の知識とを備ふる者ならずんば能はず。然り最も聰明なるものと雖も生産及び商業の運動并にその多寡に關して錯誤に陥り、一般民衆に至りては殆んど常に或は樂觀し或は悲觀し、多くはその間に彷徨し動搖して自ら固執するところあらず。而して自然到底判明す可らざる經濟的將來の概算とこの將來概算并に日々數千人の間に縮結せらるる信用事項を基礎とする信用組織とは二重にこの精神的動搖の爲めに左右せられ、少なくとも人間がその感情及び激情に現代以上の進化を効し神人の境に達せざる限りは此狀態

を脱すること能はざるなり。

二百四十

近世文明國民の間に於ける景況變動の模型的過程。上來吾人は一般に國民經濟生活の過程をして動搖不安時ならしむる最も重要な原因を説明したるが、これを以て吾人がしかく雜多なる擾亂の可能に對し、決して經濟的不祥狀態の動搖并に種類が同一廻期及び同一特徴を以て必らずや一切の時代一切の國民の場合に反覆すべきことを主張する能はざるは明瞭となりたるべし。それ然りと雖も大體に於て同様の生活條件と制度とを發達せるアリア人種に屬する近世文明國民にこれを徴すれば、最近世紀以來その國民經濟發展が取引生活の循環的隆替現象をなせるの事實は漸次に明かに一致せり。吾人は後段單簡なる歴史的概觀に依りこれが證據を擧げんと欲す。さてこの一弛一張の動搖運動を容易に闡明せんが爲めには、こゝに豫じめ八年乃二十年を一廻期とせる隆替時期の模型的行程を叙述せざる可らず。

然り而して隆昌時期と沈滞時期との特色が全く相異せる點はこゝに最も重要とする所たり。隆昌時期(好況)と沈滞時期(不況)との間に屢(常に必らずしも然るに

はあらざれども)恐慌あり、換言すれば急速に襲來せる取引生活の停滯、幾多の破産現變、劇烈なる相場變動、信用の絶對的若しくは一部分的杜絶の時期あり。この恐慌はその期間屢數日間及び數週間に過ぎざることあり、屢又更に長期間に亘ることあり。この恐慌は屢幾多の發作現象となり、一年若しくは二三年を隔て、襲來することもあり。この恐慌は卒として襲來する疾病にあらず、一弛一張一高一低をなせる經濟的波動それ自體の表示なり。經濟的波動のこの三分分即ち隆昌と恐慌と沈滞とは既に久しく區別せられたるが、近時スビートホフは同一連鎖のこの三部分にそれぞれ特殊の見徴を精密に辨別し、而してこの全問題の認識を根本的に催進したり。

これに就いて劈頭に吾人の説かんとするは、この模範的行程を最も明瞭にし得るは國民經濟が分業、信用、輸出、近世的技術及び經營法、巨大資本の供用を以て高尚なる發展を遂げたる場合なること、分業及び交通に依て連絡組織せられたる國民經濟は概して同時に若しくは繼時に動搖及び恐慌より襲はれ、而してこの動搖及び恐慌は內的に關聯せること、これと異なり發展幼稚なる國土

にして幾分は尙ほ自然物經濟を保存し、交通微々たるものはかくの如き恐慌より襲はれず、襲はるるも言ふに足らざること是れなり。最も發展せる國土に於ける富及び權力、生産及び技術、人口及び文明の大隆興は、常にこの一弛一張の運動を経験し、而してその弛類運動の極底にありても尙ほそれに先てる隆興時期の當初に比し根本的に高級段階に立てり。

イ、先づ停滯時期取引沈滞時期より觀察せんに。大概の相場は下落し、取引利潤は平均し、殊に商業及び工業の主要部門に於ては極めて些細のみ、貸銀及び利率は壓迫せられ、社會を通じて企業心に欠乏す。貯蓄資本は銀行に積集せられ、銀行の正金貯藏は巨額に達す、例へば英蘭銀行に於て千八百四十八年乃至五十二年の間に正金貯藏は百萬磅より二千二百萬磅となり、商人割引は一プロセント乃至二プロセントに降れるが如きこれなり。輸出は減退し、營利階級は退嬰し消費は概して少額なり。貧民、無職業者の數は恐慌に際して増加し、而して長く減少せず、時に更に増加せんとす。例へば千八百四十六年乃至千八百五十年の間、プロイセンに於ては施與を受くるが故に階級税を免ぜられたる

者四十四萬人より七十萬八千人に増加したるが如きこれなり。出生數及び結婚數は少なく、これに反して死亡數、國外移住者、犯罪人、破産者の數は夥しく且つ屢々長く増加の實跡を示さざればならず。例へばウルトンベルヒに於ては破産數は千八百三十五年乃至三十六年より千八百四十七年乃至四十八年に及ぶまでに千二百件より四千件となり、五十年代の始めには八千件に増加したり。其間に取引界の個々階級は或は一般的停滯現象より何等の影響を蒙らざるものあるべく。加之相場下落の爲めに多くの商品の消費は増加することあるべきも。而かも尙ほ壓迫感情は一般現象と認むることを得べく、悉く以て節約せられ、幾分敢爲の活動に出でんと欲するものは僅少數のみ。この全状態は、先きにも觀察したるが如く、たゞ單に經濟的にはあらずして又根本的に群集心理的なり。この状態を支配せる力はたゞ單に洞察力のみならずして又一般感情なり。而してこの状態は甚しく誇張せらるゝことなきを保せず。これが回復は僅かに極めて遅々たり―停滯状態の劇甚なるに應じて愈々徐々たりとす。

口、然れども二年、四年、六年を経過して終にこの停滯状態は一般民衆より

忘却せらる。低利率は今や始めて積集せられたる巨大貸付資本を投下せしめ、消費財の低廉相場は再び消費を増加せしむ。取引精神はこゝに活躍し、好況の曙光こゝに認めらる。さてこれに加ふるに外的刺戟的要素、技術上の進歩、交通の改善、新市場の開拓、需要を活潑ならしむる政治的大事件、戦勝、殖民地争奪、國家組織上立法上行政上の内的新改革を以てすれば、則ち從來沈睡せる力は全く長夜の夢より覺醒す。これ好況の第一期なり。その第二期は取引業、工場、鐵道、銀行の新設并に擴張を特色となし。これ等の發展は一定取引部門に發端す。而して或は織物工業或は大都市に於ける建築に在り、時に銀行制度時に鐵道にあり。近世工業殊に石炭業、鐵工業、機械工業が益々必要となれば、先きにも説明したるが如く、此等の最も重要な生産手段を取扱へる工業が特に顯著なる活動に出で、勞働及び資本を積集し、愈々急速に擴張せらる。これ等工業の利潤と賃銀騰貴と相場騰貴とは一般國民經濟に益々大影響を及ぼし、國民經濟は―よしその個々部分は依然として窮狀を革めず、勞働者雇傭將た資本積集の上に困難を訴ふれども―大體に於ては發達隆昌の感情に支配せらる。相場

は未だ極端に騰貴せず、消費は一般に増加するを得べく、社會民衆の支出額多く、贅澤の増進あり。結婚數及び出生數は増加し、犯罪人の數は減ず。例へばウルテンベルヒに於ては千八百五十二年乃至千八百五十七年の間に年平均二萬三千人より一萬六千人に減じ、破産の數も亦これと同様に、上に掲げたる八千件は五十年代の末葉に減じて八百件となれるが如し。貯蓄銀行の預金額は増大し、交通及び輸出の發展は屢殆んど絶後の盛觀を呈せり。例へば英蘭の輸出は千七百四十年乃至千七百八十年の間に變動なく、千七百八十年乃至千八百十五年の間に千二百萬磅より六千萬磅に増加し。關稅同盟國のそれは千八百三十三年乃至千八百四十年の間に四億三千萬マルクより五億五千萬マルクに増大し、其後千八百四十年乃至千八百五十二年の間は變動なく、更に千八百五十二年乃至千八百五十七年の間に倍加したり。獨逸の輸出入は千八百六十八年乃至千八百七十二年の間に約三十億マルクより六十億マルクに増加し、其後千八百八十六年までは殆んど變動なく、千八百九十五年乃至千九百年の最近好況時期に八十二億マルクより百十五億マルクに増大したるが如し。かくの如くして警戒

現象の突發せざる限りは、好況愈々持續し、相場及び大利潤は益々騰貴し増大し若しくは不變安固なるべしとの信念愈々社會一般に波及し、何人も益々確實に前進し發展し得べきを感ず。然れども時の古今を問はず漸次に不況状態現はれ來り、乃ち社會は判然明晰なる洞察力に代ふるに漠然たる感情と朦朧たる希望及び錯誤とに依て支配せられずんばならず。社會民衆は既に貸付資本の涸渇し相場の騰貴が業に隨處に消費を制限せる事實に注意せずして、漫に商品の相場、株式相場、配當の益増大し騰貴すべきを希望し。取引經營は新たに設立せられ、信用は無謀にこれに對して保證せられ、就中最も急劇に發展したる工業は既に供給過剰に陥る。こゝに於て外國の信用に訴へ、相場の下落を制せんが爲めに人為的に商品を蓄積す。かゝる場合に先見あるカルテルは既に相場を適度に止めんことを力むれども、爾他一般の商人は出來得る限り利潤を貪り益々相場を暴騰せしめんと欲す。事情かくの如くなれば石炭、鐵、機械の消費者は來年度に於て恐らく十分に自家需要を充たすこと能はざるべきを憂慮し、相場に顧みずして長期の定期契約を締結す。この好況の第三期に當りては恐らく冷靜なる思慮を

最も必要とすべし。而して事實上には多くこれを欠けるの憾あり。

かくの如くして好況の第四期即ち最後時期は到来す。この期に至りては隆昌の條件消滅し却て不況の條件を生ず。然れども凡そ生産者及び商人は相場を維持せんと欲し、殊に最近年に新設せられたる經營に於て然りとす。新設經營は尙ほ創業の困難に際し、莫大の費用を投じ屢これが設立に無謀の資本を卸せるもの、販賣商品の相場にして高からざれば繁昌すること能はず。凡そ好況運動に手出せるものはその利潤を必らず收得せんが爲めに如何なる犠牲を供するも厭はず現在の傾向をそのまゝに持續せんとし。新たに企業の設立せらるゝに際してはその資本拂込期限を益、長期間に配し。信用愈、極度に保證せられて。銀行の正金準備は空乏となり、銀行券は通則として増加し、銀行の爲替取扱は巨額となる―正にこれ信用濫用の徵候なり。例へば英蘭銀行の正金は千八百二十四年乃至千八百二十五年の間に千三百五十三萬磅より百二十萬磅に減額し、而してその銀行券は同期間に千七百萬磅より二千六百萬磅に増大し、又その爲替は千八百二十一年の二百萬磅より千八百二十六年二月の千二百萬磅に増大したる

が如き是れなり。單純なる取引手形に代ふるに融通手形及び流用手形を以てし、これを以て實際取引ありたるが如き觀を裝ふて大膽なる投機業者に對し敢て信用を延期せしめたり。將來騰貴を目標とせる時期投機業者は所謂レポイトゲシメント(將來好況を條件としてその時期に現在に於けるよりも多額を有價證券買受に對して支拂ふこと)の形式にて月々に信用を得、これに對し時期投機業者は愈々多額の相場を支拂はざる可らず。然り而して時期差額の愈々高率なるは即ち信用及び投機の過多なることを明示せる證據たり。

ハ、かゝる事態が到底引き續き進行する能はざること、輕卒にして且つ詐偽的なる新企業が早晩破綻すべきことは識者の既に認識したる所なり。信用銀行は新株式、債務證書、外國債券に依りて推積せられて最早これを流用すること能はず。倉庫は商品を以て充溢し。生産は註文に對してなされずして委託販賣を目標とし。爲替相場及び商品相場は既に業に騰貴の傾向なく、單に人爲的に下落せざるを得るのみ。この時に當りて一銀行一大工業會社の破産あれば、依りて以て擧げて取引界の蜃氣樓を崩壊せしむるに足り、商品相場及び爲替相場

は暴落し、爲替手形は正金に引換へられずして逆戻りし、その裏書人若しくは振出人より支拂はれざる可らず。銀行は狼狽し、豫じめ割引率引き上げをなさざりせば、速急に三プロセントより七プロセント、一〇プロセント、乃至一二プロセントに引き上げざる可らず。基礎堅固なる商店と雖も支拂力を失ひ、數十然り屢數百の會社の破産あり。嚴密なる意味に於ける恐慌こゝに於て現はる。相場下落及び恐慌の劇烈なるに應じて企業精神は愈々萎痺し、取引界は多く非常の犠牲を供しつゝも尙ほ直に需要減少と歩調を一にすること能はず。かくて幾分にも需要減少と生産の徐々制限との間に均衡關係を生ずるまでには、屢數ヶ月を要し屢數年を要することあり。而してこの苦痛を最も強烈に感ずるものは從來法外の擴張をなしたる國民經濟部門に在ること自然の理數なり。然れども一般的疑懼の念は廣くそれ以外の範圍にも亘り、經濟的活動の殆んど全部門に波及せずんばならず。もとよりその動波が恐慌の中心を遠かるに従て漸次に高度を減ずるは則ち言を須たず。

若し事態未だ斷末魔に陥らず、多數破産の突發あり且つ信用殆んど全く杜絶

して以て非常恐慌に陥らざるか、若しくは國家及び銀行が少なくとも最大商店の最も悲惨なる運命を救済するに至れば、則ち關係やこれと異なれり。然りと雖もそはたゞ單に必至的清算、相場下落、企業欲の萎痺が然らざる場合より幾分徐々に將た廻期的に現はるるのみに過ぎざるなり。而かも幾多の疑はしき經營が尙ほ數年間傾きつゝも且つ能く倒れざるを得るは一の進歩なり。例へば英蘭に於ける破産數が—實に千八百七十三年乃至千八百七十五年の間は英蘭に於ける最も劇烈なる破産恐慌の時期なりしが故に—千八百七十一年乃至千八百七十五年の間に年平均六千件乃至七千件を數へ、千八百七十九年に至るまで増加し。當時一萬三千百三十件を數へ、而して後再び千八百八十四年までに四千百九十件に減じたるが如き是れなり。

ニ、吾人は嚴密なる意味に於ける恐慌に次で來る所の不景氣時代に就きて下の如く攝要することを得べし。抑々この不景氣時代は殆んど常に數年間に亘り、而して或はこれに先ちて劇烈なる恐慌の突發せることあり或は然らざることあり、上段に於て吾人はこの不景氣時代を叙したり、この不景氣時代は言ふま

でもなく將に隆昌時代を現出せしめんとする前立條件なり。殊に建築材料、機械、交通手段、鐵及びあらゆる生産手段の需要が、さながら豫じめ好況時代に將來數年分も満足せられたるが如き場合に、この不景氣時代を現出せざればならず。生産手段の製作に當れる工業に對して從來反覆して巨大資本の投ぜられたるものが今や停止し、この種の現工業は好況時代に於けると同一量且つ同一相場にしてその生産物を販賣すること能はず、社會の廣範圍に於ける勞働者解雇及び消費制限に應じて需要の減退あり—これ等は即ち所謂不景氣時代の根本的事情なり。或る部分には非常の生産過剰あり、他の部分然り多少一般に或る程度の生産過剰あり。換言すれば消費減少なり、好況時代に夢想だも及ばざりし消費減少なり。生産過剰は好況の第三期及び第四期に發すれども、この過剰生産と相場騰貴に依りて收め得る所の利潤とに既に市場停滯の難が萌せることには注意せられず。乃ち注意せられずと雖も而かもこの過剰生産は決して一般に絶對的販路不可能なるが如きものにあらず。たゞ單に不景氣時代の消費減少に對して過剰關係をなせるのみ。過剰生産の根本的事情は、生産者が損失を塔

するにあらずんば販賣すること能はざること、株式の相場騰貴將た巨大資本を投ぜる新企業が物價下落の爲め最早利潤全くこれなきか若しくは僅かに幾分の利潤を收め得るに過ぎざること是れなり。

如何にしてこれを救済し得べきか、近く設立せられたる泡沫會社は破産し、爾他企業は生産を制限し、而して若し合同を組織するに至れば最も容易にこの生産制限を實行することを得べし。相場は下落し、或は恐らくカルテル側より事情商量の結果故意に引き下げらるべし。されどもこれをなすの緩急程度如何、經營縮少、必要なる生産制限、相場下落は如何なる程度なるべきかは常に問題たらずんばならず。相場引き下げはそれ自體に概して恐らく欲望を新たに惹き起し得べく、依て以て消費財の販路を擴大するを得べし。然れども鐵及び石炭、機械及び建築用石材の相場引き下げはかゝる時代に直に以て購買者を増加するものにあらず、然りこの種の需要は一たび充足せらるれば比較的長時期間に亘りて補充の要なし。不景氣時代に加ふるに從來輸出の著大部分が停滯を來すか若しくは全く杜絶する場合に於て殊に憂慮せざる可らず。若し又損失を顧みず

且つ著しく相場を引き下げて以て不景氣時代に輸出が増大せらるること、例へば千九百年乃至千九百〇三年及びそれに先てる時代に於ける獨逸の鐵輸出及び機械輸出の場合には、事態頗る容易なるものあり。依て以て労働者解雇を制限し、殆んど適度に企業經營を續行せしむるを得べし。

凡そ不景氣時代には長期間僅少利潤を以て満足せざるべからず。長期間耐忍して不用貸附資本の積集せらるゝまで待たざる可らず。一般に經營上に節約を加へ、技術上の進歩に依りて難關を開かんとし努力せられ、従來看却せられたる企業部門に活動の新生面を啓かんとす。國家及び共同團體は危急労働、土木、其他これに類する工事を起して不景氣状態を挽回せんことを期す。國外移住は増加し國內移住は則ち減少し。出生數は減じ死亡數は則ち増加す。かくの如きは不景氣時代の特徵なり。而して最も憂慮すべきは一般に不景氣の實際原因既に去りても尙ほ久しく社會民心の沮喪せること是れなり。かくの如くして遂には再び生産及び消費の一般的均衡時期となり。人口増加して、言はば過大なりし國民經濟的衣裝に適應し。始めて徐々に資本の新積集あり、景況も循環して

こゝに新生面を開拓す。

二百四十一

最近二百年間に於ける隆替運動の歴史的概観。希臘及び羅馬の隆盛時代にも幾多の恐慌あり、中世末葉及び第十六世紀及び第十七世紀にも亦恐慌ありたることは吾人の實に觀察する所、又千二百年乃至千六百年の間、チロル、ウンガールン、ホーイメン、サクセンに於ける銀生産の隆昌時代は近世時代に於けるカリフォルニア及び濠洲の隆昌時代并に南亞弗利加の隆昌時代を想ひ起さしむ。第十六世紀及び第十七世紀の間、西歐諸國の航海、奴隸賣買、植民地爭奪は盛運を極め、これと關聯せる景況變動は大體に於て現に尙ほ歴然たるものあり。千六百三十四年乃至千六百三十七年の間、和蘭に於ける鬱金香商業は劇甚なる投機を生じ。その結果として恐慌に陥れり。アムステルダムが世界信用市場及び株式市場の中心となりたるに關聯しても亦投機現象は免かれざりき。然り而して這種現象の最も劇烈なるものは千六百八十年乃至千七百四十年以來に屬せり。

英蘭は千六百六十年乃至千七百二十年の間に其商業、海運、工業の大發展あり

り、和蘭及び佛蘭に對しては戰勝に依りてその優勝力を確實ならしめたり。英蘭の輸出は千六百六十三年乃至千七百三十七年の間に二百萬磅より千百萬磅に増加せり。千六百九十六年、千七百十一年、千七百二十一年、千七百三十一年乃至千七百三十二年の恐慌は自然これが結果なりき。千七百十三年乃至千七百二十年のロンドン市場に於ける物價及び株式の投機は實に絶後の亂調を呈せり。千七百十五年乃至千七百二十年の間、ジョンローに依りて啓かれたる巴里の會社創立熱はこれと並行せる狂態現象なり。獨逸は未だ此の如き劇甚動搖を示さざりしが、尙ほ余の信ずる限りプロイセン聯邦は千六百八十年乃至千七百〇五年に好況に、千七百〇五年乃至千七百十五年に停滯となり、危急時代及び非常時代を経験し、千七百十五年乃至千七百三十五年に一般に景氣挽回し、千七百三十六年乃至千七百四十三年に再び恐慌となり市場停滯となり、千七百五十五年乃至千七百五十六年に更に好況に進みたることは争ふ可らず。佛蘭西の貿易年總額は千七百十六年乃至千七百五十五年の間に二億フランより六億フランとなり、千七百五十五年乃至千七百六十三年の戰爭時期に再び四億となり、而して千七

百八十五年乃至千七百八十七の間に十一億フランに増大せり。千七百五十五年乃至千七百六十三年の戰爭年代は國民經濟上に甚大の影響を及ぼし、これに伴て鑄貨の非常惡變と相場暴騰とあり、戰爭終結の後は再び供給及び需要の大亂調を來たし、相場變動し融通手形の濫用あり、爲めに數年に亘りて劇烈なる恐慌と取引停滯とを避く可らざりき。ハンブルヒはこの戰爭の間に未曾有の利潤を獲得し、その取引活動は迅速に擴張せられ、例へばその銀行出納簿の數は三千より九千に増加したるが如きあり。然るに千七百六十三年乃至千七百六十六年に至りてはアムステルダムに次での大打撃を蒙り、家屋賣買相場も千七百七十七年までは下落の傾向を挽回せざりき。八十年代に及んで始めて再び隆昌の曙光を觀たり。

千七百七十五年乃至千八百十五年の經濟時期を規定せる條件には、亞米利加の獨立戰爭あり、佛蘭西革命及びそれに關聯せる戰爭あり、殖民地爭奪及び世界商業に於ける變動あり。これに依りて或る國家及び地方は違常の隆昌を効し、又或るものは甚しき衰亡と停滯とを招きたり。プロイセン、北部獨逸、ハンズ

ルビは先づ千八百〇六年に至るまで迅速なる發展を遂げ、即ち穀物輸出は増加し、物價は暴騰を來し、一切の相場に騰貴あり、商業は無双の發達をなせり、贅澤及び投機は昂進したり。言ふまでもなく千七百九十九年にはハンブルヒが劇烈なる市場停滯を経験したることは則ちこれなきにあらざれども、この現象は忽にして一掃せられ千八百〇六年に至るまで再び盛運を效せり。千八百〇六年以來獨逸は敗戦と共に市場停滯の惡運に襲はれ、この現象は平和締結後に至りても殆んど回復せられず、然り吾人の既に觀察したるが如く、二十年代に於て豊年にして且つ農業産物の市場停滯なりしが爲めに農業上の劇烈なる恐慌を助長せしめたり。大英國は千七百六十三年より千七百七十二年乃至千七百七十三年に及ぶまで大陸と等しく不景氣に襲はれ、其後亞米利加の獨立戦争の間に全く沈滯状態に陥り、ペルサイユ平和締結後千七百八十三年に於て殆んど破産し、少ビトにして尙ほその關稅及び殖民政策の改革に訴へて徐々にこれを回復せんとする以外に如何ともすること能はざりき。次でナポレオン戦争あり、よし商業上例へば千七百九十三年、千七百九十九年、千八百〇二年、千八百十年

に於けるものゝ如きあるゆる小停滯なきにあらざりしも、此戦争の爲めに英蘭は稀有の盛運に會し、依て殆んど全世界の商業及び殖民地を爭奪することを得たり。然れども千八百十五年に平和となり、而してこれと關聯せる景況變動の爲めに長期間の市場停滯に陥れり。佛蘭西も亦千七百九十九年、千八百〇四年、千八百十年乃至十一年に大恐慌に襲はれたり。千八百十五年乃至千八百五十年の間に英蘭はその大工業と其國外市場に於ける優勝力とを完全に組織したり。即ち然りと雖も其間に絶えず過大擴張をなされたる生産と對亞米利加商業と世界の信用市場將た中間商業の中心としてのロンドンの發達とは反覆して大打撃を蒙らざること能はざりき。千八百二十五年の恐慌は亞米利加及び其他國土を目標とせる輸出の法外なる昂進と過大資本輸出及び企業創設とに基き、既にこれが影響は幾分大陸及び北米合衆國にも及びたり。然れども停滯現象は既に千八百二十七年に雲散し、取引界の隆興となり、以て千八百三十七年に至りて再び恐慌となれり。主として北米合衆國に向けられたる商品及び資本の輸出は甚しく極端に走り、依て以て合衆國に於ける土地

投機及び銀行創設は眞に熱狂状態に達せり。千八百三十九年に英蘭に於て再び貨幣恐慌と信用恐慌と起り、千八百四十二年には木綿工業は窮狀に陥れり。其後千八百四十七年に至るまでは隆昌時代打ち續きたり、千八百四十七年の恐慌に就ては既に吾人の陳述せる所に屬す。北米合衆國及び或る程度までは佛蘭西も亦英蘭と幾分同時に幾分それに次で(千八百十五年及至千八百五十年の間に)恐慌に襲はれたり。

獨逸は千八百十八年乃至千八百二十六年の農業恐慌を千八百三十年以來漸く回復し、其後隆昌時期を呈し、關稅同盟締結、鐵道建設の發端、隆盛なる信用組織の發端と關聯して四十年代に及びたり。それより殆んど十年に亘れる不景氣時代あり、馬鈴薯病害、革命、手工業恐慌及び家内工業恐慌、小農民の危急は將に大に發展せんとする大工業を阻止したり。

千八百五十年代の初葉、主としてクリム戦争以來、全西歐及び北米合衆國を通じて無双の隆昌時代を效し、この時代は大體に於て千八百七十三年乃至千八百七十五年に及びたり。大工業、銀行制度及び鐵道制度は始めて堅實なる發達

の端を完成し、農業は相場騰貴の爲めに盛運に會せり。獨逸及び伊太利は長期間戦争なかりしを以てその政治的統一を成功し、自由商業運動は國際的分業を催進し、カリフォルニア及び濠洲はその金産出に依りて購買力頓に増大し、貴金屬の流入は以て商品相場を騰貴せしめたり。而して千八百五十七年及び千八百七十三年の國際的の二大恐慌と幾多の部分的の小恐慌とありたるにも拘らずこの盛運は屢々乎として進行したり。千八百五十一年の恐慌は北米合衆國市場が歐洲商品及び歐洲資本を以て充溢したるに發し、收獲變動の爲めに北米合衆國は購買力を失へり。無謀投機及び泡沫會社の濫設、法外なる融通手形濫用はこれと關聯せり。英蘭及び獨逸に比して難を蒙ること輕かりし佛蘭西は既に千八百五十年に取引所投機に依りて經濟界の濁流を幾分除却したり。爾他國土も亦反覆して恐慌に襲はれたるが、概して既に千八百五十八年乃至千八百五十九年の間にこれを回復したり。好況運動の原因は依然として優勢なりき。千八百六十四年英蘭は再び貨幣恐慌に陥り、千八百六十六年五月而かも金曜の凶日に亞米利加に對する信用過大の結果として信用恐慌に襲はれたり。これに次げる英蘭

の不景氣は、其後直に起れるその取引界の新隆興を禁止し、而して一大發展を遂げしめざりき。佛蘭西の戦争及び敗北は千八百七十年乃至千八百七十三年の間に佛蘭西に課するに償金を以てし。従て四十億マルクの戦争償金を收めたる戦勝獨逸の發展、並に埃地利、北米合衆國及び其他に於ける盛運は愈以て偉大なるものあり。鐵道布設、銀行設立、大都市の發達、鑛山業鐵工業及び機械工業將た世界商業に於ける進歩は、株式發行、有價證券投機、誑惑及び詐僞に依りて經濟界を無双に狂奔せしめたり。嚴密なる意味にての恐慌は千八百七十三年に始まりたれども、諸國に於て長期間持續したり。不景氣は殆んど十年間も回復せざりき。

たゞ幾分の盛況は千八百七十九年乃至千八百八十二年の間に起りたるが、この盛運は佛蘭西に於ては取引所恐慌、信用恐慌、起業會社恐慌(ポントト)の率ゐる union general の倒産—この株式は三ヶ年の間に五〇〇より二八八〇に騰貴し、其後四五ヶ月の間に三四〇に下落せり)と共に、北米合衆國にありては鐵道恐慌と共に終を告げたり。英蘭に於ては千八百八十四年乃至千八百八十七年の間に

嚴密なる意味の恐慌なくして非常の不景氣状態に陥れり。歐洲全般に亘りて農業上の危急状態は此不景氣を愈甚しからしめたり。千八百八十七年乃至千八百九十年の間に取引界は回復せり。ロンドン及び其他の大取引所は今や全世界—然り半野蠻國、破産國に對しても亦巨大資本を貸付け—従てそれ等國土が利子を支拂ひたる間はそれ等國土に向け輸出の増加ありし所以なり。千八百九十年アルゲンチンの財務代理者ベロリングがロンドンに倒産したりし際、ロンドンに毫も恐慌は起らざりしが非常の不景氣は避く可らざりき。然るに千八百九十三年北米合衆國に於ては大恐慌となれり。合衆國に於ては既に千八百九十年不況の徴候ありしが爲めに、保護關稅を引き上げ、銀貨を増鑄して以て人爲的に好況を呈せしめられたれば、この恐慌は愈容易ならざる變なりき。即ち破産數は千八百八十年に六萬五千七百件、千八百九十年に十八萬九千八百件、千八百九十三年には増加して三十三萬一千四百二十二件。而して六百四十二の銀行はその支拂を停止し、鐵道網の七分の一は破産したり。爾他諸國に於ける不景氣状態は千八百九十四年に始めて起れり、千八百九十五年以來—よしこの年末に一種

の取引所恐慌は起りたれども一再び一般に好況に向へり。

千八百七十五年乃至千八百九十五年以來は千八百五十五年乃至千八百七十五年に比して、文明諸國一般に經濟的隆昌運動著しからざりしことを斷言するも殆んど不可なからん。さりながら隆昌運動全くこれなかりしにはあらず、文明諸國の取引所に於ける個々年度の有價證券發行高に關する「ジョージデラヴェレ」の次掲統計このことを證明せり、この發行高は勿論從來企業に關聯せる債券切換、株式發行等に依り新資本新投資にあらざる額を含蓄すること少なからず。今百萬マルクを單位とし逐年にて示せば次の如し。

千八百七十一年	一二四七二
千八百七十二年	一〇一四
千八百七十三年	八七二七
千八百七十四年	三三七三
千八百七十五年	一三六三

千八百七十六年	二九二二
千八百七十七年	六三二四
千八百七十八年	三六四九
千八百七十九年	七五二四
千八百八十年	四四二六
千八百八十一年	五七四三
千八百八十二年	三六三二
千八百八十三年	三三四五
千八百八十四年	三九〇一
千八百八十五年	二五九二
千八百八十六年	五三六六
千八百八十七年	三九九七
千八百八十八年	六二八〇
千八百八十九年	一〇一四二

千八百九十年	六五一八
千八百九十一年	六一七八
千八百九十二年	二〇〇八
千八百九十三年	六三一八
千八百九十四年	一四二五二
千八百九十五年	五二二四
千八百九十六年	一三三七六
千八百九十七年	七六七六
千八百九十八年	八四三二
千八百九十九年	九〇一六
千九百〇一年	九四九二
千九百〇二年	七九四八

この統計表は隆替運動を最も較著ならしめ、景況動搖が如何に劇烈なりしか

千八百五十七年及び千八百七十三年の如き大恐慌なくして如何に景況が著大變動をなしたるかを證示するものなり。鐵の相場も亦一つの晴雨計なり。即ちスコットランド産出の生鐵一噸は、千八百七十三年に一一七マルク、千八百七十九年に至るまでに漸次に下落して四七マルクとなり、千八百八十六年までに四〇マルクに下落し、千八百九十年には五〇マルク、千八百九十四年には四七マルク、而して千八百九十五年乃至千八百九十九年に四四乃至四七マルクをなせり。ライン州、ウエストファリア産出の生鐵(ピット)は、千八百八十六年に五五マルク、千八百九十年に九四マルク、千八百九十六年乃至千八百九十九年に六七乃至六九マルク、千九百年乃至千九百〇一年に九三マルク、千九百〇一年十二月には六五マルクをなせるが如し。

千八百九十五年乃至千九百年の新隆昌時期は、北米合衆國、獨逸及びベルギーに於ては極めて著大に、英蘭、佛蘭西及び其他國家にては適度に、露西亞にありては保護關稅に依りて人為的に起されたるものなり。商業契約、豐年、國內需要の増大、電氣應用の進歩、金産額の増加は、諸國殊に獨逸に於て隆昌

運動を惹起せしめたるが、尙ほ千八百九十九年までは多少制限せられたり。獨逸に於ける生産額の著大増加に關しこゝに二三の統計を掲げんか、獨逸の輸入は千八百九十二年乃至千八百九十四年に年額七十億マルク、千八百九十九年乃至千九百〇一年に年額百億マルク。プロイセンの石炭産額は千八百九十二年に六千五百萬噸、千九百年に一億〇二百萬噸。その生鐵産額は千八百九十二年乃至千八百九十三年に五百萬噸、千九百年に八百五十萬噸。獨逸の銅産出は千八百九十四年に六百萬噸、千八百九十九年に九百六十一萬噸。「オイレンブルグ」に依れば千八百九十六年乃至千九百年の間に、金屬工業及び機械工業は約そ八二プロセント、電氣工業は約そ一一〇プロセント、建築工業は約そ七四プロセント、石土工業は約そ五一プロセントの増進あり。獨逸の株式會社の設立は千八百九十三年に九十五にしてその資本七千七百萬マルク、千八百九十九年に三百六十四にしてその資本五億四千四百萬マルク。獨逸の信用株式銀行は資本一千萬マルク以上のものに就て觀るに、自家資本と借入資本(引受にあらざるもの)とを合算して千八百九十三年に二十六億三千六百萬マルク、千九百年には五十

六億六千四百萬マルク。株式資本及び銀行資本の増大が幾分法律上從て名目上のことに過ぎざるはもとより言を須たず—これ組織變更及び合同の結果なることあればなり。獨逸の生鐵消費額は、人口一人宛千八百八十年に五一・六キロ、千八百九十年に八八・六キロ、千八百九十五年に一〇四キロ、千九百年に一六二・五キログラムの増加あり—蓋しこれ如何に好況が生産手段工業より効されたるかをト知すべき一見徴なり。

千八百九十八年乃至千九百〇一年に相場の大暴騰あり、資本は缺乏し始め、信用保證は過多に失せり、千八百九十九年の秋、露西亞は恐慌に襲はれ、東歐及び北歐に資本缺乏し、西歐に於ては信用は著しく控へられたり。獨逸帝國銀行は千八百九十九年十二月十九日に割引率を七プロセントに引き上げたり—これ空前の高率なり、而してこれ恐慌の襲來すべき警報なりき。爲替相場は千九百年の間に既に下落傾向を示し、千九百年の春北米合衆國に一時的停滯現象起れり。千九百年十月より千九百〇一年の中頃に至る間に、若干の獨逸抵當銀行及び信用銀行並に工業會社は破産したり。嚴密なる意味の貨幣恐慌及び信用恐慌

は尙ほ未だ起らざりしが、悲觀と憂慮と日々に加はり、相場は下落し、株式相場も亦暫時下落し、而して其後不景氣は廻期間に襲來して實に現今(千九百〇三年三月)に及び。破産數は千八百九十六年には六千九百九十件なりしが、千九百〇一年には九千三百八十七件に増加せり。銀行支配人及び銀行員の詐僞的行動と輕卒なる處置とは夥しく曝露し、恐らく曝露せざるものも亦多かりしなるべし。營々たる利己的狂奔は常に意志薄弱なる輩の道德心と冷靜とを擾亂せざれば止まず。貨銀は下落し、失職者は増加し愈々憂慮すべきの状態を呈して一般に危急勞働は開始せられたり。幾多の鐵工業及び機械工業を觀察するに、その株式相場は千八百九十八年乃至千八百九十九年に二〇〇乃至三〇〇なりしに、今や下落して一〇〇となり、幾分四〇乃至六〇に下落したるもあり、千八百九十九年に一〇乃至三〇プロセントの配當をなしたる多くの會社は、千九百〇一年に至りてかゝる高率配當を拒絶せざる可らざりき。一切の配當は著しく減率せり。

北米合衆國にありては、保護關稅、株式證券銀行の人為的增加、巨大トラス

ト運動ありて以て、千九百年より千九百〇二年の中頃まで能く變動を抗止し得たり。然れども信用保證は法外に増大せられ、千九百〇二年は資本の缺乏愈々急を告げたり。これを以て果して恐慌に襲はるべきかは斷言し難けれども、不景氣は既に先きにも屢々經驗したるが如く、恐らく歐羅巴のそれに數年後れて起り來るべし。

外的協働原因は一二にあらず、例へば收獲、トランスヴァール戦争、支那遠征の如きあり。然れども根本原因は古今の別なく當然の隆昌運動が過大に誤算せられたること、その所謂隆昌運動が過大投機、會社濫設、相場投機、輕舉及び詐僞、將た不當の信用保證に依りて需要、生産力、現在資本に對し均勢を失したること、而して必然的に不景氣に陥りたることにあり。されどもこの不景氣は嘗て千八百七十三年乃至千八百七十九年のそれに比するに遙かに緩和なるを得たり、蓋しその理由は主として獨逸銀行の基礎が一段堅實となり組織改善を加へられ目前の利害に没頭せざることゝなりたるに在り。カルテルが幾分これを調節し極端なる競争を禁止したるに在り。千八百七十三年の場合と比し恐慌

に對する國家の處置が進歩したるに在るなり。吾人はこれ等の事項に就て次に論究する所あるべし。

二百四十一

從來の恐慌論及び恐慌に關する文献。こゝに吾人は上來陳述の結果を總説するに先ち、舊恐慌論及び近世の恐慌文献に關して少しく叙述する所あらんとす。蓋し舊恐慌論が基礎とする所の觀察資料は根本的に貧弱なるものなり。

約そ千七百年に至るまで概して景況變動に關し、隆昌時期、恐慌時期及び沈滞時期に就いて毫も科學的寫家の闡明せられざりしことは——吾人これを斷言すに憚あらず。嘗て不況時期は一般に人間の罪惡に對する神の懲罰と信ぜられたり。第十八世紀の啓蒙時代は恐らく多少これよりも進歩し、乃ち始めて事實的に恐慌現象を觀察せり。然れども所謂重商主義は始め恐慌に對し何等妥當なる處置に出でず、その憂ふる所はたゞ一に國家收入の減少なり、關稅引き上げに依り過重統制に依りてこの難を救濟せんとしたるのみ。千七百十三年乃至千七百二十年、千七百三十六年乃至千七百四十三年、千七百六十五年乃至千七百七

十二年、降ては千七百九十九年等に於けるプロイセンの如き即ち然り。それ然りと雖もこれと同時に健全なる恐慌政策の發端も亦これなかりしにあらず——例へば千七百十三年乃至千七百二十年の「フリードリッヒ・ウィルヘルム」一世、七年戦争後の「フリードリッヒ」大王の政策の如き是れなり。而して精緻明晰なる觀察者「ジェームス・チャアルト」は恐慌に對して次の如き聰明なる斷案を下せり。彼曰、供給と需要との均勢は決して絶對的なること能はず、然れども其小動搖は多く財界を攪亂するものにあらず。かゝる小動搖は抑々經濟發展に附帶せる現象なり。然るに財界甚しく攪亂せられ——生産費は増大し販路は杜絶するに至れば、則ち當局政治家はこれに處して、或は販路及び贅澤を作振し、或は輸出入を案排し、以てこれを統制しこれを救濟せざる可らずと。

千七百八十年乃至千八百十五年の恐慌及び停滯は大に社會の輿論を激發し而してこれが理論的推究を喚び起したり。輿論は過剰生産の原因を機械の應用に歸し、時々の勞働者解雇を難じたり。國民經濟の抽象的自然法説はこの見解に反對せり、その雄なるものを「ジャン・バプチスト・セイ」、「ジェームス・ミル」及び「リカルド」

となす。此等の學者は個々の論點に就てはもとより齟齬すれども、大體に於ては則ち相一致し、「トゥッゲル」及び所謂重農學派に準據して説いて曰。畢竟生産物は常に生産物を以て購買せらる、この故に一般に一樣に生産増大せらるれば所謂過剰生産なるものある能はず、何となれば或る商品の増加は常に他の品の増加に依りて均勢せらるればなり、よし何れの處にか部分的過剰生産なるもの起りたらん場合には、これこれと別の處に於ける部分的過剰生産に原因し若しくは偶然の外的事變例へば凶年及び戦争の如きをその原因とせり、又若し小停滯（販路停滯）の起りたる場合には忽ちにして、自然に均勢せらるべしと。所謂販路論は「セイ」及びその後繼者より觀ればさながら彼等の所謂全調和學說の中心點たり。而して彼等は其の學說を以て苟くも國家の干渉を拒斥し、一切の保護關稅を難じ、勞働機會の爲めに（解雇現象を救済せんが爲めに）機械を禁止せんとする要求に抗爭せんと欲したり。「セイ」及び「リカルド」は其後事實を精密に研究し、自家著述の改版に於て反對論者に大讓歩をなせること言ふまでもなく、從て彼等の樂觀説は痛く制限せられたり。然れども自由主義をとれる彼等の後繼者は今日に

至るも尙ほ舊軌道を捨てず。彼等の學說に於ける妥當の點は、畢竟數年及び數十年の後に觀察すれば、遂には生産及び消費は自然に反覆均勢を失はざることになり。たゞ争點とする所は、此均勢が果してしかく容易にしかく迅速に起るべきか、擾亂及びその結果は如何に憂慮すべきものあるかに繫かれり。尙ほこれに附言すべきは、争點はもとより抽象的客觀的過剰生産なるもの果して可能なるべきか——換言すれば商品相場最も低廉に所得分配最も妥當に交通組織最も健全なるが如き場合にありても尙ほ販路停滯となるべきかには關係なきこと是れなり。かゝる過剰生産なるものは嘗て何人も想像せざりし所、又生産の全部門に全然一樣なる過剰生産なるものも問題にあらざるなり。これと異なり過剰生産てふ現象が個々生産部門より起れることは吾人の常に觀察する所なり。而してこの現象が國民經濟の大部分に影響して多少これを困難状態に陥れしむるが如き場合に、吾人これを一般的過剰生産と名けたる迄なり。

「セイ」及び「リカルド」の學說に始めて反對したるものは「ロバート・オウエン」に影響せられたる「マルサス」及び社會主義的情調を有せる「シスモン・デー」なりとす。この

兩學者は「セイ」及び「リカルド」の如く樂觀主義者にあらず、しかく獨斷論者にもあらず。社會生活に對する實際主義的觀察者なり。「マルサス」曰、人口過剰現象の起るが如くに過剰生産の現象も亦容易に起らざればならず、殊に富豪の手に巨資の積集せらるるに依てこの事あり。國民經濟上苟くもその相互關聯の一切の要素は正當なる均勢状態をなさざる可らず、而して現には然ること能はざるもの一再にあらずと。「シスモンディ」は近世生産の無計畫と無秩序とを難じ、これを以て部分的過剰生産現象の原因と斷言せり。「リカルド」の言ふ所に依れば、農業労働者と織物業労働者と一様にその生産を増加せば兩者は相互にその増額部分を交換すべし——この主張に對し「シスモンディ」は當然の疑問を提して曰、然らば果して農業労働者は能くその力に協へば（生産増加に依りて）、織物業労働者の上衣調製増加に應じて忽ちに上衣の需要を増加すべきか、又果して織物業労働者はこれと等しく倏ちにその麵粉需要額を増加すべきかと。然り而して生産と需要との不一致は常に部分的現象たるのみならずして亦一般的現象たり。所得分配の不平等、賃銀下落、自由競争の現組織に基きてこの不祥現象あり。傍

若無人の私經濟的利潤活動はやゝもすれば不當生産を效し、實に生産が需要を目標とせずしてたゞ單に目前の相場將た利潤機會を目的とするが故にこのことあり。企業家の利己主義的利害に對抗せる均勢力は現に恐らく餘りに微弱なるべし。この現状を改善せんが爲めには、企業家及び労働者の連帶責任が承認せられ、企業家が労働者の疾病、老衰、傷害、失職を責任を以て救済し、而して國民一般の消費能力に昂進なかる可らざらん。

「マルサス」及び「シスモンディ」と雖も幾多の點を看却したり。例へば資本貯蓄者及び資本の生産的利用者が如何なる需要關係に立てるかの如きはその究明せざりし所に屬すれども、此の兩學者は凡そ生産及び消費の間に存せる中間連鎖を擧げて看却せる獨斷論を是正したる先驅者たり。彼等は生産及び消費を常に順應一致せしむる上に如何なる困難ありて存するかを且つ觀察し且つ批判したり。繼起時代は大體に於て多く新機軸を出さず。一方抽象的理論家は「セイ」及び「リカルド」に依據し、然らざる側の學者は則ち「マルサス」及び「シスモンディ」を繼承せるのみ。然るに四十年代以降社會主義者はこの後者（「マルサス」及び「シスモンディ」の

「セイ及びリカード」に對する非難を更に極度に推究し、恐慌を以て現代の不完全なる總經濟秩序に因するものと觀じ、恐慌は即ち現經濟秩序の結果にして且つこれが破壊者なりと説けり。(譯者曰、本譯補第一冊概論の社會主義の文獻に就て、社會主義の主張とこれに對する歴史派の批判と余の補説とに根本的に批閱あらんことを望む)。

「ブルードン」は恐慌の原因を私有財産及び資本利子の制に歸し、無利子信用制を新たに施行して以て恐慌現象を救済せんと欲したり——蓋し全然架空の構想なり。「ルイブラン」は自由競争の弊害を攻究し開陳したり。「ロドベルトス」は恐慌を説明して、これが原因は生産それ自體に對する民衆の僅少配分にあらずして、生産力増進あるにも拘らず生産に對する勞働配分の減退することに在りとなせり。「マルクス」は恐慌を論じて、これ資本主義的經濟秩序の組織に於ける利潤率及び資本積集の減退せる結果なりと説けり。彼の觀る所に依れば恐慌は抑々今日の市民的財産秩序及び生産秩序の生産力を統制すること能はざるの徵候なり。僅かに一時的現象としては資本無償及び資本利子引き下げに依りて多少財界を救

濟することを得べし。一時的現象としては、技術上の進歩及び貸銀引き下げに依り利潤は増大することあるべし。(本譯補の第七冊 **二百三十二** 參照)。恐慌は反覆して益々劇烈となり、社會民衆の沈淪状態は愈々悲惨を加へ、賤民勞働豫備軍は愈々増加せざればならず。國民の消費力は増大せずして不當配分に依りて益々消沈し、遂に大恐慌となり社會的革命を惹き起して賤民支配に陥り共產主義的生產秩序とならざれば止まずとなす。

かくの如く恐慌を論じこれを現國民經濟の根本的基礎と關聯せしむるは、よし如何に妥當に且つ自然的ならんとも、かゝる半ば架空の史觀及び將來理想は恐慌現象の本質を正當に解釋せるものにあらざるなり。凡そこれ等の舊社會主義者は恐慌を巨細に亘りて研究することをなさず。依て一般思想に彷徨せるのみ。詳言すれば一面に勞働者及び社會民衆の僅少所得、社會大多數者の過少購買力——所謂消費減退と他面に無謀無秩序なる生産、企業家の利潤欲とこれ恐慌現象の主要原因なりとす。市民的學者も亦多くこの説に依據せり。

所謂消費減退論は「マルクス」の幾分承認し幾分非難せる所、「カウツキ」は近時

これを恐慌の究竟的基礎原因と稱し、「トリーガン」は則ちこれを否定したる所のものなるが、労働者階級の所得根本的に増大すれば消費及び國內需要を増進し、不景氣時代に於ける民衆の抵抗能力を昂進し、需要動搖の以て消滅すべきことは否認す可らず。従て吾人はこゝに次の如く附言することを得べし。曰、餘りに容易に且つ餘りに急劇に消費を制限するは恐慌を甚しからしむる原因なり、貧民の所得増加は富豪の資本積集を制限する所以なりと。貧民の所得増加は或は屢々會社濫設を促すべき不當貸付資本の劇増を輕減し得べきも、恐らく時々
の利率引き下げを絶無ならしめざるべし、何となれば若しこれを絶無とすれば細民の小口貯金を劇増せしむべければなり。この結果は一般に貯蓄少なく資本積集も亦乏しきこととなるべし、然れば則ち恐慌は果して經濟的總發展の爲に事ろ有害なるべきかは疑問なり、然りと雖も如何なる場合にも社會主義者は所謂消費減退を永久的状態と信じ、一時的現象とは認めず。従て實際の事實と矛盾せり。好況時代には消費減退なるものなし、一切階級の需要——然り労働者の需要も亦劇増し而してその幾分が満足せられざるの状態なり。暴騰相場の到底維

持す可らざるに及んでこゝに好況時代の壊裂となる。恐慌及び不景氣を以て始めて消費は制限せられ所謂消費減退となるなり。而して停滯状態に陥れる過剰生産の主要領域は近時にありては消費財の市場には極めて稀れにして。主として販路停滯となるは石炭、鐵、機械なり。この種の過剰生産は労働者の消費に著大増加ありとも如何ともすること能はざるなり。

若しそれ恐慌の原因を求めて、その現に全經濟生産が統一計畫なく且つ社會の總利害を無視せるの事實、幾多利己主義的企業家の一時的利潤欲が市場、生産、商業を支配せるの事實に基せることを主張するは、蓋し前者に比し遙かに正當なり。現國民經濟の投機的私經濟的取引組織とその相場騰落とその市場組織及び交通組織とその競争過程とは思ふに恐慌現象の究竟原因なり。これ實に社會主義者の主張せる所なるのみならず、「シユレ」及び其他學者も亦主張する所なり。されどもこの總過程を無政府主義的無計畫と斷言する上に甚しき誇張あり然り錯誤あり。見よ、報告装置は益々發展し、商業政策、商業通信は愈々發達して、以て需要とその將來變動との大體を揣摩測定せしめんとするにあらず

や、又見よ、相場の一上一下は將來損益に繋かれる強烈なる動機に依りて生産及び商業を正當なる軌道に轉向せしめんと力むるにあらざるや。然り而してこれ等の機關は或る程度まではその目的を達し而して平時にありては能くその効果を收む。若し人類が冷静に健全に眞實に活動し、自家の利己的利潤期待と共に他人及び社會全體の上に顧慮し、目前の利潤と共に將來を慮かることを忘れずんばこの種の手段を以て既に十分なり。大多數のものに就てこれを觀るに取引組織は既に今月と雖もたゞ單に利潤欲及び傍若無人の利己主義のみを基礎とせず。若し利己主義的活動に陥るものあればこれに對して統制を加へざる可らず。現狀はこの統制組織發達の過程に在り、而して能くこの統制を實施し得たる限り、その力は以て恐慌、不當相場變動、過剰生産をも制限せずんばならず。尙ほ吾人はこの統制に關し并に必要なる改良と變更とに關して後段に叙述せざる可らず。たゞこゝには社會主義者と齟齬せる斷案のみに就て一言すべし。曰、現國民經濟秩序に缺點あり、而してこの缺點は殊に好況及び過剰生産、恐慌、恐慌に引き續きて起る所の不景氣狀態に歴然として掩ふ可らず。則ち然りと雖

もこの秩序を破壊しこれに代ふるに忽ち社會主義的秩序を以てす可らず、たゞ以てこれ等の缺點を漸次に排除すべきのみ。畢竟は心理學的及び道德的原因を變化し、現在の不完全なる制度を改善することに努力せざる可らず。世界の改善は大なる暗語(譯者曰、社會主義者の所謂社會化、舊派經濟學者の所謂自由放任の如き是れ)に期す可らず、眞面目にして冷静に而してもとより遠大なる見地に立てる漸進努力に俟つべし。

科學的恐慌論を提供せる近世文獻も亦この確信を懷けり、即ち「ベルンシュタイン」、「カンブプマイエル」、「トットガン」、「バラノウスキ」の如き社會主義者の恐慌論、「トットク」、「クレメントジャグラー」、「シェフレ」、「ミカエリス」、「ダヴィス」、「レキンス」、「ヘルクナー」、「ウェルス」、「スピートホッフ」の如き市民的經濟學者の恐慌論これなり。この近世文獻は凡そ恐慌現象に立ち入りて一段信頼するに足るべき巨細組織を闡明し、恐慌の個々過程及び個々現象は抑々如何に判斷すべきかを示證したり。今や吾人は貨幣現象及び信用現象は大生産恐慌を惹き起すべき當初の原因にあらずして、實にこの恐慌を劇甚ならしめ且つそれ自體にも亦擾亂を惹き起し得

るものなることを明かにせり。吾人は今や不景氣時代に積集せられ好況時期に消耗せらるゝ貸付資本が如何に大なる影響を及ぼさんとも、經濟生活の動搖をたゞこの一原因に歸するの誤謬なるべきを概観したり。吾人は今や會社創設、過大投機及びそれに類する現象、將た好況時期に起る所の輕舉及び詐偽の範圍を多少正當に測定するを得べし。吾人は相場運動及び勞働市場の現象を精密に研究し且つ測定せんとするの端を啓けり。社會政策學會の調査は最近恐慌に關してこの方向に愈々益々眞理を闡明すべし。恐慌に關する吾人の上來陳述はこの全文獻を基礎とせり。この全文獻は今や又吾人をして不完全ながらも、尙ほ恐慌に關する總批判をなさしむるに足れり。

二百四十三

總批判、經濟的動搖及び滯停將た恐慌の種類。こゝに吾人は本冊二百三十八の序説を承けて次の如く陳述せざる可らず。曰、凡そ國民經濟

體制にはその規模廣大に組織複雑すれば愈々以て滯停あり、動搖あり、過渡時代あり、繁榮時期及び衰頹時期あり、これ蓋し國民經濟體制も亦一切の有機生活と同じく發達と生活と死亡との理法に従へばなりと。然れども吾人は今やこ

れに附言して左の如く述ぶることを得べし、曰、これ等の動搖は國民經濟的發展過程の間その大小及び種類に根本的變動を蒙るべしと。さてこの變動の原因とその模型的過程とは吾人の認識せざる可らざる重要問題なり。

この動搖は技術幼稚に、自然の利用乏しく、收穫豊凶の變著しく、社會組織未だ大に發達せず、永久的戰闘状態をなせる種族及び小國家の生活にありては、それ自體に後代に於けるものより劇烈なり。領域經濟及び國民經濟の發達となり、諸國民經濟の間に世界經濟を發展し、依りて交通將た長期の平和時期と相伴て分業大に擴張せらるれば、その經濟生活状態は自然原因、戰爭及び疫病の災禍に襲はるゝこと少なく、而かも同時に財貨流通の組織に攪亂を生ずること曩時の比にあらず。而してこの攪亂は差當り市場の擴大に正比例すべく。たゞ社會組織の秩序完全して能く國際的協働を統制するに及んで漸次に益々この攪亂を制し得べし。斯の如く吾人は今日より攪亂の必然的發展とその諸相とその雜多の原因とを概観すれども、而かも此等一切の攪亂及び病弊とその諸相全般とを一括し、これを單簡に恐慌と稱せんことは即ち欲せざるなり。

差當り如何なる場合にも、屢々恐慌と稱せらるゝ經濟的總現象に就きてや、長期間に亘れる二大群を分類すること——換言すれば**二百四十**に模型的運動と稱したる廻期的隆昌運動及び衰頽運動を區別することは妥當なるが如し。吾人は先づ諸國民及びその國民經濟全般の數百年間に亘れる隆昌時期と衰亡時期とを觀察し、次にその國民經濟組織及びその對外的地位の著大變動時期を研究すべし——この變動時期も亦多くは數十年然り屢々それ以上の期間に亘れる現象なり。

九〇

就中國民及び國民經濟の一般的隆昌は、古代國民及び個々近世國民の盛運と衰亡とにこれが實例を求むるを得べし。衰頽は一時的現象なることもあり、例へば第十六世紀以降の伊太利及び獨逸のその如き是れなり。而してこれが原因は主として明かに經濟的なり、近代の生産恐慌の場合にも幾分はこれに類する事例なきにあらず。然れども大體觀察上に重要なるは則ち經濟的原因にあらずして更に遙かに一般的原因なり。それ現代の生産恐慌は主として益々富裕ならんとする近世國家の發展上に於ける熱病にして、衰亡國民と雖も亦この病弊を

免かれざれどもこの場合には前者と其の特色を異にせり。これに關する研究が混沌とし且つ錯雜する所以のものは、例へば舊社會主義者主として「マルクス」の如く、現代恐慌がそれ自體に觀察せられずしてたゞ單に現文明時代將た現國民經濟全般が漸次に奈落の底に陥らんとするの徵候として觀察せらるゝ點に在り。「トローガン」の著述は大體に於て好著なるが、尙ほ彼は英蘭の經濟的衰運を究めてこれを資本主義の無政府状態に歸せんとし而して英蘭の恐慌それ自體を敢て認識せんと欲せざるの弊に陥れり。

國民經濟組織及びその對外的地位の變動現象は先きに**二百三十八**に於てそれ自體に觀察したる所なり。國民經濟組織の內的變動と對外權力關係及び經濟關係の變動と即ち是れなり。これ上に觀察したる大隆替運動の部分現象にして、その偶然にして生産恐慌貨幣恐慌と同時に起り而してこれ等恐慌を助長せしむる場合に殊に劇甚なり。然れどもこの變動現象はそれ自體に獨立せるものにして、社會的危急状態將た商業政策上の權力推移と名けられんよりは寧ろ國民經濟的組織の變動と稱せらるべきものなりとす。それは兎に角英蘭の農民階級の

九一

滅亡將た千七百八十年乃至千八百七十年の間に於ける手紡績工及び手織工の消滅が千八百二十五年、千八百五十七年、千八百七十三年の商業恐慌と根本的に相異せることに就ては苟くも誤解ある可らざるなり。

若しそれこの商業恐慌のみを問題とし而してこれに對する收獲、疫病及び上に掲げたる經濟的組織變動及び權力推移の影響を問題外とせば、則ち分業的新國民經濟に於て通則として廻期的に反覆せる隆昌現象恐慌現象及び衰頹現象の取扱となる。詳言すれば樂觀主義と悲觀主義との間に一上一下せる精神的民衆状態なり。經濟的生産増加及び消費増加の過程なり。而してこの過程は僅かに數年間歩調を一致し、而して後停滯となり、恐慌となりて交通組織を一般に萎痺せしめ、不景氣となりて國民經濟生活の過程を數年間に亘りて阻碍し幾分これを困弊せしむ。これ主として工業商業、銀行制度及び信用制度、取引所に起る所の現象にして僅かに幾分は農業にも亦これあれども、相場の變動に依り、所得及び其他に對する反動に依りて、時にその波及範圍に廣狹の別こそあれ國民經濟全般に影響せずんばあらざるなり。

この現象はその根本的特徴に就て觀れば極めて相一致せり、吾人が上に該現象の模型的過程を開陳したる所以のものに在り。されどもその個々にこれを察すれば幾多の齟齬あり、從てこれを若干群に分類することを得べく而してこれに歴史的變動ありて存することを主張し得べし。その歴史的に如何に變動したるかに關しては吾人これを後段に論及すべし。差當りこゝには恐慌に關係せる個々の原因と主要機關とに準據して恐慌を分類せんとす。

凡そ這種現象は嘗ては單に恐慌若しくは商業恐慌と稱せられたり。これを商業恐慌と名くるは、抑々恐慌が交通組織、相場、販路停滯に最も劇烈に現はるるに在り。さてレキシスは最も重大にして且つ最も恐怖すべき恐慌たる生産恐慌に對し、純商品商業恐慌と純取引所恐慌と純貨幣恐慌と純信用恐慌とを區別し。尙ほ幾多の分類を試みたるものもあり。

恐慌に純を附するは(純貨幣恐慌其他)これを以て該恐慌がそれ自體に起ること而して生産恐慌と結合する場合も亦あり得ることを意味せんと欲するなり。貨幣恐慌とは支拂事項に於ける停滯の謂なり。貴金屬輸出若しくは流通昂進に伴

九四

ふ貨幣需要の増加の結果、若しくは千八百四十八年に於ける如く革命運動の結果として貨幣の缺乏となり。若しくは良貨の缺乏通貨に對する信用の缺乏せる状態即ちこれなり。信用恐慌とは信用殊に商人信用の停滯せる謂なり。豫じめ爲替及び銀行券の發行が過大に失せる場合、紙幣が甚しくその價值を失へる場合には、やゝもすれば確實なる信用と雖も向後は缺乏を來たし、一切の支拂多くの取引業は爲めに脅迫せられざるを保せず。資本恐慌とは流動貸付資本の涸渴の謂にして、依て取引業殊に新設取引業務の經營遂行を困難ならしめ。投機恐慌とは有價證券恐慌及び起業恐慌、土地投機恐慌、商業商品恐慌の謂なり。有價證券恐慌は有價證券、株式、公債の過剰發行に因し、その相場が人爲的に暴騰せられ而して後に忽ちに暴落を來たすに坐せり。殊に取引所にて遂行せらるゝ冒險的狂騷的起業の過剰はこの結果を招かずんばならず。依て又起業恐慌及び取引所恐慌の名あり。若し投機の目標が都市の土地及び建築物に在ること、例へば千八百七十年乃至千八百七十三年のウイーン及びベルリンに於けるが如き、千八百九十八年乃至千九百〇一年のベルリンに於けるが如きか、若しくはその

目標が農業の急劇擴張將た田舎土地の購買に在ること、例へば嘗て屢々北米合衆國に於けるが如き、現に隨處に殖民地に於けるが如きの場合には則ち土地投機恐慌の勃發あり。而して投機の領域か商品市場、商品相場騰貴に存すれば、投機は故意の手段に依り、倉庫に商品を封入し、供給を餘りに長く差換へ、かくして相場が遂に再びその眞水準に復歸するに及んで商品商業恐慌の破裂となる。

九五

凡そ此等の恐慌は生産恐慌と結合することあり得べく且つ事實上にも屢これと關聯せり。その獨立的に起る場合には然らざる場合に比して恢復すること一段容易なり。而してその原因は多く單に心理學的なり、その領域は根本的に狭く、取引所、市場、支拂組織及び信用組織に在り。然れどもこの恐慌及び交通攪亂か生産手段若しくは消費財の過剰生産に依り、工場鐵道鑛山業の過多建設に依りて起さるゝ場合には、これが救治及び恢復は愈困難にして且つ長期間を要す。最近世紀の大恐慌はこの種の生産恐慌、工業恐慌なり、而して幾分は又農業恐慌なり。

この種の恐慌に限りて事實上の過剰生産と關係せり。農業上の原生産物に於ける過剰生産は舊文明國土にありてはたゞ除外例として、一系列の豊年に依り技術上の大進歩に依り従來外國販路の封鎖に依りて起り。反之處女的未耕地の領域に於てはこの恐慌は容易に起り殊に原生産物の輸出が甚しく動搖せること例へば北米合衆國、アルジェンチン、濠洲の如き場合に殊に然り。工業品の過剰生産は爾他生産物のそれに比すれば遙かに容易に、その販路がそれ自體に動搖し、屢國內販路に加ふるに外國販路の著大なるものある場合に殊に然りとす。生産者をして生産を増大せしめんとするものに一系列の臨時原因あり―新市場技術上の進歩、交通手段の大改善、資本充溢の如き即ち是なり。この臨時原因に加ふるに一般的樂觀主義あり、相場は著しく騰貴し、然り生産の増大せるにも拘らず尙ほ一般に生産不足の憂慮せらるゝ場合例へば千八百九十九年乃至千九百年の間、獨逸に於て殆んど單に想像的の所謂石炭欠乏ありしが如き場合には、多量生産は容易に而かも大概の場合に知らず識らずの間に過剰生産となる。將來需要増大の概算は消費財に對しては恐らく容易なれども、生産手段の場合

には則ち常に困難ならずんばならず。この場合には將來數年間に亘れる需要を問題とし。多量生産は數年間の準備をなさざる可らず。既に舊經營に變動あり生産増大せるに、尙ほ屢新たに業務經營、交通手段、次では銀行の發展活動あり。

變動し増大する所の將來需要を豫じめ正當に概算せんとするの目的は、摸索將た試證を経験しつゝ、始めて到達せらるべし。而して亂調を救濟すべき一定部門に資本と勞働とを投ずるに當りて或る方面に餘りに偏する場合にありて殊に極めて徐々たらずんばならず。生産力分配上に變動を效さんことは相場の變動、恐慌、不景氣に依るの外あらざるなり。

さて恐慌及び停滯の特徴たる資本損失と失職とが深く憂慮すべき現象なるとは疑なけれども、隆昌時代を愈昂進せしめ而して後恐慌時期に曝露する所の道德的濫用に至りては恐らく更に痛嘆に値すべし。それ然りと雖も茲に全然看却すべからざる一事あり。凡そ一切の人間生活に於けるが如くこの場合にも亦變動には善なる方面もあり。幾多の固定的現象は實に好況時代の産物なり。殆ん

九八

ど一切の恐慌は好影響を齎らし、巨萬の富をなす者も亦あり。賃銀は近時概して著しく騰貴し、而して不景氣となるも賃銀下落率はその前時期に於ける騰貴率の如く甚しからず。恐慌は殊に基礎堅固ならず監理も亦その當を得ざる業務經營を淘汰し。失職の運命に陥る者も主として劣悪労働者なり。好況時期には主として生産手段工業及び大市場工業の増進あり、不況時代に至りては嘗て好況時期に萎痺せるありとあらゆる中小工業、自由職業、官吏は再び幾分増加す。不況時代には人皆新販路を開拓せんと工夫し、節約に出で、社會上及び經濟上の改善を計らんとす。人口は増加すれどもその割合は比較的急劇ならず。國外移住は愈著しく死亡率も亦増大すること言を須たず。千八百四十二年乃至千八百五十二年、千八百七十五年乃至千八百八十八年の獨逸は幾多の改良と進歩との基礎を確定したるが、これ等の改良進歩は好況時期に恐らく何人も夢想せざりし所に屬せり。時に危急あり且つ特殊の刺戟あるにあらずんば社會は沈滞し衰頽す。

最近二三世紀以來に起りたる景況の廻期的變動は豫想せられ得べき將來に全

然止まざること確實ならん。然り群集精神的及び取引技術的原因ありて以て此變動の勃發を止む可らざらしむ。既に「マルクス」は固定資本の改變期間(例へば機械の摩滅して用をなさざるに至り新たに補充を要するまでの期間)がこの變動を規定することを指摘したり。吾人も亦抑々生産の大擴張を必要とし而して相場状態に依りてこの大擴張か刺戟せられ而して又これが爲めに事實上の進歩が可能なるの期間と市場輿論を轉向し相場状態を變更するに必要なる期間(概して比較的長期間)とか二年乃至五年にして隆昌時期を變じて不景氣時代とならしめ不景氣時代を變じて隆昌時期とならしめたることを斷言するに不可なかる可し。社會は凡そ此等循環變動の間に、多年の準備労働に俟て、新たに經濟上の物的基礎を得。景況變動の上一下は個々のこれを觀察すれば、發明、世界市場の膨脹、資本積集、政治上及び經濟上の改革に依りて規定せられて、或は好況を呈し或は不況となるべし。然れども大體に觀れば變動時期は寧ろ長期間となり恐慌は愈稀有の現象となれり。然りと雖もこの變動が全然絶無に歸せんが如きは、今日技術上の進歩、人口の増加が最早起ることなく、世界市場も亦その究

竟の發達を遂げ終れることを假定し得て始めて想像し得べし。さりながら果して此の如くなれば人類社會の著大發展も亦最早起ることなかるべきなり。

されどもこれに關しては先きにも陳述したるが如く、動搖及び恐慌そのものが嚴密に同一不變狀態を呈すべしとは主張すること能はざらん。舊時の停滯現象と新時代の恐慌との大差點は吾人既に本節の劈頭に指摘せり。千六百五十年より現代に至るまで、近世交通組織と關聯せる隆替運動は、寧ろ一地方的なりしものより漸次に國民的となれり世界經濟的となれり。個々工業の停滯は擴大して諸ろ生産部門のそれとなれり然り波及して大多數生産部門のそれとなれり。分業及び世界經濟の發達に伴ひ支拂組織及び信用組織の愈復雜を加ふるに伴て、停滯感情と經濟上の直接停滯原因とは、益々急激に益々廣汎に波及せずんばあらず。然れども亦他面よりこれを觀察すればかく波及する所の動波それ自體が漸次にその高度を減じて緩和せられ、その動衝が時間的及び地域的に愈分配せらるゝことを斷言し得べし。

好況及び恐慌に伴ふ濫用、輕舉、株式投機、盲目的相場投機は第十九世紀に

於けるよりも第十八世紀に於て甚しかりき。利潤に没頭せる信用の過大保證は千八百六十年以後と比しそれ以前を以て遙かに憂慮すべき狀態を示し。企業創設者の濫用現象は千八百七十三年までは歐羅巴に於て増大し、それ以降は減退したり。

若しそれこの全現象の惡方面が諸國民殊に一定職業範圍の宗教的及び道德的墮落と如何に關係せるかを觀察し、傍若無人の營利衝動將た無制限なる所有欲の發達が如何に幾分は當初恐慌を可能ならしめて而して如何なる場合にもこれが惡方面を助長せしめたるかに顧れば、吾人はこの變動この墮落最も夙に起り且つ最も劇烈に行はれたる國土に恐慌も亦最も劇烈なりしことを理解するに難からず。或る殖民地領域及び新發達の國民經濟はその違常の發展と新境遇と不拘束事情とに伴ひ恐慌も亦最も劇烈にして且つ狂騒的なりき。されどもこの種の精神道德的變動は舊歐羅巴に就ても隨處に尙ほ増進すること可能なるべきは恐らく吾人の假定し得る所ならん。併しながら他面よりこれを觀察すれば強烈なる反動現象も亦既に業に起れり。これに關して後段直に論及する所あるべし。

それは兎に角たゞ單に吸血鬼にも儻つべき資本家の貪欲のみを認むる社會主義者は、恰かも彼の社會主義者を痛罵し苟くも景況壟斷を以て取引界將た資本主義的生産の不變法則と號する卑劣なる商業協會事務員及び市民的學者と等しく、吾人は毫もその正當なる所以を知らず。これ等の輩は比較的に限局せられたる社會範圍に最近二百年來特定の社會的及び法律的前提を俟て始めて發達したる精神的要因をさながらに經濟發展そのものに避く可らざる要素なるが如く信ずるものなり。蓋しかゝる社會主義者も資本主義的經濟學者も乃ち以てそれぞれ貧寒なる歴史的認識を曝露せるものならずんばあらず。

多くの社會主義者は恐慌の益劇甚を加ふること殊にこれが爲めに労働者階級の愈壓迫せらるゝことを主張すれども、かくの如きは根據なき空論なり。固より舊恐慌の或るもの例へば千八百五十七年のその如きは實に倏ち襲ひ來り又忽ち大破綻を現出して去れり。而かも新恐慌はしかく急劇に破裂せず、且つ又恐慌に伴て比較的長期の不景氣時代あり。即ち千八百八十二年、千八百九十年乃至千八百九十一年、千九百年乃至千九百〇一年の劇甚なる貨幣停滯及び信用停

滯は、千八百五十七年、千八百四十七年、千八百二十五年のその如くに多くの銀行を破産の悲運に陥れしめざりしを以て、幾多の取引經營及び會社は能く無事なるを得、その若干部分は後日に至りて始めて倒産したり。その倒産したるものは類廢經營なりき。良經營が無事にして倒産を免かれたりしは一進歩たり。失職現象は歐羅巴に於て、千八百三十年代及び千八百四十年代、次では千八百七十三年乃至千八百七十九年に起りたるものを以てそれ以後の時期に發したるものよりも遙かに劇烈となす。突然の恐慌襲來、過劇なる相場變動は今や過去の事實となり、隆昌時期は漸次に不景氣時代と變じて急遽倒産の悲運に陥るものを少なからしめたるは既に或る進歩なり。而して此進歩は千八百七十年代以降殊に顯著となれり。進んで隆昌時期が愈健全なる自然的發達の基礎の上に立つに至れば尙ほ更に重要なる進歩なり。而してこの傾向は事實上にも亦主張せらるゝ點なり。

二百四十二

恐慌の抑壓及び緩和、恐慌政策。社會共和主義の論者は曰、今日の無政府主義的生産紊亂の状態を廢しこれに代ふるに計畫ある統一的生産

經營を以てすることを得べしと。或學者は屢これを駁して曰、此の如きは消費の自由をも亦撤去し得て始めて想像することを得べしと。この駁撃は理論的に正當なり、然れども余思ふに實際的には恐らくしかく重要ならざるべし。乃ち何が故に倉庫は生産と消費とを均衡せしむると能はざるべきか。蓋し現にこれよりも重要な問題は、今日國民的に統一せる生産經營のみを以てしては既に業に不充分にして、さればとて國際的に生産監理を統一せんは恰かも全輸出入を國家中央官廳に一任し得べからざるが如く不可能なると是れなり。尙ほ更に重要な問題は、社會主義的國家の中央官廳及び地方官廳が果して有能に、現に經濟的生產過程の責任ある管理者にも勝りて將來の打算に遺漏なく、次期の收穫、資本調達、消費財需要、將來生産増大に對する準備、輸出品需要を測定し得るの不可能なる一事なり。これに關し寧ろ吾人の想像し得べきは、職業合同、國民的合同、國際的同等の設立を俟て將來益生産及び商業の諸部門を計畫的に統一し管理するを得るに至らんことなり。

近時「メ」は社會主義者にも劣らざる程の大膽なる計畫をなせり。彼は凡そ經

濟恐慌の原因を相場の暴騰と企業家利潤の過大とに歸し。好況は則ち勞働生産力(勞働力の生産能力)の増大せる徵候なりと認む。從てこの勞働力の生産能力に順應して賃銀及び俸給を高め、商品賣價を引き下げざる可らず。彼謂へらく、若し一般に生産を全然自由となし法律に依りて企業家利潤を七乃至八プロセントに限定せばこのこと可能なるべしと。かくの如くして彼は一切の過剰生産と一切の恐慌とを禁止し得べしと期待せり。高率の配當證券は一時その相場を下落すべし、爾他一切のものは依然として變動を蒙ることなからんとなり。かくの如き計畫を實行するに就ての至大困難をこゝに深く立ち入りて叙せんは恐らく餘白の容さざる所なり。この計畫の基礎とする所は所謂消費減退論なり、賃銀の暴騰は苟くも過剰生産を禁止すべしとの假定なり。吾人の觀る所に依ればこの計畫はよし實行せられたらんとも彼の目的を達すること確實ならざるべく、而してこの計畫の實行は社會主義者の所謂一切生産の統一的監理よりも更に多大の困難あるべし。

思ふに觀念弄戯者(架空論者)は反覆してこの種の將來計畫を提供し且つ論議す

れどもこれ多少の利益なしとせず。一種の刺戟劑として警戒標としては反省を促がす點も亦これあるべし。社會主義は人類將來の黄金時代に對する夢想なり（譯者曰、希臘神話が黄金時代を過去に夢想せるは社會主義の將來夢想よりも正當なる理由あり、詳しくは既に引證したればこゝに再びせず）。架空論者は反覆この黄金時代を夢みこれに依てその希望を永久に絶たざらんとす。然れども實際主義の理論家及び實行家は苟くも可能と直接將來に實行せられ得べき範圍とを超越せず。これ等實際主義をとれるものより觀れば、恐慌に就ては三重の救濟問題を重要となせり。一、將來需要を信憑すべき報告を基礎として正當に認識せんことに力めざる可らず。二、今日の傍若無人なる利潤活動を抑壓し、以て社會の總利害及び健全なる總發展と歩調を一にせしめざる可らず。三、以上二項を期せんが爲めにたゞ單に協議にのみ俟つに止まらず、相當の經濟制度及び法律制度を設け、前二項を實施すると同時に隆昌時期の生産及び相場に對しても亦正當なる制限を加へざる可らず。

嘗て恐慌は全く理解せられず第十八世紀に至りても尙ほ久しく誤解せられた

るが、この状態は漸次に變北し、今日にありては吾人は恐慌の由りて起る原因を理解せり。政治家、政策家、銀行及びカルテルの管理人にして苟くも科學的文献に通曉せるものは、現に凡そ恐慌の將來すべきを豫見し得べし。好況の徵候は今日容易に究明せられ、依て以てその極端に走るを抑壓せんとするの手段も亦曩時よりも遙かに容易なり。統計、通信機關、電信は景況に對する概觀を明かにす—これ過去になかりし發達なり。これを以て又能く景況變動と恐慌とを極端ならしむべき樂觀感情及び悲觀感情を抑制しこれをして徒らに劇越ならしめざることも曩時に比して容易なりとす。

現今營利衝動の極端なる活動に就ては吾人先きにこれを論述し、而して尙ほ隨處にこれが昇進現象あれども而かもその恒常不變力ならざることも附説したり。この衝動が墮落して極端なる投機となり會社の濫設となり、相場投機詐偽輕舉及び高利壟斷と惡變することは今日既に屢認む可らず。種々の商業中心點取引關係者の諸社會、種々の取引所、商人機關新聞にこれを觀察するも、程度に強弱の別こそあれ端正、正直、忠實、眞實の德行はれざるなし。乃ち善を益

促進し悪は則ち愈抑壓し、事實甚しき紊亂に陥れる場合には他の方面にて既に善なるものを促進したりし制度の力を假りてこの紊亂状態を救済することは果して不可能なるの理あるべきか、本原論の全秩は殆んど各章にこれが巨細に亘りて論議し來り。如何にして不正競争を抑止すべきか、如何に取引所制度を改善すべきか、如何に極端なる經濟的自由を變改すべきかは既に叙述したり。銀行券銀行の大改革が如何に輕卒なる信用保證に陥るべきの濫用を抑制したるか、千八百四十年より今日に至るまで大中央銀行券銀行の設立と鋭犀なる割引政策とが如何に不當の好況を制し恐慌を緩和したるかは業に觀察したり。土地投機及び抵當銀行の濫用が如何に將來再び輕舉に出づるを禁止すべき改革を齎らせるかも亦吾人の開陳せる所なり。信用銀行及び有價證券銀行の業務經營も亦果して將來統制的立法に準據すべきかの問題は吾人の敢て斷定せざりし所なるが、恐らくその預金制度、引受信用及び差増額賣買信用は或る法規に従ふことゝなるべし。株式立法は最も劣悪なる起業濫用を禁止せんことを力むれども、この改革が果し能く那邊まで効果を擧ぐべきかは畢竟疑問なり。萬一內的に全然類

廢せる場合には外的に形式を變更するの外方法なかるべくこれに處するにあらゆる法規を以てするの外あらざるべし。然れども現文明國家の事實が果して然りとは何人も一般に肯定するを欲せざるべし。恐らく吾人の主張し得るは、富の増進に伴ひて商業上及び交通上に端正及び正直の徳も亦増進すべし—これ等の徳が慣習及び法律に依りて必然的に支持せられ助勢せらるゝ限りは則ち増進すべしてふこと是れなり。賃銀の騰貴、労働者保護立法、労働者保險、職工組合及び組合制度、並に労働案内、危急労働及び其他これに類する制度も亦この領域に干與し、取引生活に於ける道徳精神並に恐慌運動に甚大の影響なくんばあらず。先きに吾人の掲げたるが如く、「シスモンディ」は恐慌に對する救済策として根本的に労働者保險の必要なることを叫びたり。

景況運動の諸相即ち好況恐慌及び不況を通じて主要なる一原因は相場の騰貴なり。若し相場が常に相當程度にして實際の需要に應じて上下し、始め倏ち暴騰し幾ならずして忽ち暴落し而して遂に長期間に亘りて昏睡的に下落状態を脱せざるが如きことなくんば、依て以て殆んど患害は除却せられ得べし。凡そ輕

舉將た虚偽の利潤計畫は一として將來商品及び爲替相場の騰貴を目標とせざるはなし。苟くも妥當なる市場組織は相場の極端なる騰落を防止せんとを目的とし、相場の過大變動を緩和するは即ち恐慌の患害を緩和する所以なり。價值をして益、正當に公正に且つ妥當ならしむるは又常に經濟生活を秩序する所以の最善調節策なり。不當價値は經濟界を攪亂し、濫用、高利及び利益壟斷を可能ならしむ。然り而して今日に於て既に改善を加へられたる點多ければ將來益この状態が進歩改善の方向に推移すべきことは斷言し能はざるの理由なるべし。

吾人は先きに本譯補の第五冊 **百七十三** 乃至 **百七十四** に道徳上及び法律上に容す可らざる權力濫用が相場に種々に影響すること、この影響が抑壓せらるべきものにして實際上にも亦抑壓せらるゝことを觀察したり。道徳上及び法律上の取引生活秩序は擧げてこの事を目的とし、幾分は又組合及び國家の規定に繋がる相場規定、法定價、法定賃率等もこの目的を實現せんが爲めの手段たり。これと關聯して吾人はこゝにカルテル及びトラストの影響に就き一言する所なかる可らず。

さてカルテル及びトラストの本質に就ては本譯補の第四冊 **百四十六** に、亞米利加に於けるトラストの活動に就ては第五冊 **百五十九** に、その相場政策に就ては第五冊 **百七十四** に既に吾人の論議したる所なり、カルテル及びトラストは、その良心を失へる成金黨より左右せらるゝ場合には、自然恐慌を劇甚ならしめ、相場運動を調節せずして却てこれを極端に陥れしむることを避く可らず。カルテル及びトラストはよし好況時期に生産が當然擴張せらるべき場合にも獨占主義的目的の爲めに生産を制限することあり、不況時代となるも生産を制限せずしてなるべく相場を下落せしめざらんとす。要之カルテル及びトラストの政策は、先きにも吾人の屢陳述したるが如く、その監理者が政治家的にして節度を守るか短慮にして貪慾なるかに従ひ、社會全體の爲めに或は慶福を齎らし或は患害を生ぜずんばあらざるなり。實に規模最も廣大に監理最も妥當なる獨逸のカルテル—即ちライン—ウエストファリアの石炭シンジケートにこれを觀るも、其の「キルヒドルフ」「ゲルゼンキルヒン」の最も重要にして且つ節度ある監理も多くの加盟者より痛撃を蒙り、節制的師徒の監理の如しと嘲笑せらる

るの状態なり。カルテルの監理は屢成金黨の大多數の意見に従はざる可らず。カルテル及びトラストをして監理その當を失はざらしめんとするの困難實にこの點に在り。

それ然りと雖もカルテル及びトラストの良監理は不可能事にあらず、少なくとも國民性有爲に取引界も亦未だ悉く貪慾に凌轢せられざる國土に於ては漸く益改善せらる可し。良取引形式を發見し且つ實行し、以てたゞ單に目前の利に没頭せずして將來をも誤らざるの良監理を期し得べし。凡そ監理者が益高尚なる發達を效すに應じて、愈以て目前の利潤に没頭すること能はず自家の利益と併せて社會の總利害をも顧慮するに至るべきは抑事物自然の理數なり。

若しそれカルテルが、その攻撃者の主張するが如く、單に獨占主義的利潤のみを追求して又他を顧みずば、則ちその社會の爲めに患害をなすや辯を須たず。果して此の如くして孤立せるカルテルは實にその自家領域に於てその利益の爲めに恐らく生産及び相場を正當に按排すべきも、爾他市場に愈以て悪影響を及ぼすべきこと疑なからん。それ然りと雖も監理その宜しきを失はざるトラ

スト及びカルテルは幾分更に廣汎領域に着眼し而して又相互に協定せるが如し。若しこのこと成功すればその結果は恐慌を緩和する上に現在に於けるよりも一段顯著なる作用を及ぼすべし。かく言へばとて千八百九十五年乃至千九百〇一年の間、獨逸に於けるカルテルが悉く正當に運営せられたりとは吾人のもとより主張せざらんとする所。それにも拘らずこの間に於て獨逸のカルテルが恐慌を惹き起し且つ恐慌を劇甚ならしめたる原因なりてふ非難は全然謬見と認めずんばならず。事實はこれに反し、若し石炭シンジケートの力に俟たずんばライオン州及びウェストフリアに於ける恐慌は恐らく更に遙かに劇烈なりしならん。畢竟大規模のカルテル及びカルテル聯合の勢力と雖も絶對的に生産及び相場を左右すること能はずと言はゞ則ち事實の真相に符合するを得べし。カルテルの生産に及ぼす影響は極めて制限せられ、その相場に及ぼすものはやゝ著大なり。この故にカルテルは、社會總體の上より觀れば恐らく生産調節に出づるを以て寧ろ妥當なりとする場合にも、事實然かせずして相場調節に出づることなきにあらず、カルテルの作用それ斯の如しと雖もこの組織が國民經濟上に一つの重

要なる組織變動を示し、自由競争とその不祥結果とを著しく制限するの力なること、而してカルテルに依りて如何なる場合にも生産及び相場の運動が著しく均勢せられ今日恐らく既に非常に均勢せられ得ることを認めしめずんばならず。論じ來りてこゝに自治體機關及び國家機關が恐慌及び恐慌緩和に關し果して如何なる抑壓政策を採り得るかと問はゞ、これが答案はカルテルに就て陳述したる所と略ぼ異同なし。この問題に根本的に重要な點は恐慌抑壓に當らんものが如何なる知識と能力とを備へ、その全行政が如何なる精神を以て遂行せらるゝかに在り、嘗てプロイセンにありては四十年代に及ぶまでたゞ以て急劇に且つ猛烈にこれに干渉してこれが弊を艾除せんことに力めたり。而して或は失敗に陥り或は能く正鵠に中せり。第十八世紀に於ける所謂重商主義の工業政策は好況時期に際しては取引擴張を隨處に家内工業的規定に依りて禁止し、不況時代に當りては如何なる場合にも労働者解雇を抑止し而して商品販路に配慮せり。千八百四十年代の極端なる投機現象に對し、プロイセンの大藏大臣は嚴重に干渉したるが、その後はプロイセンに於ても爾他國土と同様に放任主義とな

れり。當時の風潮を約言すれば苟くも過剰生産を否認する者はもとより何事もなし得ざるべしとなす。デルブリュックは帝國國務大臣として千八百七十三年恰かも輕舉亂脈の極點時代に述べて曰、國家はその人民が自ら貨幣を失はんとするを禁止すること能はずと。カンブハウゼンも亦この當時自ら數百萬の國庫剩餘金を貿易會社に低利率にて貸付け依て以て益好況に油さしたりし時、財政の秘密は苟くも如何利率たるに拘らず利息を損失せざるに在りと號したり。千八百七十年乃至千八百七十三年の獨逸に於ける全過剰生産は、獨逸が佛蘭西より得たる數十億の戰爭償金の交付が拙劣を極めたりしに依り、爲めに時ならざるに忽ち巨大國債を償還し而して夥多の國家企業を極端に擴張せしめたり。今日にありては吾人は自治體行政に於ても國家行政に於ても恐慌の本質を愈正當に洞察し従つてこれに處するの政策も亦曩時の比にあらず。労働案内、労働保險、危急労働、失職保險に關する自治體の活動は吾人先きに本譯補の第七冊二百二十四にこれを叙述したれば、今こゝに再説するを要せざるべし。尙ほ國家官廳がその大仕事を時期的に配分し、なるべく不景氣時代にこれを實行す

べきことに就ても亦 **二百二十四** に論議し、又獨逸の貿易政策及びプロイセンの鐵道政策が現に如何にこれに腐心せるかも開陳したり。概して國家に關しては、その恐慌の極端時期に於て採り得べき政策と總じて恐慌防禦の爲めに採り得べき政策とを堙別せざる可らず。

恐慌の襲來若しくは破裂に際しては、國家は決して故意に投機の爲めに商品及び爲替の騰貴相場を持續せしめんと欲し依て以て愈過剰生産を助長せしめ、益暴戾なる建築投機を補助するが如きことある可らず。基礎不健全にして社會道德の爲めにも且つは市場發達の爲めにも必定破産せざる可らざる大經營に對し國家は決して救済策を講ずべからず。社會の先覺者たる政治家將た中央銀行券銀行の頭取はかゝる場合に相場の変動が必要にして國民經濟を健全ならしむる上に缺く可らざることを判然認識せざる可らず。生産過剰にして消費は則ち過少なれば、生産を制限し相場を輕減して需要を増大せしむることは生産消費をして均衡を持せしめんが爲めに必要なる救済手段たり。さればとて健全なる取引企業を支持し過劇なる恐怖を抑壓し恐慌を緩和するは國家の義務なり。政

府は場合に依りて健全なる大銀行に對し國庫金を短期間貸付すべき信用機關を設くることを得べし。急速に大規模の危急労働を起すことを得べし。商業契約及び關稅立法と矛盾せざる限りは多少の補助に依りて輸出入に干渉することをも得べきなり。もとよりかゝる場合に憂ふべきは爾他國家も亦これに類する政策に出で而してその結果として我に損害を來たさざるか是れなり。

總じて商業政策及び經濟政策は大處より隆替運動の漸する所以を究め而して之に處するに妥當なる方法を以てせざる可らず、これ如何なる場合にも最も重要なる事項たり。商業政策及び經濟政策が以て國民經濟の行程を規定すべき手段には、その財政政策あり國債政策あり貨幣政策あり銀行券政策あり、鐵道政策あり定賃率政策あり交通政策あり、殖民政策あり國有地政策あり、國外移住政策あり國內移住政策あり、大工事あり其他の大自然物行政(例へば軍隊行政)あり、國家直轄の大經營あるあり。もとよりこの政策は好況に對しても不況に對しても全然禁止するの力を備へざるや辯を俟たざれども、これを劇越ならしめ又緩和ならしむる上に至大の勢力なくんばあらず。殊にその對外政策に依り關

税契約及び商業契約に依りて、果して輸出が増大せるか停滯せるか將た減退せるか、果して輸入が自國の爲めに慶福を齎らせるか將た患害を來たせるかに對し責任あり。これを以て經濟政策は如何に國際的總分業が關係せるか―果してその基礎は確實にして永久的なるか將た日々に脅迫せらるゝかを或る程度まで左右するの力あり。而してこれ舊文明國にとりて現に一つの最も重要な點なり。この任務を遺憾なく實行せんことはもとより容易の業にあらず。議會、豫算權、現行政の分化あり、内閣の變動あり、以て苟くもかゝる國民經濟運営の實現を妨害せざんばあらず。然りかゝる政策は屢不可能となり若しくは左道に陥れらるゝことなしとせず―農業派工業派銀行黨がそれぞれ利己主義的に國家運営に容喙する場合に於て然り。然りと雖も妥當にして堅實に、能く時運を意識し、階級及び黨派の上に超然たる大政府がこの場合にも亦大任務を有し且つこれを遂行し得べきの眞理はこれを以て廢せられざるなり。

二 階級競争、階級支配及びその國家、法律及び改革に俟てる抑壓

二百四十五

概論、國家と社會階級全般との關係、最古の階級關係。吾人は前節に階級競争の爲めに國民經濟の發展が攪亂せらるゝことを指摘したり、今や進んでその個々國民及び全人類の經濟發展と如何に關係せるかを立ち入りて觀察せざる可らず、又吾人は既に社會階級の本質を叙し、その如何に分業を基礎として成立し財産分配と關聯して發達したるかを論じ、その組合的結社の組織の主要形相をも開陳したり(本譯補の第四冊參照)。然れども上來の陳述はたゞ發展の總結果如何を略説したるに止まり、階級競争及び階級支配の本質將たその國家及び國民經濟に對する結果に就ては未だ論及せず。これ今より論究すべき問題なり。

これ極めて困難なる問題にして、國民經濟の舊自然法説は全くこれに觸れず。舊經濟學はその宇宙調和の見地に立ちて社會階級と階級競争とを認めず若しく

1110
 はこれを看過したり。其後社會主義は階級衝突及び階級競争を認證し且つ分析したれども、概して感情的にして謬見に陥り、未だ科學的階級競争論を提供すると能はざりき。「ニールブル」、「チエリ」、「キゾ」以來近世史學及び社會的記述的文献はこの問題に對して資料を供給したるが、國家學及び國家法律は未だ殆んどこれに注意しこれを利用することをなさず、例へば「トライチケ」及び「ロツンヤ」の政治學に觀て以てこれを明かにし得るが如し。而かも今吾人の究明せんとする困難問題にとりて重要な事實は、凡そ階級競争、階級支配、社會革命及び社會改革、社會總發展と稱せらるゝ所のものが、經濟的及び社會的階級と國家組織及び國家行政、法律及び制度との相接觸し交錯せる限界領域に在りて存すること是れなり。この問題に對し判然たる認識に到達せんが爲めには、法律史及び國家組織史の助を借らざる可らざること猶ほ經濟史及び社會史の力に俟たざる可らざるが如し。然るに從來は問題それ自體が全く不明の域にあり、これが準備研究に至りては若干の史的文献例へば羅馬史に關する「モムゼン」及び「ニッチ」の如きを除外例とすれば毫も依據するに足らざりし状態なり。漸

く最近十年の間に「ベロホ」、「エドワルドマイエル」、「マックスウェーベル」、「ランブレヒト」、「ブライジヒ」及び其他學者の努力に依りてこの領域に根本的進境を致したるに過ぎず。

吾人は差當り國家權力と社會階級との總關係に就て一言し、以てこの問題の輪廓を愈正確ならしめんと欲す。

さて如何なる社會體制にても既に若干の人口を糾合せるものはこれを指揮命令すべき中心點を必要となす。乃ち會長、裁判官、軍指揮官は君侯となり國王となり、多少の命令權と支配權とを備ふる國家權力の發達あり本譯補の第三冊 **百〇一** 參照。この國家權力なるものが能くその社會を支配し、敵を防禦し平和を確立し、法律を宣布し得るは、その一權力たり當該社會體制内の最強力たる場合に限れり。この故に國家權力の發達は屢纂奪に依り、而して既にその社會が階級分化をなせる場合には國家權力の擁護者は差當り上流階級なり、最も勢力ある階級なり國家と最も利害關係ある階級なり、國務を料理し得る階級なり—この最後の場合を最も妥當なりとす。されば凡そ國家權力はその運用上相

矛盾せる動機と傾向とに支配せらる。即ち國家權力はそれ自體の性質に顧み法と公正と社會萬民に對する正義とを目的とせざる可らざれども、亦屢支配者權力者の利己主義、貪慾、激情の爲めに犠牲に供せらるゝの危険あり。國權掌握は常に最も權力ある階級間の競争目標となり、これ等の階級は法律權力制度をその欲するがまゝに變更せずんば止まざるべし。かくて市場には契約者相互の權力不平等に依りて利益壟斷及び高利あり。國家の裡には階級の權力不平等に依りて階級支配あり、若しくは少なくとも階級支配の端緒あり。階級支配の現はるる所は社會關係の各般に亘り、國家組織、國家形式に於て、個人の自由及び組合的自由の限度に於て、自治の秩序に於て、結社の地位に於て、法律制度及び經濟制度の全體に於て、租税及び賦課の分配に於て、財産秩序に對する國家の干渉に於て、經營形式及び勞働秩序の規定に於て皆これを認め得べし。

國家及び國家權力の歴史的漸進發達、國家權力の消長并に社會階級の權力及び組織に繋かれる盛衰隆替に應じて、國家社會の根本關係も亦種々雜多の形相を呈す、吾人はこの關係の必然的行程若しくは蓋然的行程が從來如何なりしか

將來如何なるべきかを確立すべく、而してこの目的の爲め且つ一般に吾人の斷案に對して經驗的基礎を得んが爲めにこゝに社會階級發達史の概觀を述べざる可らず、その困難事たるやもとより言を須たざる所。而かもこれ歴史家ならざるもの、斷案に對して缺く可らざるものたり。さて吾人は先づ吾人の知り得る限りに於ける最古の状態に關し希臘羅馬文明以前の階級關係に關して瞥見する所あらんとす。

吾人の觀察する所に依ればこの最古の状態は甚しき矛盾をなし一見説明す可らざるが如き觀を呈せり。これ階級の分化對立極めて乏しく而かも最も極端なる階級支配の状態なり。

最古の小社會にしてその經濟状態原始的にその技術幼稚に國家權力の未だ發展せざるものありては凡百のこと主として家族關係血族關係に依て支配せられたり。當時は未だ著大所有の發達あらず、分業も亦未だ認む可らざるか若しくは既に發達せるも僅かに言ふに足らざる底のもののみ。酋長、巫術者、戰士と雖も爾他民衆と顯著なる懸隔なく、その權威は屢事實上よりは寧ろ寫象の上

に在り、單に神の子として神より特に簡拔せられたるものとして一般民衆の上に位せるに過ぎず。萬人相互の關係は大體に於て猶ほ親族間のその如し。社會か尙ほ主として單純なる自然物經濟狀態にして貨幣經濟及び信用の形式を發展するに至らざる限りは、この未開時代の平等關係と原始種族の強烈なる共同感情とは常に大部分維持せらるべし。

既に社會人口が増加して一萬乃至百萬人以上となり、支配者の權力益々強大を加へ、大家畜群の所有者、有力なる僧侶、勇敢なる戰爭會長が嶄然として頭角を露すに及んでは關係全く之と異なれり。かゝる發展段階に進めば或る場合には夙に少數者の間に半ば精神的政治的半ば技術的經濟的優勝權の發達あり、而してこの優勝權はそれぞれ人種、法律、慣習、宗教の如何に従て極めて種々に行使せられ乃ち或は社會文明の爲めに利用せられ或は濫用せらる。若し優等人種に屬する一種族一國民が劣等人種に壓服せられ劣等人種がこれに對して永久的支配權を確立すれば、この優勝權は殆んど半ば殘虐の手段となり屢々野蠻的濫用に陥らざればならず。果して斯の如くなれば、凡そ舊階級支配の自然的關係

換言すれば血縁社會の親厚なる感情は消滅し、乃ち外國人無權利異種族者無權利の寫象はこの社會狀態の心理學的基礎たり。然り而して吾人は最古時代より今日に及ぶまで凡そ著大なる人種の相異とその物質上及び精神上の結果とを以て諸人種を糾合せらる國家内に階級衝突を生ぜしむべき重要な一要素と認め得べし。

社會狀態かくの如くなれば、抑支配の強大權力を發達せしめ、所有、名譽、權利に甚しき差等を生じ、隷屬者は飽くまで虐使せられありとあらゆる奴隸制カステン制及び隷屬關係を生ず。その廣汎なる侵略領域に生活せる人種及び階級將たその都市及び地方は相互の間に何等親密なる共同關係なく僅かに強烈なる權力に依りて糾合せらるゝに過ぎず。然則こゝに極端なる階級抗立現象を發展するは明白なり。この抗立現象は屢々數世紀に亘りて變ぜざるものあり。古代の國家は此の如くせずんば成立すること不可能なりき。その文明上の効業とその大工事と其他の技術上軍事上農業上の効績と又亂暴なる階級支配とを基礎とせずんば想像すべからず。而して此階級支配は隨處に僧侶の智慧に依りて緩和

せられたるの實例あれども屢又狹量にして愚昧なる僭倂の利己主義の爲めに愈劇烈を加へたるものなきにあらざるは勿論なり。概して純自然物經濟を基礎とせるこの種の國家及び社會は嘗て亞細亞埃及及び中央亞米利加に於て劇烈なる競争の結果として始めて成立したるが、その一たび確定するや能く數世紀間何等の大衝突を惹き起すことなくして持續するを得たり。幼稚なる被征服者及び隷屬者は勇敢にして才能に秀でたる小數支配者に對して敬順に、殊に支配者が慣習及び宗教の規定に依りて教化せられ敢て甚しくその權力を濫用することなかりし場合に於て然り。治者彼治者の間に嚴重に結婚を禁制し、苟くも宗教、慣習、言語を別にし、住居を異にし、而して全く法律を別にせり。それにも拘らずこの極端なる階級秩序は神意に基ける運命として耐忍せられたり。平等の寫象然り同等の寫象并に後代に至りて被征服者の間に發展したる名譽感情及び階級意識は當時未だ全く認む可らざるなり。印度の狀態カステン（は殊にこれが好適例なり。かかる状態の一たび確立したる社會にありては下層階級は長時期間屢自ら進んでその君主に隷屬し且つ忠實なりき。極端なる不平等状態は却て

困難少なしとはタルドの言なるがこれこの前提を認むる限り正當なる主張なり。不平等關係が益減滅し且つ不平等が愈々苦痛と感ぜらるゝは、治者及び被治者の間に接觸と血液混合と加はり來り、社會關係、治者の義務、將た被治者の負擔限界を支配せる心理學的觀念に變動を生じたる場合に始めてこれあり。吾人は古代に於けるこの種の幼稚なる階級抗立現象に敢て長く徘徊せんとせず。而して古亞細亞民族然り埃及人古印度ゲルマン人の歴史的社會狀態に就ても亦吾人の確實なる知識は餘りに貧寒に。現今の自然民族及び半開民族の歴史狀態と雖も漸く今日に至りて始めて幾分判明の緒に着きたるのみ、而してこれを歴史的民族のそれと比較し得べきか否かは議論未だ一決せざるなり。されば吾人は差當り希臘人及び羅馬人并に後代中部歐洲西部歐洲の階級史に關し吾人の目的に對して最も必要缺くべからざるものを究明するを以て満足せんとす。

二百四十六

希臘に於ける階級對立及び階級競争、最古希臘時代及び「ミケネ」大王國の社會關係に就て吾人の知る所は、「フラオン」王國に等しきこの君主國が傭役義務を負へる農民を基礎としたること及び埃及「フニチネン」文明の侵漸影

響を基礎としたることゝに過ぎず。恐らく支配者は海上商業及び外國貿易を獨占し而して王の居城の内外に集合居住せる封建武士に依りて支持せられたるならん。「マックスウェーベル」假定すらく、亞細亞の兵車戰術はこの武士階級を發達せしめ、後代の戰爭貴族はこの武人階級より起りたるものなるべしと。

其後希臘の中世時代(基督紀元前一千乃至七百年)に於て、吾人の觀察する所に依れば、既に大移轉をなせる希臘種族は恰も所謂民族移轉後のゲルマン民族の如く固定的に土着したり。差當りこれ等種族は「フイレン」及び「フラトリエン」即ち種族社會及び氏族社會共に譯補の第二冊に説明ありをなし、その社會關係は、既に「スバルタ」國家が明かに戰爭組織及び政治組織を發達したる第七世紀に至りても、「ドリリア」人において屢主として平等關係なりき、これ等大種族は土着とともに分化し、一地方的社會、郷社會を以て主要の形相となせり。就中最も勇敢なる種族は戰爭貴族の統治に服従し、而して都市を以て宗教的軍事的僧侶的政治的中心點となしたり(譯補の第三冊 九十五 參照)。財産狀態は主として三〇乃至四〇「モルゲン」の小農民所有地に過ぎざりしが、その外に大家畜群所有者、

會長及び王の家族、主として僧侶をも兼ねたる武士は漸次に大領土を所有するに至り、この傾向は基督紀元前七百年乃至六百年に及ぶまで愈昂進せり。土地所有は貴族の經濟的基礎たり、而して貴族の或る封鎖的組織を可能ならしめたる職業的基礎は則ち兵役なりとす。かゝる基礎の上に立てる貴族はこの當時に發達幼稚なりし舊王制即ち例へば平和的舊國民議會を撤廢し、郷及び都市國家に絶對的に長老會を設け、個々村落に於ては小農民の領主となり保護者となれり。然れども土地所有者は未だ甚しき懸隔を生ぜざりき。「エドワルドマイエル」の言ふ所に依れば「ソロン」時代に至りても尙ほ大富豪にして約そ二五〇「モルゲン」、ヒプリーテン即ち中流農民武士階級にして平均一〇〇乃至一五〇「モルゲン」をなせり。大概の希臘領域にありては大土地所有は自然的に不可能なりき。この故に貴族の富は多く商業殖民及び航海に俟ち、この時期の當初に於ては貴族は依然軍事上及び政治上の特質に大變動を來たすことなくして兼ねて商業航海及び殖民のことを主として掌握せり。能く節度を守り利潤と嫉視とを卑下するの徳性は愈、彼等の間に昂進し、而して此等の貴族は騎士たり且つ僧侶たるの特徴を

兼ね備へたり。「ホメール」の英雄時代即ちこれなり。「アリストテレス」に徴するにこの貴族の基礎はその名門の出にして訓練あり且つ資産を備へたる點にあり始めて經濟的に舊關係より離脱せるイオニア都市領域に於てこの貴族が農民手工小商人船夫より暴慢にして且つ苛酷なる支配階級と感ぜられたるは漸く紀元前七百年以來のことに屬せり。

商業及び工業は始め小亞細亞の沿岸並にコリント、メガラ、エーギナに發展し、第八世紀及び第七世紀の殖民地建設は經濟發展を促進すべき新連絡の開拓となり、リヂェンに於て始めて鑄造せられたる鑄貨は第七世紀の間に商業都市に普及し、商人、船主、工業經營者の富を著しく増大せしめたり。貴族は頓に富裕となり農民は益債務者としてこれに隸屬し。貴族的國家、血縁社會、兵役組織、法律の舊形式は最早何等の力なく、判決に對する古來の慣習たる贈物はその性質を變じて賄賂と化せり。かくて第七世紀は社會的動亂益甚しきを加へたり。約そ七百年頃に既に個人主義的大詩人「ヘシオド」が貧民に同情してこの社會狀態に痛撃を加へたるは吾人の知る所なり。もとより平等の觀念は尙ほ舊血

緣社會に存し、頽勢に傾きつゝも未だ全然撤廢せられざる舊國民議會に在り、而して以て不平等的事實の愈劇甚ならんとする大勢に反抗せるものなかりしにあらず。然れども貧民と富者との間、土地貴族及び資本貴族と隸屬農民手工商人及び船夫との間に黨争益劇烈を加へ、總じて後者はデモスと稱せられたり。舊貴族の一部分はこのデモスの首領となれり。最も股販を極めたる商業都市例へばミレトス及びメガラの如きに於ては既に市民競争の勃發となり、これ等の場所において貧民は既に屢富者の兒童を多數殺害したる怪現象を生じたり。さりながら徐々發展の都市領域を觀察するに、多くは政治上軍事上及び社會上の大改革を能く遂行し、即ち殆んど都市國家を實現せんとする理想を標榜せる該政策は、苟くも一切の關係を秩序し社會衝突を相殺せんことに遺漏なく、而して或はコリントに於けるペリアンデルの如き聰明強固なる潛主に依り或はソロンソロンの如く一定期間國民より推舉せられてデクテートルの權力を行使せる共和主義的大立法家に依りて實行せられたり。これ等改革者の多くは舊王族及び舊貴族の出たり。「ソロン」は貴族として效業多き大商人として農民及び勞働者の味方

として、能く自ら節制に社會衝突を調停すべきの力を備へたるもの、實に社會改革者の典型たり。ソロンの活動は六百五十年乃至五百六十年の間にあり。彼の活動に俟て希臘は最も偉大なる時期を劃し、五百九十年乃至五百六十年の間に波斯に勝ち而して以て高尚なる希臘文明をして東邦の野蠻人に對し勝利の轍を擧げしめたり。

社會政策的に觀察して重要な點は、貨幣を貸付くる大地主と隷屬農民との間、保守的にして寧ろ農業的なる發展と商業工業殖民の新發展との間、舊訓育舊秩序と新個人主義との間、舊血縁社會關係と新隣人的社會關係との間、舊宗教と新宗教との間、貴族國家と總市民を以て成れる新國家との間に利害を相殺し調和せしむるに在り。而して相殺調和の精神は、向後は首府及び貴族をして田舎を支配せしむ可らず、奴隸及び土地の大所有者に對しては制限を加ふべく、農民階級及び中流階級の意義を高めこれをして社會を支配せしめ、農民を解放し、これが爲めに確實なる販路を開拓すべきを主眼となす。潜主政治は社會改革例へばソロンのそれと比して寧ろ小市民及び農民の味方なりき。社會改革の

特徴は一面農業的なれども、他面には商業交通の貨幣經濟的促進を謀り、而して全く所謂重商主義的なり、イオニア人の沿岸都市に於けるもの、如き殊に然りとす。

コリントの潜主ペリアンデルは貴族より奪ひたる土地を農民に與へたるが、農民の都市に移住することを禁じたり。ロクリのツァロイコスは一切の中間商業を禁じ、從て農民も亦市場に出で、販賣せざる可らざりき。アテンのソロンは分配を更訂して貴族の土地を奪ふことをなさざりしも貴族が將來領有耕地を擴張し兼併することを禁じたり。ソロンは土地及び人間そのものを抵當とせる債務を破棄し所謂徳政なるもの、苟くも將來の債奴を禁じ、負債の故を以て外人に賣渡されたる市民を國費を以て買戻せり。かくて都市と田舎と全く平等權を得て、苟くも農民は直にアテカに告訴するを許され、從來の所謂保護者(領主)は何等の用なきに至れり。官職の授受は等級に準じて異同ある資産と相應じたり。農民中流階級一〇〇乃至一五〇モルゲンを所有せる所謂ソイギリテンは亞典に出で、兵役に服すべきの義務あり。貴族の騎士戰爭が頽廢してより國家の

兵力は一にこの農民のフランクス(軍隊形式の名、方陣)に在りて存したり。宗教は國家的となり。農民の祭神たるディオニス及びデメターは信仰の主要對象となり、亞典に於てはオリウツ栽培の神にして手工業の守護神たるアテナ神が祭られたり。外人は亞典に自由に入るを許され亞典以外の都市にてはしかく自由ならず、苟くも有能の士を自由に移住せしむべしとは當代の暗語なりき。然れども法律の力は能く嚴正なる訓育と正直の徳とを行はれしめ、自由輸出は民衆の生活費を低廉ならしめんが爲めに一切の粗生産品(アッティカに於ける油を除外し)に對して禁止せられたり。大膽なる商業政策及び殖民政策并に大殿堂監理及び大水路監理、建築は一般民衆に對し殖民領域の未開地貧民に對して仕事及び金儲の機會を作れり。學校は一般に開放せられ、無所有者と雖も賃銀若しくは給養を受けて海軍に服役せざる可らず、その代り國民議會に於ける投票權は彼等に與へられたり。富者は益負擔を加重せられ、國家の爲めに船舶を艦裝し城砦其他これに類する工事を負擔せざる可らず、法律は起草編纂せられ、成文法に抵觸せざる犯罪は懲罰するを許さず。裁判制度は種々の點に於て改善を

施され、平和の保證は安固となり、舊慣習たりし復仇は撤去せられたり。さて凡そ此等の改革を遂行し得んが爲めの前提として強固なる國權の確立あり、その權力を行使する上に大膽にして且猛烈なるものなかる可らず。君主の君主制は何處にこれが事例を求むるも貴族の支配に反對して起り自ら國權を掌握し。そのミレトス、コリント、アテンに於けるものは一時それぞれ國家を経済上にも政治上にも隆盛ならしめたり。然れどもこの種の君主制は概して貴族を制し民心を得て以てその地位を安固ならしむること不可能なりき。若し依然として自由國家なれば、大立法家の一時的ディクタートル(屢十ヶ年の制、而して次では宜僚の發達は以て愈多數の貴族をして能く官職秩序を改善せしめたり。無所有者は未だ甚だ多からず。ソロン及びクライステネスの設定したるが如き法律の平等は中流階級をして能く黒白を決せしめたり。都市と田舎とは未だ均衡を破らず。國家の指揮權は例へばテミстокレスの如く社會的民主的進歩を念とせる大貴族の手に委ねられたり。民主的精神の究竟結果は尙ほ未だ現はれざるなり。かくの如くして五百九十年乃至四百六十二年の間アテンに、高尚な

る貴族の支配の下に全然民主的なる共和政の發達あり、以て能く希臘當時の國家理想を實現すべき物質的前提となれり。詩人「エシロス」は國家を以て凡百道德の總和なりと謳歌せり、當時の理想に依れば凡そ市民は國家感情國家的活動を專念とすべきものなり、國家は當然あらゆる領域にその活動を擴張すべく、差當り小都市國即ち「アッティカ」の州國家換言すれば希臘諸國家の中にて敬神の念最も厚きこの小國家、「ソロン」及び「クライステネス」が社會平和を確立したるの地、「バイシストラトス」が農民階級を保護したる處に實現せられ得べしとなす。「テミストクレス」及び「アリストテレス」は海軍と海上權力と「アテ」を盟主とせる「デルファイ」同盟とを創建し、而して無双の經濟的隆昌時期はこれと關聯して起り。依て劇増人口殊に都市の人口は失職の危に陥らず能く豊かなる勞働機會を與へられたり。この社會階級の均衡と經濟的盛運と民主的共和制内に能く訓育洞察及び最優者の支配を確保することゝは遺憾ながら久しきに亘りて持續すること能はざりき。「テミストクレス」は「アテ」の盛運を拓きたる偉人にして又海上同盟を永續的大權力に進ましめ得たる唯一人なりしに拘らず四百六十九年に放逐せられたり。

自由及び個人主義の激情は愈劇烈となり、貨幣經濟は一般に普及し而して忽ちの間に資産差等を甚しからしめたり。奴隷の大輸入は大經營を發達せしめ個人をして大奴隷群を所有せしめたり。一般民衆は益々貧困に且つ窮乏に、變動常なき都市人民は國民議會を開きて一切の事を處決するに至れり。十年期なりし「アルコン」の在職年限は既に業に一年期とせられ、會期は三十五日間に減ぜられたり。官職の大部分は抽籤に依り、軍指揮官は一人の代りに十人選舉せられ十人にて日々交代し。一定の職掌を遂行せんが爲めに必要な資産は漸次に益々減削せられ然り撤廢せられ、何人も二回以上官職に就くを許さず。これを以てなるべく凡ての市民を官職に就かしめ爲めに官僚の數は愈々多くなり、年々官職に任ずるもの幾千人を數へそれ等は一年の大部分を職務に獻げざる可らず。四百六十一年には官吏は日給制となり、當時に至るまで獨り終身官の制を失はざりし最近裁判所たる「アレオパゴ」は廢止せられたり。國家的祭日はその數を増し、この祭典に列席するものは觀覽料を拂ひ、當日貧民はこれを以て生活することを得たり。「ペリクレス」が國民議會を率ゐてより以來は實際的永久的政府

なるものなく、たゞ國民議會の權威を認むべきのみ。若し二人の政權渴望者ありて國民議會の承認を得んと競争する場合には、その一人は所謂オストラシズムに依て放逐せられ、勝利者たる他の一人のみ國民議會を統監す。ペリクレスはアルクメノイデン王族の出として能く多年間亞典を支配し專政を行ふことを得たり。然れば則ちペリクレスは潛主となれり而かも何等かの國民激情に依りその位より放逐せらるべき危険は一日としてこれあらざるることなかりき。

この亞典のデモスは約そ十五萬人、市民は三萬人強にしてその一萬乃至一萬二千人は明かに官職を帯び、他の二分の一強は亞典市内に生活したるものなるが、十萬人の奴隸と十倍乃至三十倍せる屬州及び侵略地の人口とに對して一種の貴族政を行へり。このデモスは才能非常に秀で大膽なる侵略政策と帝國主義的商業政策とを實行せり。ペリクレスが戦争に勝ち平和締結に依りて成功せる限りは、このデモスはペリクレスの統治に服従したり。然るにペリクレス死し、シシリ遠征敢なく破れペロポネッス戦争に敗北するや、亞典の権力とその經濟的隆昌とは一朝にして過去の夢となれり。寡頭政と民主政とはこゝに互に競

争し、爾他希臘領域一般に於けると等しく卑劣度なく最も寒心すべき社會競争を惹き起し以て遂にマケドニアの権力に征服せられ、其後羅馬の世界帝國の爲めに一掃せられたり。

貧富の對立は紀元前四百年より羅馬の爲めに全く征服せらるる(百四十七年乃至百四十六年)まで殆んど全希臘に亘りて益劇烈を加へたり。社會革命はこの嫌惡すべき抗争状態に依りながら永久に絶えざるべきの觀あり。既に四百二十七年コルキラに於て、四百二十二年レオンティニに於て、四百〇二年サモスに於て、三百七十年エーゴスに於て起りたる社會的大變動は民衆の大殺戮を伴ひ、爲に將來此變動より満足すべき平和状態を生じ得べしとは想像に及はざる所なりき。所謂暴力的徳政と一切土地の新分配とは絶えず計畫せられ、國家の干渉暴政は枚擧に遑あらず。然り而して田舎は愈貧困に陥り、人口は減退し、所有は益小數者の手に歸せり。財産を強奪せられたるもの放逐せられたるものは反覆して暴力的新秩序を求め、この事既に一切の信用と交通とを廢壞し、賤民に一時的利潤を齎らし、而して道徳上に益賤民を墮落せしめたり。例へばスバル

タに於ける「アギス」及び「クレオメネス」の社會改革の如き最も妥當なる政策と雖も事態かくの如くなりては効果を收むるに由なし。凡そ大思想家、「ソクラテス」、「プラトール」、「アリストテレイス」は一樣に賤民支配の現象を憂慮せり。ありとあらゆる社會主義的計畫は突發せり。これを救済すべき唯一の手段は確實強固にして且つ妥當なる政府を建設することにあれども、かゝる政府は富者にも俟つ可らず貧者にも俟つべからず。たゞ希臘の爲めに唯一の救済手段として希臘文明を繼承すべきことを宣言する外國支配に依て以て始めてこの亂麻の状態を秩序し得べし。歴山大王及びその後繼者に依りて新たに建設せられたる希臘的絶對的大國家に於て希臘社會と希臘文明とは再び盛運を效し、而して殊に埃及に於ては古來の王權はその官僚の勵精に俟て凡そ經濟的盛運と社會的改善とを擧ぐべき準備條件を發達し即ち幾分階級及び黨派の上に超然たる堅固なる統治權を樹立せり。

二百四十七 羅馬社會史。羅馬社會の歴史は外觀上希臘のそれと多くの點に於て類似すれども内的には二者の間に截然たる區別あり。羅馬の小共和政は紀

元前第五世紀及び第四世紀に於ては農民武士的國家なり。紀元前三百九十二年にありても廣表三十平方哩市民十五萬を出でざりき、其特徴は強固なる形式的法律精神と僧侶階級及び神に對する專念の敬虔と官權の劃然たる發達とに在り。既に舊羅馬の王は復仇を禁じ、殺害に對する賠償は國權に依て裁定せらるべきものとせり。これに次で第五世紀の初葉に選舉せられたる一ヶ年交代制のコンサル並に其他の官吏は絶大權力を行使し、これ市民に依りて統制せられ同僚の抗爭權に依りて制限せられ、乃ち如何なる職權行使と雖もこれが爲めに禁止せられ従て職權行使後に控訴せられたりとも尙ほその權力の絶大なること匹儔なし。紀元前五百年の頃希臘人は理想的大國家觀念を發達したるが、殆んどこの時代に羅馬人は法治國家の職權を發展したり。

この法治國家に於ても猶ほ希臘に於けるが如く二社會階級即ち「パトリチエス」(貴族)及び「プレベール」(平民)の對立あり。貴族は大地主階級として大家畜群と若干の奴隸とを所有し、商業をも營まざるにあらざれども寧ろ受動的にしてその發展は著しからず。然り而してこの大地主貴族は僧侶たり軍人たり、一ヶ年交

代制の官吏たり、その隣人たり小農たる平民の保護者若しくは地主たり。或は又その債主たるものもあり。當時は自然物經濟の流行せる時代なり。貴族と對立せる平民はその氏族組織に依りて全然貴族と別たり。小地積の菜園及び耕地を所有し、その所有に繋がる牧場はやゝ廣大領域に亘れり。而して普通は兵士とし年一回從軍し若しくは數回の小行軍に従ふ。これ等の兩階級は根本的に相異せる大經濟利害を有するものにあらず。何れも自然物經濟を營み軍役に從事せる農民なり。何れも土地を多く所有せんことを欲す。さりながら二者の區別は既に夙に現はれ、貴族は寧ろその家畜經濟及び奴隸經濟を擴張せんとし、平民はその兒孫の爲めに小地積の**フーフ**を求めんと欲したり。戰爭的農業的擴張は常にこの二階級を合同せしめたる結繩なりき。平民が隸屬狀態を脱せんとし、政治上及び僧職上の名譽權及び職權を如何なる程度まで平民にも認容すべきかの議起り、侵略地を平民にも利用せしむるの權を認むべきかの論起り、債權秩序せられ、平民の負債が破棄せられ、二階級の間結婚問題生じ、確實なる成文法の要求せらるゝに及んで、こゝに始めて貴族平民の間に争端を啓きたるが

如し。傳説に依れば、後代の貨幣經濟的階級競争は紀元前六百年乃至三百年の間在り。この時期を通じて社會的抗争を相殺調和せんとするの軋轢あり、その間劇烈なる衝突も亦これなきにあらざりしも、而かも常に平民は壓倒せられずして勃興し、法律平等の爲め政權獲得の爲めに競争せり。而して貴族の聰明なる讓歩と平民の適度要求とを以て紀元前二百八十二年及び二百六十二年に至るまで**タレント**を除き至伊太利が統一せらるゝまでのこの舊大時期に於ける特徴となす、吾人は尙ほこの時期に就き少しく述ぶる所あらん。

平民は差當り特別共同團體として組織せられ、これを代表せる有力なる官職即ち**トリビーン**を備へ、**トリビーン**は一切の法律を禁止し得るの力ありき。平民は五百八十九年より四百〇九年に至るまでに一切の官職に就くを得たり然り元老院に入ることをも得たり。三百年には宗教上の最高位に上ることを得、四百四十五年には**コンヌーピウス**に入ることを得たり。大體に於て平民は官職を有爲なる貴族に委したるが、平民より出でたる大**コンナル**及び將軍例へば**デンタートス**の如きは三百年乃至二百八十年の間に大權勢を振へり。都市の平民、商

工業を管める自由民は無勢力なりき。國民議會は地理的區劃(トリプス)及び資産階級に準じて投票するの制となり、これに投票権を有し且つ重きをなしたるものは若干モルゲン以上の土地を所有せる地主に限れり。國民議會の議員は又兵士たり、軍隊の中心點は小農民及び中農民のフランクに在り。國民議會は軍隊的精神に依りて支配せられ、則ち會合したゞ單に官吏の説明を聴取し議論をなさず沈黙にして投票す。貴族及び富裕となれる平民にして、小農民に對し隣人として遇してこれに法律上の助言を與へ一旦戦争の場合にこれが指揮権を執れるものは、その高官に就ける限りは元老院議員となれり。コンサルは元老院及び國民議會を率ゐたり。羅馬は紀元前五百年より二百年以後に及ぶまで官職貴族及び所有貴族より統治せられ、世界史上に唯一の統治形式を示せり。その間階級支配の特徴を呈せざるにあらざれども、それは漸次に消滅し、一系の組織改善に依りて反復制限を加へられたり。改善制度の主たるものを四百四十三年のセンソル制となす。この制に依り五ヶ年任期の二人のセンソレンありて、以て一切市民の資産を保護し、地理的階級及び資産階級を秩序し、從て投票權

及び身分階級權を秩序し、而して苟くも元老院若しくは騎士表に於ける道德的缺點を削除して能く撞着なきを得たり。この制は黨派心勃發に對する防壁たり。國家組織の調節者たりき。

「グラウデウス」家及びそれに類する黨派首領は、商業經營者及び工業經營者、都市に平等投票權を與へんことを反覆計畫したるもこの制度の爲めに悉く失敗に歸せり。羅馬の政治は第三世紀の末に及ぶまで依然として向内對外共に農民政策なりき。殖民地建設に依りて愈々青年の爲めに發展の餘地を開拓し、爲めに新たに發達せる小農民地積は三〇〇となり、六〇〇となり、然り二〇〇〇に増加せり。殖民地に新たに農耕地を開拓するの政策は紀元前百七十七年まで續行したり。紀元前第三世紀に於けるポタリレスの侵略は農民の爲に起れり。この農民主義的政策の形式的極點は紀元前三百六十七年に於ける「リチニウス」の立法にして、この立法の内容に關し吾人はもとより毫も正確なる知識を有せざれども、傳ふる所に依れば、農民が負債せる限りその利息は資本より差引かれ、殘額は三ヶ年に償却するを許し、國家の侵略したる土地に於ては何人

も五〇〇モルゲン以上の地積を占有す可らず。國有牧場には何人も一〇〇の大家畜五〇〇の小家畜以上を放牧す可らず。何人もその經營上に使用し得る奴隸數は一定限度を越ゆ可らず、爲めに自由労働の需要を阻害するが如きことある可らざるなり。加之農民は屢不可能なることを法律上に遂行せり、例へば三百四十二年に於ける「ゲヌチウス」の法律が一切の利息を禁止したるが如きこれなり。これと別と既に新たなる傾向も亦支配せざりしにあらざれども、良政治家は尙ほ農民に對する土地交付及び小農民の爲めにする殖民地建設の政策を變ぜざりき。

貴族より統治せられたるこの侵略的農民國家は古來史上に異例の現象なるが、今や相關聯せる二大事實の爲めに罅隙を生じたり。二大事實とは一に自由労働と奴隸労働との間、富者(貴族及び平民)の奴隸經濟と自由なる小農民經濟との間の衝突、二に伊太利以外にも侵略を進め依て以て農業的共和國内に商工業者の權勢を維持せしむべきか否かの爭議これなり。

伊太利が漸次に征服せられて遂に大商業都市「タレント」に及び、既に大部分が

同盟組合州若しくは同盟聯邦の形式をとりたるの時、羅馬國家の發展が果して能く現状を維持し得べきか如何の問題は必然起らざる可らざりき。農民黨及び舊貴族的政治家は現状維持を欲したり。「クラウディウス」家を首領とせる商業派は更に侵略を進め依て商業及び富を促進し愈屬州を奪取せんとに吸々たり。二百八十二年に於て「タレント」及びその同盟者たる「ピルス」との衝突あり、二百六十二年に於ては「シリイ」人より救助を乞はれたるあり―此等の事件は羅馬をして遂巡しつゝも尙ほ商業派の侵略主義に出でしめたり。二百六十二年乃至二百四十年の第一次、二百十八年乃至二百〇二年の第二次の對「カルタゴ」戰爭は是の結果なりき。「シリイ」及び「サルデーニヤ」は既に二百四十一年に隸屬州となれり。商業主義的侵略政策の必然の結果として更に希臘及び亞細亞の世界商業にも干與せり。かくて國家、黨派及び階級、國民經濟全般に亘れる大變動は二百八十二年乃至百三十四年の間に起れり。伊太利を地盤とせる農業的中國家たる羅馬國は百五十年に支配的世界帝國となり世界に冠たる商業國となれり。舊貴族の中國の輩は「シビオ」家を首領として、適度の政策を施し以てこの大變動を健全

なる方途に導かんことを力めたり。この派の目的は屬州の侵略にあらざして羅馬を中心権力とせる國家組織の實現なり、中流階級及び農民、舊官僚の道徳を維持せんことなり、新商人階級及び資本家階級の貪慾を制限せんことなり。彼等はこの目的に成功せざりき。蓋し彼等はその方法を誤り、この場合の唯一の救済法を避忌し即ち永久的君主政の樹立を計らずして、舊組織の手段に訴へ即ち一ヶ年交代制の官吏、元老院政治、羅馬市の國民投票に依てこの目的を實現せんと欲したるが故なり。リヴァウスの言ふ所に徴するに、既にシビオアフリカヌスを終身ディクタートルたらしめんとする舉はその功なかりき。貴族の元老院統治は依然として持續したるが、二百年乃至百三十四年の間に反覆無能の實歴を曝露したり。元老院統治は百五十六年乃至百三十四年の間に愈々弊害を生じ、何處にも羅馬太守の掠奪的直接莊園政治を實現し、乃ち伊太利の同盟州民と羅馬市民とを同列視して以て羅馬市民を益々平民化するの政策に出づることなかりき。蓋し商業上の嫉視ありてこの平等政策を禁止したりしなり。

二百八十二年乃至百三十四年の社會的及び經濟的變動を攝要略述すれば則ち

次の如し。二百六十九年の銀貨鑄造は貨幣經濟の流行と商業の増進とを表明せるものなり。戰爭に伴ひて大海軍の發達あり、これ羅馬の商業利害をも保護せり、而して又内國船主會社の成立あり。大戰爭の結果として資本主義的大商人及び大商事會社を勃興せしめ、これ等の大商人及び大商事會社は國家に資本を前貸し、國家の海陸軍を建設し且つ訓練し、その代りに羅馬人が商業を獨占したる屬州に於ては國家の領土、鑛山、租税を貸與せられて經營し徵集したり。彼等はシリヤ及び希臘より低廉なる奴隷群を輸入し、以て商業工業農業上に大經營と分業と技術の進歩とを促進せしめたり。これ等奴隷の優秀なるものは開放せられて自由民となれり。羅馬及び其他の大都市に於てこれ等の開放せられたる奴隷は始め一二代の間は全然その主人に隸屬したりしが、半ば自由を得半ば富を積集したる一階級をなせり——商人、實務取引者、投機者、小商人、手工より成れる一階級これなり。彼等は地主貴族及び紳商の爲めに勞務に任じ殊に一切の賤業に當れり。

貴族及び平民の出なる元老院議員たる舊富裕貴族及び新貴族が商人貴族と區

別せらるゝ原則は、殊に大官職に就ける者に營利業をなすことを許さざるの點に在り、こゝに商人貴族(紳商)とはセンソル名簿に於けるリッタルセンヌスとふ家族と根本的に同義なり。農民黨は二百十八年に元老院議員の海運業に従事することを禁止する法律を施行したり。然れども元老院に列なる家門も漸次に商人(Publiken, Publikenen, Steuerpächter)の業務に干與し。その資本を以て利益多きPublikenenの業務に加はり。元老議員の太守及び主税官並に徵稅權利者は屬州に手を延ばし、共同して屬州を却掠し誅求したり。嘗て支配權を掌握せんことはたゞ單に名譽の爲め支配權それ自體の爲めなりしが、今や官權官職に就かんとするの動機は依て以て貨幣を積集せんことに在り。嘗て羅馬の官吏及び商人は最も正直なるものと認められたるが今やこの名譽は消滅せんとなす。希臘的教育はこれ等社會に施されたれども、概して東邦の贅澤、淫佚、極端なる享樂欲も亦浸漸し來り、その結果として破廉耻なる貪慾を醸成したり。希臘及び亞細亞の遠征は將卒を根本的に墮落せしめたり。古來の道德及び敬虔、古來の政治家的才能及び將軍たるの才幹を失はざりしものは少數の優秀者に過ぎず、大多數の者は滔々

として物慾の奴隸となれり。百六十年以後は元老院も亦賄賂に左右せられ、羅馬の一般民衆は益以て諂媚、饗宴の爲めに誘致せられ、遂には金錢を以て貴族に買収せらるゝに至れり。

農民階級は既に第二ピニク戦争の間に兵役延期と大徵發と土地荒廢との爲めに痛く危機に瀕したるが、尙ほあらゆる改良と殖民地建設とに依りて恢復し、羅馬市民の數はもとより農民と同一視す可らざれども、紀元前百六十九年に及ぶまで増加し、それ以後に至りて減退を來たせり。かゝる間に土地は愈々兼併せられ、農民は益々その所有地を賣却せざる可らざるに陥りて、乞丐となりて羅馬に蟄集せり。屬州に於ける穀物相場の低廉なると奴隸財産とは農民を撲滅したる原因なりき。奴隸は益々多く輸入せられてその貪慾飽くなき主人より酷使虐待せられたり。伊太利に於ける奴隸一揆は抑百八十七年アブリエンに勃發し、此時殺戮を加へられたる奴隸は七千人に及びたり。

二百八十二年乃至百三十四年の羅馬に在りては尙ほ最も偉大なる將軍と政治家とを認め得べく、それ等偉人の政治上及び軍事上の偉業は祖先のそれにも屢

凌駕せるものなきにあらず、當時權勢ありたるシビネ家の如きはその德行その人格その内外政策その教育に於て今日尙ほ稀代の師表と仰がるれども、而かも約そ百三十四年の頃に至りては概して舊元老院議員が最早世界帝國を統治するの力なく、既に勃發したる社會競争と經濟的墮落とを統制し得て以て土崩の憂を未然に抗拒すること能はざりしは吾人の看却を容さざる事實なり。羅馬がその一切の競争者を征服し、即ちカルタゴ及びコリントを商業上の嫉視より破滅せしめ、カプア、タレント、シラクス、ロドスの商業も亦大打撃を蒙りたる後、敵國外患なきものは國常に亡ぶとかや—此時羅馬の元老院貴族も既に屢貪慾なる高利壟斷者の左右する所となり、紀元前百四十六年乃至九十年の交には將に政治的破産と社會的革命とに陥らんとするの危地に立てり。

紀元前百三十四年より三十年に亘れる新時期の特色は大改革なり、市民戦争及び大虐殺てふ流血現象なり、社會的及び政治的非常手段なり、而してドイツ政治なり。その結果は遂に君主政の樹立となれり。その間に階級競争と階級支配とは至大の影響を及ぼせり。社會状態は二百四十二年乃至百三十四年

のそれに比し毫も根本的改善なく、否これが徵候は愈々慘烈に愈々不祥となれり。奴隸の數と苛酷なる奴隸虐待とは益加はり、恐るべき奴隸一揆は百三十四年乃至百三十二年、百〇二年乃至百年、七十三年等に亘りて連年羅馬軍隊の出勤となり、爲めにシシリ及び伊太利は荒涼となれり。グラッカスの法律は八萬の農地、ユリアンの法律は十二萬の農地、ポンベイエスの法律は二萬の農地を新たに設けたるありと雖も(後の二つは主として老兵の爲めに設けたるもの)、農民階級は益減退せり。官吏及び Publikenen より強奪せられたる巨大の富とこの富を伊太利の土地に投ぜしめんとするの慣習及び強制とは當代並に後代に農民に禍し。奴隸より開放せられたるもの及び無所有なる首都の賤民はその數と勢力とを益増大せり。羅馬の民衆は無政府主義的賤民團と化し、無頼の首領に率ゐられ苟くも買収せらるゝの匪徒となれり。他方に資本主義的商人及び富豪の亞細亞に於ける貪慾の墮落状態も亦その極に達し、即ちミヌラダテスは八十八年に小亞細亞に於て壓制に苦める者の總助勢に依り一日に八萬人若しくは十五萬人の伊太利人(Publikenen)及びその使用人を殺戮せしめ、其後幾ならずしてデロ

スに於て二萬人を殺戮せしめたり。傳ふる所に徴すれば、Publikanenはその奴隷狩に依りて全屬州の人口を減滅せしめ、凡そ法律は彼等に對して何等の威力なく同盟州の自由の如きは彼等の蹂躪して顧みる所にあらざるなり。最も高尚なる政治家、兩シビオ、エミリウスパウルス、カト等の如きは彼等の權利と權力とを制限せんとしたるも其效なかりき。彼等は元老院議員及び農民、外國都市及び同盟州都市の冷酷なる債權者たり。スラ、マリウス等の大沒收事件に際しては殺戮せられたるもの、土地を買収し、依て一〇〇〇乃至二〇〇〇プロツェントの利益を收めたり。紀元前百年の頃伊太利に於ける富豪の數は僅かに二千人と稱せらる。マリウスは其後五十人の元老院議員と一千人の騎士とを殺戮し、スラは前者の四十人と後者の一千六百人とを殺戮し、以てその資産を沒收せり。後の場合に於ける収益は八千百萬マルク、その實際價值はこれに一〇乃至二〇倍せり。市民戰爭當時の Publikanen よりも聰明に而かもこれよりも貪慾且つ卑劣なる富豪階級は史上に空前絶後なり、彼等は租稅徵集權利者、裁判官、船主、銀行家、殖民地所有者及び奴隷賣買を兼ね以て苟くも強奪を行へり。彼

等をしてかくも墮落せしめたる原因は資本それ自體にあらずして當時獨特の社會狀態及び國家狀態に在り。主として一切の大政策が悉く貨幣を以て賣買せられたるの不祥狀態に在りて存せり。或は抑羅馬の貨幣經濟的不拘束及び資本主義的自由の大勃興は凡そ塵滅的競争の行はるゝ世界的帝國に於て必然の結果としてかゝる墮落に至らざる可らずと斷言するも亦不可なからん。人類發達史は羅馬に於ても爾他一般の事例に漏れず恐るべき犠牲を拂はざる可らざりき。さりながら凡そ此等の不祥狀態並に革命及び市民戰爭を惹き起さしめたる究竟原因は、一に舊大貴族が紀元前二百年來衰頹せること、二に貴族より成れる元老院統治が機宜を失し黨争を事とし屬州の統治に對しても大改革に對しても無能の實を曝露したること、三に國民投票に依りて補充せられたる年度代官が毫も確固たる政府を樹立せしむるに至らざりしこと、四にコミティエンの議を決したるものは嘗ては正廉なる農民階級なりしが、今や無所有にして懶惰、賄賂を以て左右し得べき貪慾なる都市賤民となれること、五に選舉は腐敗し一に投票及び取引と化したること、六にコンサル、センスルが墮落し、年度代官に選

出せられんとするの競争の爲めに候補者、選舉人、全國家組織が腐敗したることに在り。

この状態は二途をとりて變動し、畢竟は君主政即ち確固たる統治権の樹立となれり。其一途は大膽にして且つ才幹ある貴族の後裔即ち例へば兩「グラッカス」(百三十四年及び百二十一年)、「リヴィウスドルーサス」(九十二年)、「スルピチウス」(八十八年)、最後に「ユリウスツェーザル」の初年(六十年)、並に墮落せる潜主即ち例へば「チンナ」及び「カティリナ」の計畫せる所にして、舊元老院貴族の反對者(騎士、農民、主として賤民)より強固なる平民黨を創立し、以てそれぞれ社會的大改革を遂行せんとするものなり。然れども此等の雜多階級を叫合して自由國家に能く一運動を惹き起さんことは、獨り危険なる誘惑手段に訴へ、更に危険にして極端なる民主主義の國家組織變更に依り、幾分は進んで國民議會の暴舉の如き暴力を用ふるにあらずんば不可能なり。「グラッカス」の如き最も大膽なる潜主及び「ドルーサス」の如き最も遠大の識見を備へたる保守主義者はこれが首領としてこの大膽なる社會運動を率ゐたり。その根本目的は正當なりき、農民階級の向上及

び復興、殖民地の新設、國有地を大富豪に壟斷せしめずして細民に供與すること、負債者の負擔を軽減すること、市民權を伊太利人その他にも均霑せしむることと是れなり。されどもこの目的を實現せんが爲めの手段は甚しく危険なるを免かれず、Publikanen 及び騎士を自黨に引き入れざる可らざる必要より將來の禍根に顧みずして騎士に權利を與へ、徵稅權貸與率を引き下げ、あらゆる利便を計り、其結果として此等資本家の權力と從て又その貪慾その勢力とを助長せしめ、然り總じて此等階級を極めて甚しく墮落せしめたり。而して又首府の賤民を味方となさんが爲めに奴隸より開放せられたるものをも投票權に均霑せしめ、穀物相場を低廉ならしめ若しくは無償にて羅馬に於て施米し、かくして幾千の懶惰者をして徒らにこの施米に衣食せしめ、負債を四分の三までは免じ(徳政)、奴隸開放を一般に宣し、競技、演武、觀劇の開催に巨費を投じて賤民の甘心を買ひ、而して以て羅馬共和政をして全く健全なる改革を不可能ならしめたり。これ等の極端なる手段に訴へながら凡そ共和政の指揮者は、「ツェーザル」に及ぶまで未だ嘗て持久的効果を收めず、確固たる權力を樹立せず、効果を將來に確保

し得べき國家組織の大變更を敢行したるものあらざりき。彼等は敢て最後の大斧鉞を加へて共和政を改廢するには至らざりき。

その第二途は將軍の計畫する所たり。既に農民階級が衰頹し且つ又世界的侵略の爲めに愈々大軍を屢數年間に亘りて海外に駐屯せしめざる可らざりしより、大富豪貴族は殊に元老院が一錢を吝みて天下の大局を誤りたる場合に自由軍を募集せんとするの企に出でたり、「シビオアフリカヌス」の如き然り。其後に至りては市民が軍役を拒絶したることも亦屢起れり。「マリウス」はこゝに於て自由徵兵制度を立てたり。而かも徵兵に應募せるものは無所有者に過ぎず、それにも拘らずかくして組織せられたる軍の戦闘法は大に面目を革めたり。則ち軍事上には進捗したれども社會上には弊害を生じ、この傭兵は一旦除隊に際しては大に戰爭掠奪物の分配に預からんとし殊に土地を分與せられんことを要求せり。粗暴なる民黨にして農民の子なる「マリウス」、空想家にして極端主義なる「スラ」、用意周到にしてあらずる黨派と妥協せんとする「ポンペイユス」、天才ある民主主義の政治家にして且つ軍人なる後年の「ツァーガル」凡そ此等の士は皆等しく差當

りは戰勝の後に其大軍隊の要求を満足せしめざる可らず、一時的若しくは永久的なデクタクトルとして、よし舊貴族を救護せんと欲し將た社會的民制の大變革を行はんとしたらんとも、差當りは墮落せる傭兵を統制せざる可らざりき。從て彼等は新たに強固なる無制限の國家權力を樹立したれども、又これ一種の階級支配に外ならず、即ち兵士の跋扈これなり。彼等は必要上極めて殘酷なる沒收及び斬首を敢てし、而して爲めに國家、社會、行政を蠹毒し廢壞したり。「ツァーガル」に至りて始めて極端なる社會主義的要求に敢て反抗したり。諸將軍と雖もその健全にして社會的に且つ正當なる國家組織上及び國家行政上の改革を遂行せる限りは、皆軍事上のデクタクトルを以て大權力を行使し一切の政治的自由を壓迫せざるものなかりき。

然り而して、階級競争及び市民戦争のこの亂麻状態の究極は唯だ一途あり得べきのみ。それ古來の高尙なる文明を發展せる社會にして益々罅隙を生じ唯物主義的となり享樂主義の奴隸となり、社會を擧げて益々殘虐悽慘なる階級競争の禍亂に投ずれば、この社會は絶對國權の樹立ありて以て平和状態に恢復せんこと

を冀求するや愈、急切なり。而して「スラ」、「ツェーザル」及び「アウグストゥス」、次ではプリンチパルト當初二世紀のインペラトルは能く此間の消息を理解し、能く外観上には共和國の形式を存して而かも絶對的權力を行使せる國家を樹立し、同時にかゝる社會に可能なる限り社會上及び行政上に大改革を遂行し得たり。嚴密なる意味の階級競争はこゝ若干世紀の間は一掃せられ、羅馬大帝國は第一乃至第二世紀の間經濟上及び文明上に時ならぬ盛運を效せり。而かもこれ將に滅せんとする一閃の光、やがて羅馬は內的に全然瓦解し去らんとす。

紀元後第三百年に至るまでのプリンチパルト、第六世紀に至るまでの「ディオクレティアン」及び「コンスタンチン」帝政の時期は市民戰爭時代に對して、確固たる政府の樹立と伊太利及び屬州の融合統一と帝國全般に亘れる平等法律の施行とを其特色となす。二百年間空前絶後の平和時代は先づプリンチパルトに依りて效されたり。然れども嘗て紀元前三百年乃至二百年の間、貴族平民間の競争は內的調停と共同感情の昂進と國家に對する一般的獻身精神とを發達せしめたるが、プリンチパルトは單に外的平和を確立し、共和政の外観を維持し而して最

も甚しき階級罪惡及び階級暴戾を壓迫し得たるのみ。而かもこれ既に大成功なり、それ以上には最早到達す可らず。殊に帝政の全時期を通じて最大患害は階級競争及び市民戰爭の餘燼とそれが爲めに醸成せられたる傾向將た精神の遺産なり。

「ツェーザル」は自黨の要求に繋かれる一般的免債及び土地財産の一般的新分配を裁可せず、而して「マリウス」及び「スラ」以來絶えざりし所有者階級の苦惱を排除せり。然れども未納の利子は破毀せられ既に拂はれたる利子は元金より差引かれ、嚴重なる高利取締法及び破産取締法は伊太利及び屬州に埃及及び「ソロン」の立法を模範として施行せられ、爲めに凡そ負債より起れる奴隷は將來に不可能となれり。今や多數沒收と多數斬首とは何處にもこれを認む可らず、調停、相互忍容、赦罪は一般の暗語となれり。伊太利及び海外の自由國有地及び買收したる土地に農民及び老兵を新たに殖民せしむることは自今普通の現象となり。新殖民地に對し「ツェーザル」は二十年間賣買を禁止したり。兵士に金錢の贈賄は尙ほ止まざりしも「ツェーザル」は兵士の給料を倍加し、而して優良なりし皇帝は何れも軍

隊をなるべく國境に屯せしめたり。羅馬市にて施米を受けたる賤民は實に三十萬人の夥しき數に上りたるが今や眞に貧困なる者は十五萬人に減じたり。而かもこれ以下には減せざりき。社會主義的賤民救護は到底秩序ある國家的貧民救護に發達せざる可らず。これが爲めには羅馬及び其他に大工事を起して貧民の爲めに勞働機會を開かざる可らざりき。一面には國家の大小家畜群牧養の爲めに自由勞働者の三分の一をこれに強制的に勞働せしめたり。國家の穀物政策は漸次に發達し一對一〇にも上れる穀物相場/year々動搖を抑制せんと力めたり。浴用藥劑の爲めに用ふる油は無償にて供與せられたり。家族生活健全に兒童數多きは國家より補助せられ贅澤は禁止せられたり。嘗て羅馬の屬州は寡頭政の太守及びPublikanenに依りて荒掠せられその暴狀言語に絶したりしが、今や帝政の嚴重なる行政に依り、Publikanenに對し租税領土等に繋かれる權利貸與が漸次に撤廢せられたることに依り、伊太利の法律及び都市組織を屬州にも適用したることに依り、屬州へ向け伊太利人の移住に依りて大に緩和せられ、爲めに「モムゼン」はこれを以て伊太利の貧富兩階級競争を緩和し調和すべき最も重要な

る手段と觀じたり。これを以てこれを觀るに、ガリア、西班牙、北亞弗利加等の諸屬州に於て再び富の大増進あり而して中小農民階級がこれ等屬州に於て遙かに後期まで存続したるは毫も怪むに足らず。然り而して伊太利に於ても亦「リッチパルト」の第一世紀に農業經濟は技術の發達及び周約的投資に依りて顯著なる進歩を效せり。

言ふまでもなく土地兼併と奴隸虐待とは打ち續きて行はれ。奴隸輸入が絶へ従來の大經營が奴隸家族の小借地經營に變じ即ち所謂コロナートの發達するに及んで奴隸虐待のことは始めて緩和せられたり、(本譯補の第四冊 百二十五 參照)。これを以て従來大屋舎に嚴重に監視せられ屢々牛馬の如くに繋がれたる奴隸は自由を得て其家族と生活し自己の家に起臥し自己の經濟を營むに至り。かくて第四世紀の間に奴隸に關する法律の改正ありて、屬州より奴隸を輸入することは禁ぜられ、三百二十五年には負擔加重に對する訴願の權を許し、三百三十四年には奴隸をその家族より分離することも禁ぜられ、三百五十七年には奴隸家族とその「フーフ」を分離することも亦禁止せられたり。この大社會改革を

實現せしめたるもの抑々克己主義に影響せられたる法律及び基督教に因すれども、人口の缺乏、自然物經濟の復興、皇帝の財政的及び軍事的利害も亦著しく與て力あり。奴隸開放のことは既に夙に起り、家族内に仕へたる優秀なる奴隸は屢々奴隸として六年間勤務したる後開放せられたり。帝政に至りては常に主として奴隸より開放せられたるものを使用しこれが爲めに利便を計り、その富裕なるものは市會議員となることを許されたり。一方に於て帝政時代の大宮室行政及び大國家行政は奴隸及び奴隸より開放せられたるものの多數を使用したればこれ等二階級の地位は頓に向上し、他方に於て共和政の晩年以來百萬富豪は概して自らその資産を經營するの能力なく、奴隸及び奴隸より開放せられたるものにこれを委任したれば、多くの奴隸は極めて自由にして且つ富裕の身となれり。

從來支配的地位を占めたる二階級、即ち地主たる舊元老院貴族及び騎士階級 (Patrikianen) 即ち租税請負人、貨幣貴族はプリンチパートの爲めに一定の制限を加へられ、改變せられ、その官職範圍及び勢力範圍は或る程度以上に亘ること

を得ざるに至れり。元老院議員の補任權はプリンチパートに移り、元老院議員となることを得るものは既に或る資産を有し或る官職を経たることを必要となし。元老院議員の子供は通常騎士階級に上れり。「アウグストゥス」は五千の騎士の地位を創設し、この地位を得るには皇帝の定むる詮衡に通過するを要し、始め軍人たらざる可からず、而して後皇帝直屬として直領屬州の官吏として進級規定に従ひ高官に上ることを得べし。元老院議員并に騎士階級の官吏は何れも俸給を支給せられ、二階級共に主として富豪貴族より補任せられたれども寧ろ官吏貴族の出を以て多しとなす。かくて騎士階級はその暴利を壟斷したる貨幣貴族の特色を失へり。總じて官僚はこの二階級の外に奴隸より開放せられたるもの、貧困自由民、奴隸より成り、而してこの二階級を以て首位となす。地方都市に於ては一地方の大地主階級即ち所謂デクリオネンDequionenは元老院議員及び騎士が帝國に對して責任を負へると同様に、一地方の官僚行政に任じその租税に對して責を負はざる可らず。この一地方官職の場合にも亦行政權行使の根據としての資産所有は官職上の義務に依りて内的に取て代はられたり。この全官僚組

一六六

織而して殊に益々俸給を支給せられ分業的に秩序せられたる官僚の發達は、ディオクレティアン皇帝の下に始めて完成を告げたるものなるが、吾人はこゝにこれが詳細を盡すべき餘白なし。たゞ一言注意せんは、此國家機關が明かに完全なるものにあらずして、第三世紀乃至第五世紀の間に苛酷に失し貪慾主義の犠牲となり、而して以て早くも慊惡すべき衰亡文明の頽廢性を曝露せることは是れなり。然れどもこの官僚はプレトリアーネル(コンサル)の次位(軍隊の專横なる要求と勢力とを抑制すべき有效なる均勢力たり。官吏は尙ほ古法律精神と舊法律家の法律形式とを多く保留したり。されば、モムゼンが羅馬國家はこの官僚に依りて尙ほ二三世紀間確實に維持せられ、而してこの官僚の行政を以て、紀元前二百年よりプリンチパルトに至るまでの元老院貴族及び *Publikenen* のそれより遙かに勝れりと主張したるは寔とに理あり。

當時の官僚統治も軍人統治も新たなる社會を創設すること能はざりしも、而かも嚴密なる意味の階級競争は則ちこれを抑壓し、舊階級支配に附帶せる最も唾棄すべき弊害を排除し得たり。さりながら新たに健全なる中流階級の起れる

一六七

ものなく、社會は大體に於て百萬富豪と乞丐とより成り、凡そかゝる状態より生ずべき悲惨なる結果を伴へり。さればとて百萬富豪は最早專制的に統治し而して國家政治を主として貨幣取引として處理すること能はざりき。慊惡すべき利潤慾の支配せる限りこれ兵士、羅馬の貴族及び賤民、換言すれば場合に依りては空帝位をも最も多くの代償を提供する者に賣渡さんとを辭せざる輩の所爲に繋かれり。階級秩序は寧ろ所有を基礎とせずして益々官職のヒエラルヒー(第一冊に説明したり)及び漸く世襲化せんとする職業別に準據し、乃ち職掌の上下、職業の種類、位階、服裝、儀禮に依りて儀表せられて愈々煩はしきものあり。古今を通じ全歐羅巴に亘りて當時の羅馬に於けるが如く一般的に身分階級別を外觀に儀表し苟くもこれを恪守しこれが効果を信じたるものは未だ曾てこれあらず。身分階級及び職業の世襲的區別は人口減少と貨幣經濟衰頹と自然物經濟復興とに順應せる現象なり。この費用多き巨大國家機關を維持し得べき唯一の方法として羅馬國は資産と人との關係せる世襲的強制を實行し、乃ち貴族階級には大なる義務を負はしめ下層階級には凡百の國家勤務を課して以て轉職を不可

能ならしめざる可らざりき。(本譯補の第四冊 **百三十五** 參照)。

第四世紀以後の羅馬社會狀態而して殊にビザンチン帝國の社會狀態并にその國家制度及經濟制度は毫も吾人の感興を起さず満足すべきものにあらざるや辯を須たず。要するにこれ衰亡解體の時代なり、人種は墮落し、社會は獨身、將來に對する絶望、遁世、國家に對する冷淡等の風潮に支配せられたり。古文明の外的装置は益々壞廢せり。農民階級將た軍隊の缺陷を補充せんが爲めに新血液新人種を俟たざる可からず。然れども他面よりこれを觀察すれば何處にも舊文物の解體の裡に既に良時代を發展すべき新萌芽の現はれたるものあることを否認す可らず。基督教の普及及び羅馬教會及びビザンチン教會の發達、勞働益益神聖視せられたること、自由職業及び官吏階級の意義愈高まれること、奴隸の減ぜられたること、古法律制度の人道化せること等即ちこれなり。これ社會的大進歩—而して階級競争の結果にあらずして古文明の解體と關聯し内的道德的進歩并に教會及び國家勢力の賜なり。

二百四十八

中世時代の階級史を叙して第十五世紀に及ぶ、封建的農業的階級

級、都市の階級。近世歐羅巴民族の階級史、その移轉、その競争に就ては、吾人既に分業論、財産分配論、社會階級別及び企業論、(本譯補の第四冊 **百十三**乃至 **百四十七**)に於て、而して又第三卷の諸節主として資本利子論(第五冊 **百八十二**)、勞働關係論(第六冊 **二百〇三**)、并に所得論(第七冊 **二百二十九**)に於て多く論及せざる可らざりしが。尙ほこゝにその最も重要な點、殊に古代の階級史との相異を敘述せざる可らず。

古代并に近世の發展は自然物經濟の大國家(ミケーネ、メロヴィンガ朝、カロリಂಗ朝)に始まり、其後これ等國家は高尚なる文明と良行政との發達に伴ひ再び分裂して小都市國家となれり。然れども希臘及び羅馬の王國は忽ちにして滅亡し、共和政及び貴族政これに代て發展したるが、ゲルマン王國は極めて夙に強固なる發達を效せり。羅馬との競争、ゲルマンの國民同盟、中部歐羅巴の大廣袤、羅馬及び教會の傳承に依りてゲルマン王國は遙かに周約的なる官制を發展し。その根底極めて深く、從て歐羅巴の國家社會は古代のその如く共和政とならずして數世紀間王制的國家形式をとり以てその最も重要な發展を經へた

り。もとよりゲルマン王國と雖も幾ならずして單に王國の外觀を止むるのみとなり且つ選舉王國と化したるもの隨處にこれなきにあらず。都市及び都市國家に於ては中世時代にありても尙ほ屢貴族及び平民の元老院統治なりき。上流階級(僧侶、武士、大地主、商人)は多くの國家に於て強固なる結社的組織をなし而して或る階級支配を慾まゝにすること不可能ならざりき。然れども實に伊太利及び獨逸にありても王制は全然消滅せず。獨逸には領主あり伊太利には君主ありて國家を統治し、而かも嘗て希臘に於けるものより遙かに久しきに亘りてその權勢を失墜せざりき。英蘭及び佛蘭西にありては王政は既に第十一世紀乃至第十三世紀の間に再び勃興し、第十五世紀より第十九世紀に至る間に總じて世襲的大王家を中心として新たに大國民國家の發達あり。これに依りて近世國民は戰慄すべき階級競争を伴へる革命時代と殘虐なる軍隊ディクタートルに俟てる革命鎮壓との慘劇を免かれたり。貴族と王政との競争は多くは貴族政治を産み、後には憲法政治を齎らせり。この二形式は概してその發達不完全なりしこと異論なく、何れも屢階級干渉を如何ともすること能はざりき。然れどもこれを以

て古代の状態に比するにその進歩霄壤も雷ならず。古代史に於ける階級濫用及び階級支配の極端は抑々古代の都市國家に發達せる主權的國民議會を以て新たなる大國家を統治せんとする不可能計畫に發せるもの。後代國民議會は激情と偶然事件と恐怖主義と買収と賤民支配とに左右せられたり。最も不完全なる帝國議會を以て最も完全なる國民議會に比するも尙ほその間に雲泥の差別あり。加之近世國家將たその茫大なる農業國土に於ける社會分化、貨幣經濟及び信用經濟の進歩は、希臘及び羅馬に於けるよりも遙かに緩徐に。經濟的動機、全精神生活、諸制度の變革も亦從て緩徐に、これに伴ふ危險も亦少なし。且つそれ性急ならざるゲルマン的地方的國民性格、基督教の影響、第十八世紀及び第十九世紀に及ぶまで基督教の理想と教義とを以て一切階級を支配せるあり—その結果は劇烈競争を緩和し、激情卑劣悖德の亂行を多く抑止したり。苛酷なる高利貸的利己主義は最早極端ならず、同情、社會的責任の徳は大體に於て社會を支配せり。一切社會制度は古代國家に於けるよりも遙かに人情を存せり。貧民階級は決して古代に於けるが如く墮落せず、國家の施米に生活してその

娛樂設備を濫用し労働を避忌せる賤民にあらずして、勤勉なる労働者日雇人家内工業従事者小農民なり。古奴隸制度は始め希臘及び羅馬の衰亡貨幣經濟時代に凌轢せる貪慾なる資本家及び企業家に依りて全く野蠻なる壟斷的制度となりたるが、基督紀元約三百年以降は慣習及び法律、基督教及び經濟條件の變動に依りて緩和せられたり——これ吾人の既に觀察したる所なり。奴隸制度それ自體は形式上には存續し、而して個々的には實に千二百年然り千五百年に及ぶまで廢せられざりしが、其後全く消滅せり。千七百年以降歐羅巴の殖民地に於て古代と同様條件の下に再び奴隸制の施行となり且つ普及したるが、歐羅巴にありては敢て再び奴隸制度を復興することなく、第十九世紀の間に文明國民の法律意識及び殖民地の強固なる政府はこれに反對し、爲めに多少の隸屬關係が恐らく尙ほ存在したる處、隸屬關係の禁止は則ち經濟上の衰頹を招きたるが如き處に於ても奴隸制度は消滅したり。社會的法律意識の力は所有階級の經濟上の利害關係よりも強大なりき。

嘗て希臘及び羅馬に起りたるが如き數百年間の市民戰爭及び階級戰爭とそれ

に伴て反覆強行せられたる多數殺戮及び富豪資産の沒收とは近世史には既に認む可らず、又國家の總軍隊を徒らに數年間動かしたる労働者戰爭及び奴隸戰爭も亦然り。貧富間の憎惡感情は最早紀元前第四世紀以降の古代に於けるが如く激調にあらず。最も過劇なる社會的急進主義と雖も今日にありては古代のそれよりも遙かに高尚なる發展段階に進めり。

さりながら吾人はこゝに個々に亘り差當り紀元千四百年頃に至るまでの舊時代に就て叙述する所あらんとす。

ゲルマン民族はその土着に當り、よし小所有の自由民最も多數を占めたりしも、既に著しく身分階級上の差等を發達せり。王族及び酋長族、貴族及び自由民以外の隸屬者に種々の等級あるは吾人の觀察する所、身分階級の分化は最古時代の法律に準じ、殺害罰金額は一、二、三乃至八の等級に區別せられたり。隸屬者全般、サクセンに於けるリオーテン人、英蘭に於けるブリテン人、佛蘭西に於けるケルテン人、伊太利に於ける舊殖民者の境遇は幾分極めて劣惡にして殆んど奴隸と撰ぶ所なかりしが、而かも法律上に自由を認められざる隸屬者と

一七四

雖も尙ほ多くは一つの農耕地を有したり。本來フリーフェを有したりし自由農民の大部分は第七世紀乃至第十二世紀の間に隷屬的地位に沈淪し、國王、教會、權門は之が領主となれり。隷屬民の負擔は幾分過酷に、その待遇は劣悪なりしかば、反覆地主を殺害したるの實例一にあらず。然れども大體に於てこれを觀察すれば彼等の隷屬的境遇は兵役及び裁判勤務に繋かる國家的大負擔の免除を意義し、地主に依りて安固なる保護を加へられたり。乃ち彼等は全力を擧げてその經濟の爲め、三年廻期經濟及びその他の進歩に當ることを得たり。彼等の貢納すべき租備調は大部分確定し、その然る限り久しく利潤増大は地主よりも却て彼等隷屬者を利し、而して概して共同的莊園法に依りて保護せられたり。國內殖民の繼續せる限り、是を獨逸にしては東部移住のこと絶へざりし限り人間の需要は土地の需要よりも緊切に、將た都市建設の端開けて則ち人格の自由を認め人口愈需要せられたれば、千百年乃至千四百年の間苟くも農民に對する過酷なる壓制は悉く禁止せられたり。上部伊太利、ニールランド、北佛蘭西、英蘭に於ては貨幣經濟の發達その緒に着き依て既に隷屬民の一部は個々負擔

一七五

上に人格上の隷屬關係を脱することを得たり。

されば農民階級は六百年乃至千四百年の間にそれ古來享受したる自由を奪はれ、大小貴族及び僧侶の效せる進歩に參からず。幾分はこれ等上流階級の爲めに壓迫せられ、これに隷屬する境遇に陥りたるが。尙ほこの八百年間の後半に於て經濟上及び文明上に向上し、奴隷及び絶對的隷屬者は隷屬農民と併せて統一ある農民階級をなせり。この農民階級は幾分毫も確實なる所有權を有せざりしも、尙ほ農民の大部分は教會及び國王より保護せられ、舊組合組織に依りて保護せられたり。例へばスカンチナヴェン、フリースランド、デイトマルシェン、シウイツの如き依然として古來の農民自由を失はざりし處にありては、農民は全く毅然として自覺ある古性格を持したるが、最古時代の粗厲野蠻も亦こゝに存したり。農民は屢其の權利獲得の爲めに社會競争に出でたるも、農民と領主との間に重大なる戰爭的階級競争の破裂となりたるは單に個々の場合に限られ、而して主として爾他の壓迫原因これに加りたる場合なりき、第九世紀の間サクセンに於けるシテリングルの反叛は佛蘭西の支配及び基督教に對する抗爭なり。

第十一世紀に於けるノルマンディーの農民對貴族競争は是れ暴戾なる外人支配に對する騷擾なり。千二百〇七年及び千二百三十年のシテディングン農民の一揆は是れ教會の統治と濫用とに對する抗争なり。千三百五十八年の佛蘭西の農民一揆(譯者曰、原文 Jacquerie は貴族に對する嘲笑名稱たる Jacques より來り、この騷擾の目的は貴族を擧げて剿滅せんことに在りき)、千三百八十一年「ワットタイラー」の卒むたる英蘭の農民一揆は主として君主及び地主に對する農民階級の兇惡なる抗争なり、而してこれ佛英戦争に關聯し農民が租税及び負擔を法外に誅求せられ貧民階級の地位が絶對絶命の危機に陥りたるに依れり。總じてこれ政治的及び教會的民衆憤懣の突發にして、幾分は隸屬關係、農民誅求、高率レントに對する抗争をも含めり。然れども千四百八十年乃至千五百三十年の農民騷擾の如く數十年に亘れる社會的騷亂に依りて準備せられたるものにあらざるなり。

事實は即ち歐羅巴の農民階級が六百年乃至千四百年の間に恐らく多少の技術的經濟的進歩を效したれども尙ほ上流階級と比して退歩し。今や古代の代表者となり、自由を失て將に國家との關係を離れ一地方的拘束状態に涸死せんとす

るに至れること是れなり。その全貧民階級然り全國民の四分の三乃至それ以上の部分を占むる階級は今や王家及び侯家、その臣僚、その官僚、教會及び僧侶階級即ち一言にしてこれを掩へば進歩を代表せる隆興階級と對立せり。これ等進歩階級の官職行使、その社會化せる高尚なる新活動は即ちこの新階級を發達せしめたる根本原因なり。大土地所有はこれか結果たり。政治上教會上經濟上の大功績は即ちこの新階級勃興の個々手段たり。

舊ゲルマン王國はゴートンより以てザクセン皇帝に至るまで本節の始めに掲げられたる如き原因に依りて勃興し、宛ながら馬上より戦争に依り且つは英雄主義に依りて統治し、大膽敢爲なる王族を發達せり。この王族は侵略及び土地沒收に依り、土地特權 (Bodenrecht) に依り、疆域管理に依りて忽ち廣大なる領地を獲得したり。而して抑々小農民の兵役義務が不可能となり、王家の宮廷官吏及び地方官吏(地方伯)并に臣僚及び騎士にベネフィチウムとして終身制に依り土地を賜與し、乃ち以て始めて王政の強固をなせることは、則ち王家をしてしかく廣大なる領土を把持せしめたる事情なり。これ等の官吏、臣僚、騎士はこのべ

ネフイチウムに對して王家に臣僚 (Vassals) としての忠勤を誓約せり。この廣大土地所有は國王及びその官職貴族より利用せられて以て大領地經濟を發展し (本譯補の第三冊 百〇四 參照) 而してこの領地經濟は技術上經濟上組織上分業上の進歩を意義せり。然るにベネフイチエンが世襲的となり、ベネフイチエン制度及び臣僚關係が封土制度と化し、官職と土地所有とは恰かも受領者の私法上の權利の如く不可離の關係をなすに至りたれば、セニオル、ヘルツォグ、グラフィフ、ビショップ、アプトは總じて高級の一貴族となり、幾ならずして王政に反抗せり。かくて數百年間統一政府は解體して國王と貴族との鬭争狀態を呈し、貴族はそれぞれ限局せる領域にあらゆる進歩を效し、獨逸にありては則ち千二百年乃至千五百年の間に諸侯となれり。帝國解體して領域團の發達せるものは是れなり。中部佛蘭西に於ては既に第十三世紀に、全佛蘭西にありては千五百年乃至千六百五十年の間に國王は貴族を統治し、英蘭に於てはノルマン王は獨立せる大貴族を現出せしめず、即ちその賜與せる封土を散在せしめ小領主を國王の直屬となすの方策をとれり。これを概觀するに諸國に於ける貴族發展の總現象

は社會的事實と言はんよりは寧ろ殆んど政治的事實に過ぎざりき。貴族の大領地は政治的原因と緣由し、根本的に小國家を發達せしむべき政治上の目的に對して手段となれり。

舊教教會及びこれが茫大領地に就ても王領と關係相等しく、領地經濟、臣僚關係及び封土制度を發達し、概して教會上教育上人道上の目的を實現すべき手段となれり。既に第八世紀に於て教會領は茫大領域を占め、爲めにカロリング朝はその大部分を俗化して國家及び軍事上の目的に供用せり。其後第十九世紀に及ぶまでこれに類せる事例隨處にこれあり。オートーネン治下の伊太利及び獨逸に於ける僧正はグラフの權利を賦與せられ、事務に熟達し唯々として皇帝に奉仕せり。貴族を發達せしめたるものは大所有にあらずし却て貴族の才幹能く大所有を領有するに至れりてよ主張 (これ「シュモラー」の殊に明かに主張する點にして、又現代に於ける資本の偉大なる権力と對比し抑大資本積集の由來に就て本末次第の判斷を誤らざらんことを重要となすの點なり) がかくも判然と事實に現はれたる場合は他に求む可らず。教會領域にありては僧侶階級は永く技術的

一八〇

進歩の代表者たり農民の爲めに親切なる領主たり、而して始めて都市の發展をも促進したり。皇帝と法王との間に確執を生じ、舊教教會は法王の政治的統治機關と化し、殿堂資本は徒らに僧輩の享樂手段と變ずるに及んで、こゝに始めて教會の大領地は大部分その内的意義を失墜し、而して第十五世紀の間に僧院及び教會の僧輩が甚しく墮落し、「ボルギアス」及び「メデイチス」の下に法王廳が徒らに美術を好愛し道徳及び宗教と何等の關係なき寡頭政的潛主政府と化するに至りて殊に然りとす。

俗界及び僧門の高級貴族の下に全歐羅巴を通じて舊國王の臣僚より騎士階級の發達あり、この騎士階級は舊國王の爲めに第八世紀乃至第十四世紀の間公戦及び私闘のことに任じたり。自由民及び隷屬民にしてこの名譽ある騎士階級に入れるものあり。こゝに騎士の位を目的とし一定進級制を備ふる騎士生活行程の發展あり、騎士は總じて統一的組織をなすに至れり。始めこの騎士はその主君の下主君の城砦の裡に生活し、若干の「フリーフェ」を封土として賜はり、舊時(第十三世紀に及ぶまで)にありては屢三乃至八「フリーフェ」以上を領有し、その采邑の内よ

一八一

り別に二三の騎士家僕を養ひたり。諸村落に騎士家族の居住せるもの多く、その多くは騎士たる以外に代官及び其他幾多收入ある官職に當れり。第十一世紀及び第十二世紀の間に騎士の封土は世襲的となりしが、第十二世紀及び第十三世紀の間は未だ一般には封鎖的騎士階級の發達に至らず、たゞ此の如き傾向あり個々の諸侯よりこれが發達を促進せられたるあるに過ぎず。隷屬民は尙ほ久しく騎士となれり。騎士は尙ほ農民の子女と結婚せり。朝に農圃を耕し午後には則ち騎馬演武し得るの原則は尙ほ一般に存在し、殊に都市民の子供にかくの如きもの多かりき。然るに千三百年以降始めて騎士は截然として世襲的一階級となり、根本的に農民の上に位し、低級貴族として取扱はれ、その結婚は騎士階級間に限り、その封土を誇り封土に對する義務を軽減せんことを力めたり。第十四世紀及び第十五世紀の間は騎士の數は尙ほ増加したるが、獨逸の西部及び南部にありては彼等は當時既にその本來の生活目的を失ひ若しくは傭兵となり。多くのものは貧困に陥り追剝の徒となれり。エルベ河以東に於ては騎士は尙ほ久しくその職業を保持し、この地方にては當初より一〇「フリーフェ」乃至それ以

上の大領域を有し、而して第十五世紀の間に既に農民となり庄屋となれり。これ人口稠密なる西部獨逸の舊文明領域には既に階級感情の發達あり抑土地缺乏せるが爲めに不可能なる現象たり。かくの如く騎士は八百年乃至千二百五十年の間に所有に就ては農民階級と著大の相異なきも名譽に關してこれが上に位せる一職業階級となり。その階級名譽その著大なる所有は千百五十年乃至千五百年の間に彼等をして一つの小貴族階級に向上せしめたり。然り而してその本來の職業は勃興し來れる傭兵階級の手に移れり。騎士が國務及び兵役に服せざる可らざる場合は、その封建的一地方行政、その收入若しくは自家農業が生計を維持すること能はざる限りに在り。多くの騎士は千四百年乃至千六百年の間に零落し、その大部分は最近時代まで存続したり。

たゞ單に騎士としての勤務の場合と同様に國王及び高級貴族の家職、官廷出仕及び官職奉仕も亦、獨逸に於て第十世紀乃至第十三世紀の間に幾多の有能なる隸屬民をして向上せしめたり。諸官省官吏これなり。此等官吏は自由封土官吏が既に獨立したりし時代に於て封建的有能官吏階級發展の端緒をなせるもの

なり。然れども第十三世紀乃至第十四世紀の間にこの官省官吏は騎士と等しく封土を賜はり、爾他騎士階級と差別なく、一般騎士階級と同じく一所有階級をなし低級貴族の一部を占むるに至れり。かくて第十四世紀乃至第十六世紀の間に之に代て任免期限あり自然物及び貨幣を支給せられたる官吏の發展あり。

國王、諸侯、俗界及僧界の高級貴族、騎士及び低級貴族、隸屬農民は總じて中世末葉にヒエラルヒー(譯者曰、これ第一冊に説明したる所、始め羅馬法王廳の教政組織に緣由せり、階級組織若しくは階級連鎖の意義—先きに單簡に統制の文字を當てたり)をなし、それぞれ下階級は其上階級に隸屬し、總じて土地貸與關係に依り並に官職及び勤務の義務に依り殊に統一的基督教的教會信仰に依りて連結したり。されば封建組織は封土法及び莊園法を基礎とし、乃ち以て當時の精神道徳的發達、その經濟關係、當代社會の政治上の目的に順應せる社會生活の一形式なり。教會上及び道徳上の水準は貴さと賤しきとに別なく同一なり。上流階級は所有よりは寧ろ權力を目的とし、屢粗野暴戾、而かも後代に於ける貨幣經濟時代の支配階級に觀るが如く貪慾の奴隸にあらず。外的經濟生活

上にありては騎士も農民もその間に甚しき懸隔なし。兩階級共に文字を解せず計理の能力もなし。現階級別は即ち神の攝理と觀念せられ種々雑多の家長制的關係に依り緩和せられたり。かゝる状態なりしに中流階級のものが封土及び官職の世襲と共に上流階級に服従を肯んぜざるに至り、上流階級が下層階級即ち農民を壓迫すること第十四五世紀の間に益々酷烈を加ふるに及んで、こゝに封建君主政は變じて封建的無政府状態を呈したり。これ即ち専恣なる一地方群小横暴者の割據なり。第十四世紀乃至第十八世紀の間に新君主政はこれ等割據せる群雄を征服し農民階級を保護せんことに努力せざる可らざりき。尙ほこれに就ては後段に論究する所あるべし。

都市は第十世紀乃至第十三世紀の間に田舎民人より發達したり(本譯補の第三冊九十七 參照)、これが發達を促進したるの力は人格の自由及び市場の新營利なり工業及び商業なりき。或は數個の田舎共同團體が合體して都市を發展したる場合あり、或は一莊園、一城下、一村の擴張して都市となる場合あり。其新舊住民は忽ちの間に封建主義の制限を脱し俱に共に合して市民階級となれ

り。都市の君主及び諸侯は屢特權を與へてこの運動を促進し、徒黨及び一揆(佛蘭西に於ける所謂コンミューネンの如き)も亦幾分新都市法、市會の自治權を遂行せしむる上に與て力あり。この運動は大體に於て平和に進行し、則ち都市は根本的に階級競争に依りて發達したり若しくは獨立自治體となれりと言ふも恐らく甚しき誇張にはあらずべし。新たに勃興せる都市内には嚴密なる意味の階級別(身分階級別)尙ほ未だ全く起らず、臣僚、騎士、自由市民及び商人、始めて開放せられたる農民及び無所有手工は尙ほ久しく相互に同列關係をなせり。伊太利は單に個々の高級貴族の發達したる國土なるが、その騎士は爾他國土に於けるより遙かに著しく都市に居住せり(譯者曰、伊太利にありては貴族と都市民との不和葛藤幸にして稀れに、貴族は平和に都市に居住したり、獨逸の事情の如きは則ち然らず)。然るに第十三世紀の間に始めて職業別及び所有差は都市人口を截然貴族(バトリチアアト即ちゲシニヒタル)及び爾他市民てふ二階級に分化せしめたり。所謂貴族とは騎士及び臣僚並に都市の大地主にして、所謂市民とは殊に手工業者なり、商人は幾分中間の地位を占め所謂市民階級に屬するも

のあり。商業益發展するに及び貴族も亦愈これに當るもの多し。市會は貴族の獨占する所、貴族は獨り家長制的に行政を處理し頗る専恣に斷行せり。所謂市民は市會を信任し、唯々としてこれに服従したり。蓋し市民は都市の利益を促進する上に都市の君主及び諸侯の官吏に勝りたればなり、而して市會が屢準備正的若しくは地主的權利をも行使したるは言を須たず。伊太利に於てはホーヘンシュタッフ家は皇帝直屬の官吏即ちボデスタスに依りて都市の統治を執行せしめんと計畫したるがこの官職は持續すること能はざりき。獨逸にありては抑市會統治に對する手工組合及び低級市民の怨恨ありて以て都市の僧正と連絡したるの實例隨處にこれあり(千二百五十八年に於けるキルン、千二百六十六年に於けるシトラースブルヒの如き然り)。

さて第十三世紀以降の都市階級史は總じて都市が理智ある強大統治權に支配せられたるか否かの問題に繋かれり。伊太利及び獨逸は大體に於てこの點に缺け、反之英蘭、佛蘭西、フランドルはその間に差別こそあれ概して統治その宜しきを得たり。國王及び政府、諸侯及び都市の君主が都市を管轄したる場合に

は、都市と田舎との野蠻なる階級競争並に市民と僧侶との間貴族と手工組合との間市會議員と普通市民との間富豪と貧民との間に反覆勃發せる塵滅的競争は依て以て禁止せられたり。凡そ此等の衝突は都市組織並に所有の問題に關し、政府がこれに干渉調停せざる場合には則ち延いて階級競争を醸したり。

伊太利にありては方伯の權利は僧正に移りて夙に小領域と完全なる獨立自由權とを備ふる嚴密なる意味の都市國家を發達し、千百五十年乃至千五百年の間に經濟上及び其他の高尚なる都市文明を發展せり。然れども諸市の間に商業政策上の競争絶えず、都市の内部には貴族の間に黨派上都市組織上及び階級上の競争止まず、剩へありとあらゆる私闘は殘虐なる過程を現じ放逐沒收に訴へ法律の變更始んど年々に起りてさながら古代都市の状態を回想せしむるものあり。これが究竟の結果は既に業に十三世紀より概して軍支揮官大富豪僧門貴族の暴戾なる虐政となり、而して遂に第十五世紀末より第十九世に及ぶまで伊太利をして外國の羈絆に隷屬せしめたり。この天然の美國たる伊太利の暴政と千五百年乃至千八百年の間に亘れる貧民階級の壓迫沈淪とは抑千二百年乃至千五百年

の間に伊太利の全運命が階級競争一揆革命將た殘虐政治の爲めに犠牲に供せられたりし餘響なり。

伊太利のこの惡例と全く反對せるものは英蘭の歴史なり。英蘭の軍制的ノルマン君主制は一切階級をその強政府の下に服従せしめ、諸市は決して伊太利及び獨逸に於けるが如き獨立權を有せず、都市は地方城下に外ならず而して地方に都市戦争手工組合革命及び貴族の反動は毫もこれなかりき。都市と田舎とは決して截然分離せることなし、國王はあらゆる特許狀を發して夙に都市の爲めに便宜を計り、既に第十三世紀に伯爵領たる百六十の都市は共同して議會に方伯代議士を出し、幾ならずしてこの方伯代議士と共に共同的國家的經濟政策を行へり。法律及び租税の平等あり、一切の身分階級は夙に國王の任命せる裁判官に服従し、都市貴族と田舎貴族との間に融和ありたれば、英蘭は以て幾多無用の社會的軋轢を免かれたり。

獨逸にありては都市は領域團に膨脹せんとするの計畫に於て多く成效せず、幾分ながら國王及び諸侯に對し隸屬の貌を脱せざりしが。自由都市及び普通の

帝國都市即ち所謂 *Civitates mixtae* 及び多くの田舎大都市は尙ほ政治上並に經濟上に較著なる獨立權を獲得したり。帝國直領都市及びハンザ諸市は久しく自由同盟權を有し、聯邦と同様に宣戰媾和の權を有したり、都市と低級貴族並に諸侯との間の經濟的利害衝突は愈劇甚を加へ、その結果主として千三百八十六年乃至八十八年、千四百四十六年乃至五十年に破壊的戦争の勃發となれり。國王の力は此二大社會群に對し平和と正當なる仲裁宣言とを下さんには餘りに微弱なりき。何れの黨派も決定的勝利を擧ぐることは能はず、たゞ以て相互に出來得る限り障害を加へんとしたるのみ。騎士は盜賊となりて商人群を待伏し、開戦せる都市も亦屢掠奪隊となりて田舎を劫掠し、而して低廉なる生活資料を都市に輸し得ば則ち快哉を叫びたり。諸市の同盟はその力能く同盟的大都市政策を施行するの運に至らざりき。これ夙に既にハンザ同盟の證明する所たり。對外部市政策は常に近視眼的にして薄弱に、諸侯は千三百八十九年將た又千四百五十年に既に勝を制したり。宗教改革時代に至りても尙ほ都市政策は近視眼的なるを免かれざりき。諸侯の勝利は則ち千四百年乃至千八百年の間に漸次に都市の